

ダイレクト工房

操作マニュアル



ジャストウェア株式会社

CONTENTS

目次

はじめに

パッケージの内容	はじめに-1
動作環境	はじめに-1
セットアップ	はじめに-2
ハード ID キーに関する説明（トラブルシューティング）	はじめに-3
注意事項	はじめに-9
システム情報に関して	はじめに-10

第 1 部 フォーマット作成

フォーマット作成とは	10
機能	11
画面の構成	13
アイテムの種類とその設定方法	14
アイテムの分割	15
属性	15
アイテムの設定モード	16
アイテム設定ボタン	16
フォーマットの作成 Part1	25
印刷サイズの設定	25
データベースの設定	26
罫線・枠の設定	27
文字列の設定（固定）	28
文字列の設定（入力）	29
連番の設定	31
バーコードの設定	32
図形の設定	33
日付と時刻の設定	34
関数の設定	35
フォーマットの保存	37
フォーマットの作成 Part2	38
賞味期限を印字させる場合 1	39
長い文字列を分割して印字する場合	41
図形の設定（データベースに登録されている場合）	43
個数を印字したい場合（ケース入数、箱入数など）	44
印刷時の履歴を取りたい場合	45
データベースから他のデータベースを参照する場合	47
4 つ以上のデータベースからデータを入力したい場合	49

条件によりアイテムを選択して印字したい場合 1	50
条件によりアイテムを選択して印字したい場合 2	52

第 2 部 データベース管理

データベースとは	56
画面の構成	57
データベースの設定方法	59
リスト画面の操作方法	63
画面のスクロール	63
グループの選択	64
アイテムとデータ項目の追加と変更	64
データの入力と変更	65
ファイル名参照入力	65
データ項目の移動	65
テキストファイルに書出す・読込む	66
テキスト区切りの設定	66
テキストファイルに書出す	67
テキストファイルを読込む	67
「データベース優先印刷」用データベースの設定方法	68
ベースフォーマットの設定	68
アイテムごとにフォーマットが違ふ場合	69
外部データベースのアクセス方法	70
ODBC のデータソース名を登録する方法	70
「データベース管理」で外部データベースを読込む場合	72

第 3 部 印刷

印刷について	76
画面の構成	77
メニューに関する説明	78
操作方法（一般）	84
レイアウト画面／リスト画面	84
レイアウト表示の拡大・縮小	84
レイアウト画面でのデータ入力、変更方法	85
リスト画面でのデータ入力、変更方法	85
データベースから呼出	85
データベースからダイレクト印刷	87
バッチ印刷における操作方法	89
J T 5000 用ファイル出力方法	90

第 4 部 バッチデータ管理

バッチデータ管理について	92
画面の構成	93
操作方法・その他設定	94
データ項目に関する情報	94
初期設定	95
印刷時表示状態の設定	96
列順移動	96

第 5 部 履歴データ管理

履歴データ管理	98
履歴ファイルの新規作成	99
(外部データベースに登録する)	99
(テキストファイルに登録する)	100
データ項目の設定	101
データ集計画面と分析について	102
集計範囲の設定	102
並び替え	102
明細合計表示	103

付 録 ダイレクト裏工房

ダイレクト裏工房とは	106
ダイレクト裏工房の呼び出す方法	106
項目説明	107
印刷終了の確認方法	108
ポーリング自動印刷方式	108
異常が発生した場合	108
データファイルのデータ構造	109
データファイルに埋め込むコマンド	110
「ダイレクト裏工房」を呼び出すプログラムのサンプル	111
「ダイレクト裏工房」印刷状況の監視	112
「ダイレクト裏工房」が提供する API 関数	112
データベース自動取込設定	113

CCD

CCD コード対応フォーマットの作成	CCD-1
CCD-DATES の設定	CCD-4

はじめに

この度は、アプリケーションソフト「ダイレクト工房」をお買い上げ頂きありがとうございました。「ダイレクト工房」は、Windows XP、Vista、Windows 7 および 8/8.1 に対応した汎用プリントシステムです。本書では、「ダイレクト工房」の導入や各プログラムの使い方について説明しています。「ダイレクト工房」の機能、操作、設定方法をご理解いただくために、ご使用前には必ず本書をよくお読みください。本書が皆様のお役に立つことを願っております。

ご注意：

1. このソフトウェアに重大な^{かし}瑕疵が発見された場合は、無償で交換します。
2. このソフトウェア及びマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますので、ご了承下さい。
3. このソフトウェアの仕様、及びマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. このソフトウェアを利用するには、ID キーが必要です。ID キーについてはP2の「ハード ID キーに関する説明」をご覧ください。

パッケージの内容

「ダイレクト工房」のパッケージの内容は以下の通りですので、ご確認ください。

- ・「ダイレクト工房」セットアップ CD-ROM 1 枚と USB タイプ ID キー 1 個
(但し、USB タイプの ID キーが使用できない PC の場合、無償で LPT タイプに交換します。)
- ・操作マニュアル 1 冊
- ・ユーザー登録カード 1 枚

動作環境

- ・対応機種：DOS/V PC (デスクトップパソコンとノートパソコン)
- ・CPU：Pentium 100MHz 以上
- ・OS：WindowsXP、Vista、Windows7、8/8.1
- ・メモリ：128MB 以上
- ・ディスプレイ：Windows 対応のカラーディスプレイ (解像度 800×600 以上 推奨)
- ・ドライブ：USB インターフェース、または LPT (プリンタポート) 1 個以上、CD-ROM ドライブ 1 基以上

はじめに

- ・ハードディスク：空き容量100MB以上
- ・マウス：Windows 対応マウス
- ・日本語 FEP：Windows 対応の日本語変換システム
- ・プリンタ：(株)シンメイ製プリンタ CPS-Pro シリーズ (E 版、S 版、U 版)、(株)シンメイ製プリンタ SCS4 シリーズ (EW 版、SW 版) 及び Windows 対応の汎用プリンタ (プロ版のみ) プリンタ設定の際は各プリンタの取り扱い説明書をお読みください。

セットアップ (Windows XP/Vista/ 7/8/8.1)

1. 必ず「ダイレクト工房」をパソコンにインストールしてから USB キー (または LTP キー) をパソコンに挿入してください。
2. お使いのパソコンで Windows XP/Vista/7/8/8.1 を起動します。
3. 「ダイレクト工房」のセットアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。
4. 「エクスプローラ」から CD-ROM ドライブを開き、「Setup.exe」をダブルクリックして実行します。
5. ID キーの上書いてある「ユーザーID」を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。
6. 「インストール先のディレクトリ名」を入力します。デフォルトは「c:\¥ DrKoubou」(S 版) になります。(E 版:DrKoubouE、EW 版:DrKoubouEW、SW 版:DrKoubouSW、U 版:DrKoubouU)
7. 「次へ」ボタンをクリックすると、インストールが始まります※¹。
8. インストールが終了したら、「完了」ボタンをクリックします。「スタート」→「プログラム」の中に「ダイレクト工房」のメニューが登録され、その中に「アンインストール」、「フォーマット作成」、「データベース管理」、「印刷」、「バッチデータ管理」、「履歴データ管理」、「ダイレクト裏工房」の7つのメニューが登録されます。

(※¹) Vista 以降 8/8.1 まではラベル博士のヘルプを参照する為に WinHlp32.exe をインストールする必要があります。ダイレクト工房インストール時に Vista、7、8/8.1 では自動で WinHlp32.exe をインストールするための更新ファイルのインストールダイアログが表示されますので、併せてインストールしてください。

ハード ID キーに関する説明とトラブルシューティング

ID キーとは、「ダイレクト工房」をご利用頂く為のライセンスです。ID キーがなければソフトを利用することはできません。

ハード ID キーは USB タイプと LPT タイプの二種類あります。USB タイプはパソコンの USB ポートに差し込んで使い、LPT タイプはパソコンのプリンタポートに差し込んで使います。出荷時に USB タイプの ID キーを同梱しています。お使いのパソコンに USB ポートが無い場合は、販売代理店を通じて LPT タイプの ID キーに無償で交換します。※LPT タイプは 32bit 環境のみ可。P7 の●ハード ID キーの使い方に関する注意事項を必ずお読みください。



USBポートに接続タイプ（USB タイプ）



プリンタポートに接続タイプ（LPT タイプ）

● ID キードライバのインストール

ドライバは、「ダイレクト工房」をインストールする際に自動的にインストールされます。
必ず「ダイレクト工房」をインストールした後に ID キーをポートへ差し込んで下さい。
インストール前に ID キーをポートに差し込むと、ドライバがうまくインストールできない場合があります。その場合は、手動で ID キードライバのインストールする必要があります。

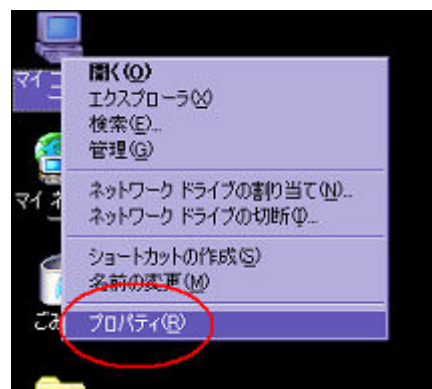
● ID キートラブルシューティング

◇ ID キーを差していても、「ダイレクト工房」を起動すると ID キーファイルが見つからない、とメッセージが出てしまう場合...

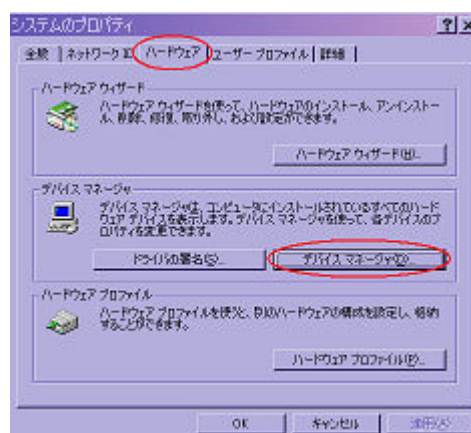
◆ ID キードライバが正しくインストールされているか確認します

1. Windows XP の場合

①「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。



② システムのプロパティにある「ハードウェア」をクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。



はじめに

③ USB の場合

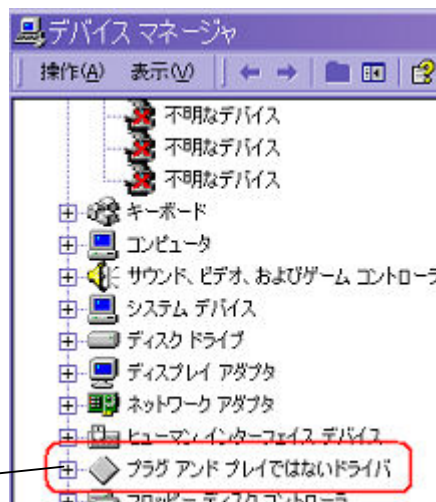
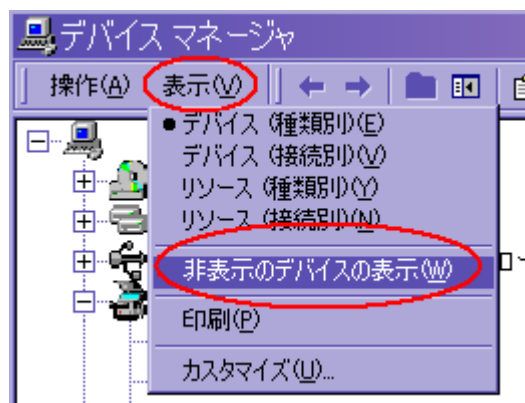
デバイスマネージャにある「USB (Universal Serial Bus)コントローラ」をクリックし、**SenseLock USB Lock**があり、更に何のマークも付いていなければ、キードライバが正常にインストールされていることになります。



*SenseLock USB Dongle v1.7x と表示される場合もあります。

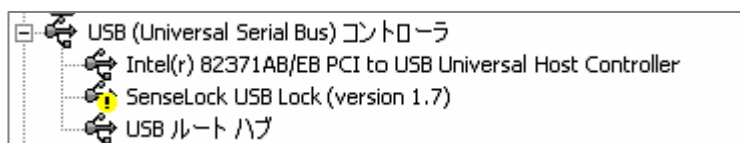
LPT の場合

デバイスマネージャにある「表示」をクリックして「非表示のデバイスの表示」をクリックします。「プラグアンドプレイではないドライバ」をクリックし、「Sense3」に何のマークも付いていなければキードライバが正常にインストールされていることになります。



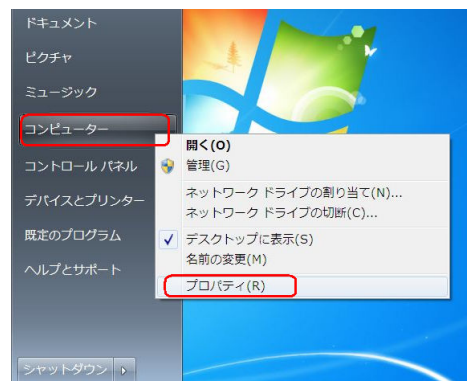
※ SenseLock USB Lock、または Sense3 に「**!**」マーク、(version1.7、または 1.74) と表示が出ている場合は、ドライバのインストールが正常ではありません。

ドライバの更新、または手動インストールをしてください。(P.6参照)

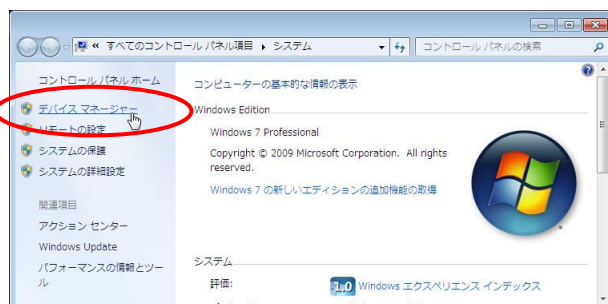


2. Windows Vista/ 7/ 8/ 10 の場合
 (青色 USB キー32bit 環境)

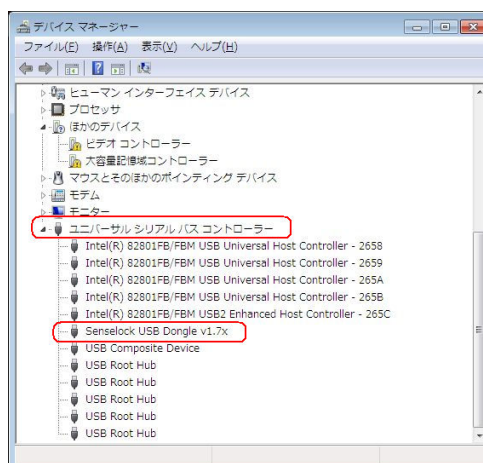
①「マイコンピュータ」を右クリックして
 「プロパティ」をクリックします。



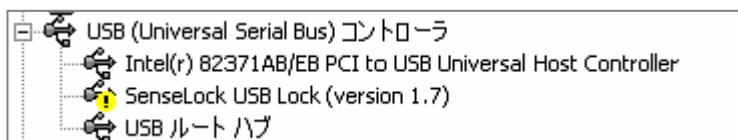
②システムのメニューから「デバイスマネージャ」をクリックします。



③デバイスマネージャにある「ユニバーサル シリアル バス コントローラ」をクリックし SenseLock USB Dongle があり、更に何のマークも付いていなければ、キードライバが正常にインストールされていることとなります。



※ SenseLock USB Lock、または Sense3 に「!」マーク、(version1.7、または 1.74) と表示が出ている場合は、ドライバのインストールが正常ではありません。ドライバの更新、または手動インストールをしてください。(P.6 参照)



はじめに

3. Windows Vista/ 7/ 8/ 8.1 の場合（緑色 USB キー 32bit/64bit 環境）

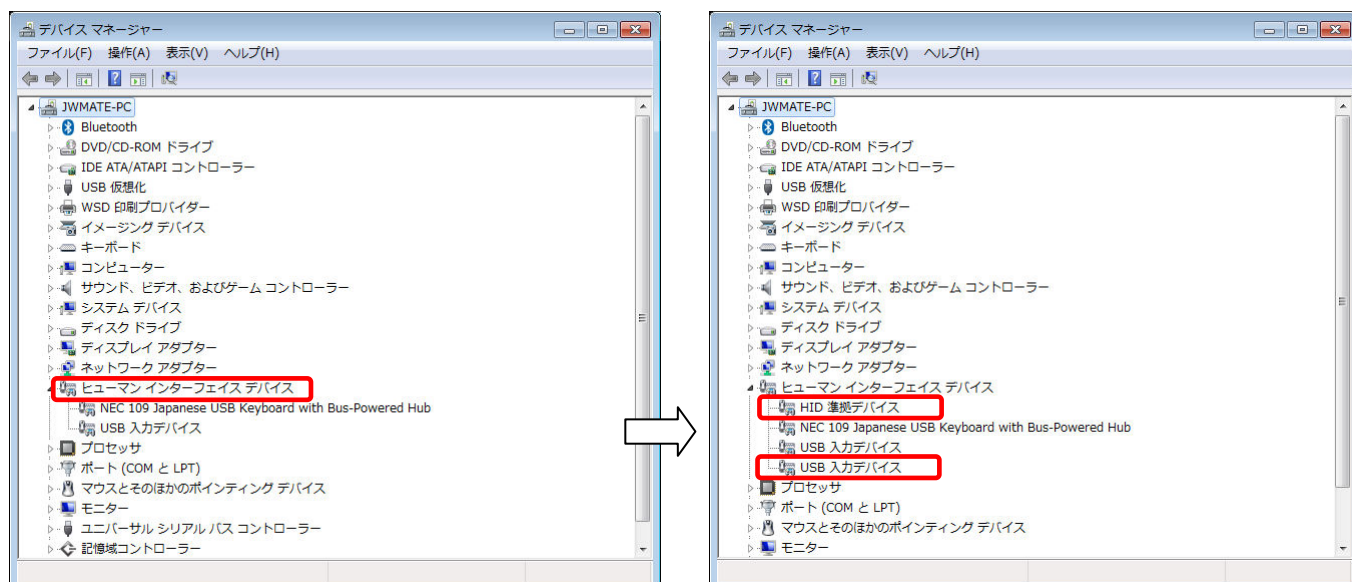


緑色の USB キー（64bit 環境対応）では、**ヒューマンインターフェイスデバイス**として認識されます。Windows 標準のドライバにて認識されます。

上記「1. Windows Vista/ 7/ 8/ 8.1 の場合（青色 USB キー 32bit 環境）」の①、②の手順で「デバイスマネージャ」を開き、「ヒューマン インターフェイス デバイス」をクリックします。

USB キーを USB ポートに挿入している状態では、「HID 準拠デバイス」と「USB 入力デバイス」が表示されます。

※ USB キーボードやマウスなどが接続されている場合、複数表示されている場合があります。USB キーを抜いた状態、挿入した状態でデバイスマネージャ内の表示が変われば、認識されている状態です。



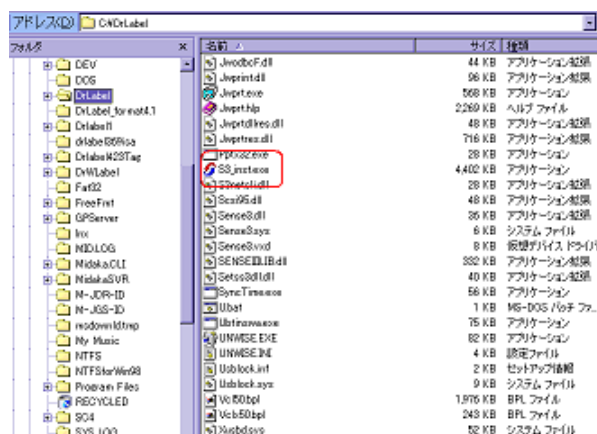
ヒューマンインターフェイスデバイスを開き、USB キーを挿入して「HID 準拠デバイス」と「USB 入力デバイス」が新たに表示されると、認識されている状態です。

● ID キードライバの更新と手動インストール

ID キーを「ダイレクト工房」のインストールする前にポートに差し込むと、ID キードライバがうまくインストールできない場合があります。また、パソコン機種や OS タイプによって自動インストールがうまく行かない場合もあります。そのような場合、ID キーを一旦ポートから抜いてから、手動で ID キードライバをインストールする必要があります。手動インストールの手順は次の通りです。

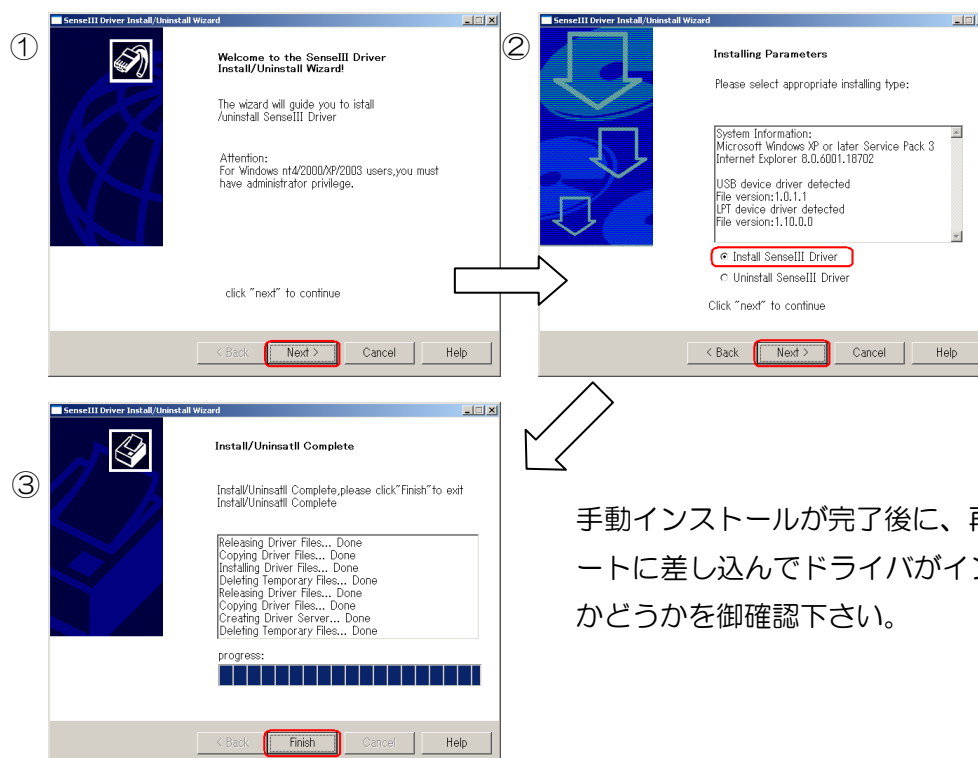
一 手動インストーラー

- ①「エクスプローラ」を起動し、「ダイレクト工房」がインストールされているフォルダを開きます。



- ②そのフォルダー内にあるプログラム「S3_inst.exe」をダブルクリックします。「SenseIII Driver Install/Uninstall Wizard」が表示されます。

- ③「Next」ボタンをクリックし、次の画面で「Install SenseIII Driver」が選択されているのを確認して「Next」をクリックします。プログレスバーが進み、「Install/Uninstall Complete」の表示が出て、中央のダイアログ中に「error」表示が無ければドライバがインストールできました。「Finish」ボタンをクリックして終了します。何秒か経つとまた元の形に戻ります。インストールが完了します。



手動インストールが完了後に、再度 ID キーをポートに差し込んでドライバがインストールされたかどうかを御確認下さい。

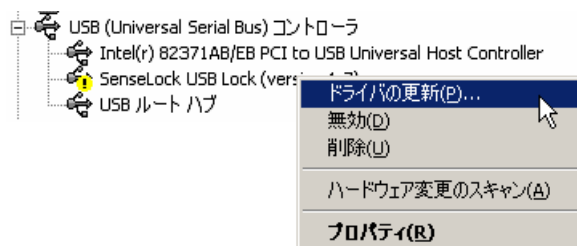
はじめに

ードライバの更新ー

デバイスマネージャで SenseLock USB Lock、または Sense3 に「**!**」マーク、(version1.7、または 1.74) と表示が出ている場合は、その上で右クリックをしてドライバの更新を選択します。

「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択して進み、「完了」で更新が終わります。

手動インストール、更新が完了後に、再度 ID キーをポートに差し込んでドライバがインストールされたかどうかを御確認下さい。



● ハード ID キーの使い方に関する注意事項（お読みください！）

1. ノートパソコンがスタンバイ/サスペンドモードに入ると、ID キーの電源も切られてしまい、通常モードに戻っても ID キーが正常に動作しない場合があります。この問題を回避する方法が二つあります。一つは、ノートパソコンの電源設定にスタンバイ/サスペンドモードを無効に設定する方法です。もう一つは、スタンバイ/サスペンドモードから通常モードに戻った後に、ID キーを一旦抜いてから再度差し込む方法です。
2. 「ダイレクト工房」を使う時は、必ず ID キーをパソコンのポートに差し込んでから、「ダイレクト工房」を起動して下さい。もし ID キーを差し込まない状態で「ダイレクト工房」を使用すると、10日間後に印刷ができなくなりますのでご注意ください。ID キーを付けずに印刷ができる日数は累計10日間です。
3. ID キーの品質不良、寿命切れ又は自然災害によって壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ無償で交換します。それ以外の原因で壊れた場合、壊れた ID キーを弊社にご返送いただければ、新しい ID キーを再発行します。但しこの場合は実費をお支払いいただくこととなりますので、ご了承下さい。尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。
4. ID キーは「ダイレクト工房」の使用権利なので、紛失しないように大事に管理してください。万が一紛失した場合は、紛失届を記入し使用部署の印鑑を押して販売店に提出し、再発行の申請を行って下さい。但しこの場合、**ライセンスの追加販売**となり、有償となりますのでご了承下さい。（上記 3. の通り破損の場合でも返却不可能な場合にはこの項目が適用されますので、破損の場合も必ずご返送してください。）尚、詳細は販売店へお問合せ下さい。
5. ID キーの再発行、バージョンアップ、技術サポートの際には、弊社への**ユーザー登録が必要**となります。商品に同封されている「登録カード」のハガキを**必ずご返送ください**。ご返送ない場合での上記サービスのご対応は致しかねることがございます。

注意事項

1. 印刷をする前に、プリンタの種類を選択し、設定しなければなりません。
「印刷」を起動し、メニューの「(3) 設定」→「(B) 発行条件設定...」→「プリンタ種類」を選択し、→「プリンタ設定」から行います。
2. WINDOWS XP SP2 以降でプリンタを接続する場合、通信エラーが発生し、PING コマンドが正常な場合は、ファイアウォールの設定を確認して下さい。「スタート」⇒「設定」⇒「コントロールパネル」を開き、WINDOWS ファイアウォールを W クリックします。ダイアログボックスが表示され、中の例外タブを選択します。プログラムおよびサービスの一覧の中で、

はじめに

Jwpprt.exe と Jwbpr.exe にチェックを必ず入れます。チェックが外れている場合は通信が出来なくなります

6. ウィルスソフトの設定などによりプリンタとの通信ができない場合があります。ウィルスソフト起動中の発行操作で通信エラーなどが発生する場合は、一旦ウィルスソフトを終了した状態で動作確認を行ってください。ウィルスソフトの例外設定などは、各ソフトウェアの取り扱い説明書をご参照の上、設定を行ってください。

システム情報に関して

プログラム「印刷」のメニュー「(F)ヘルプ」のサブメニューに「(D)システム情報」があります。クリックすると、現在のシステム状況が表示されます。セットアップが終了したら、必ずここで、システムの状況が正しいか確認して下さい。

① プリンタ・タイプ

現在選択してあるプリンタが表示されます。プリンタの種類によって情報が変わります。

② ウィンドウズ・タイプ

自動判別された OS が表示されます。Windows98 の場合、Windows98 と表示されます。

③ プリンタ・ID 番号

「ダイレクト工房」側に設定したプリンタ ID を表示します。この ID 番号がプリンタ側の設定と一致しないと、印刷はできません。

④ プリンタ連鎖状態

パソコンに繋がっているプリンタの番号を表示します。

⑤ ユーザー ID 番号

ハード ID キーの ID 番号を表示します。ハード ID キーがパソコンに取り付けられていない場合は、「No User's ID」と表示されます。この状態は印刷できません。ここからハード ID キーが正しく取り付けられているかどうかを確認することができます。

第 1 部

フォーマット作成

印刷をする前に、まずフォーマットを作成しなければなりません。
イラスト・ロゴの挿入、多彩なフォントでアウトラインもかけられ、
自由にフォーマット編集が出来ます。
ここでは、実際にフォーマット作成して、いろいろな機能について紹介
していきます。

*ダイレクト工房 各エディションにより、デフォルトルートパス
は以下のようになります。

S 版	C:\¥DrKoubou
SW 版	C:\¥DrKoubouSW
E 版	C:\¥DrKoubouE
EW 版	C:\¥DrKoubouEW
U 版	C:\¥DrKoubouU

フォーマット作成とは

フォーマットとは、袋に何を（内容）、どの様に（方式）印字するか、また印字内容がどの様に変わるか（属性）を決めるものです。

フォーマットとは、印刷時に必要な制御情報を全て含めるので、印刷する前にまずフォーマットを作成しなければなりません。

属性の情報をフォーマットに取り入れることで、印刷する際、自由に柔軟性のある、異なる内容のを印刷することができます。

GCDデータ情報:	
123456789012	
2006-10-02 08:20:05	
	
変更したデータ:	
日付:	06.10.02
賞味期限:	06.10.16
入力項目:	
産卵日:	06/10/02
産卵場所:	健やか牧場



品番	あいうえおあいうえお		
略名	ABCDEFGHIJKLMNQRST	収支	A
予定数	12345678	数量	12
出庫支給日	1999年03月24日	ピッキングNO	12345678
相手先	12	親品番	



機 能

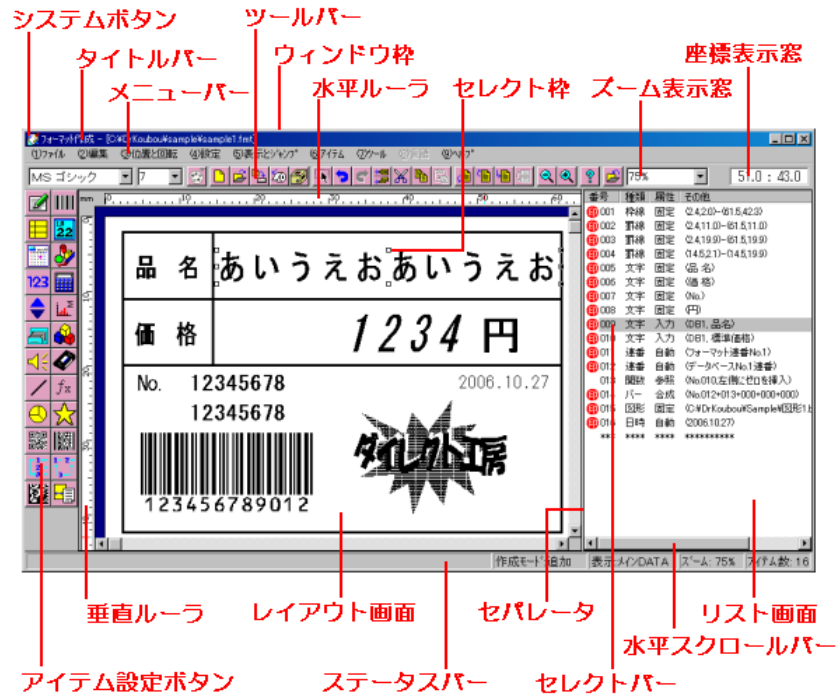
【ダイレクト工房】は、印刷の汎用性や柔軟性、自動性を実現する為に、以下に示す様々な機能を提供しています。これらの機能を組み合わせる事によって、ユーザーの独特なニーズを満たす印刷が可能です。ダイレクト工房 エディションにより、提供される機能が異なります。

- 「入力機能」 印刷の時キーボードから入力する事や、データベースファイルからデータを読み出して印字する事ができます。(E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。)
- 「参照機能」 あるアイテムが、他のアイテムを参照し、その参照されたアイテムのデータをコピーして印字する事ができます。
- 「合成機能」 幾つかのアイテムのデータを組み合わせて印字する事ができます。
- 「図形機能」 事前に作成した図形や、ロゴ、特殊記号などを印字する事ができます。
- 「連番機能」 3種類の連番をサポートします。
 グローバル連番.....全てのフォーマットやデータベースのアイテムが、共通して使う連番。
 フォーマット連番...各フォーマットがそれぞれ独自の連番を持ち、別のフォーマットには、影響されません。
 データベース連番...データベースの中にある連番。
 プリンタ内蔵のロット番号 (JTP5000 専用)
- 「演算機能」 2つのアイテムのデータを演算して、演算の結果を印字する事ができます。(E、EW 版では対応していません。)
- 「集計機能」 あるアイテムのデータを集計して、集計の結果を印字する事ができます。(E、EW 版では対応していません。)
- 「日付時刻機能」 日付と時刻を自動的に印字する事ができ、印字の形式を自由に設定する事ができます。
- 「有効期限」 有効期限を指定すれば、期限になる日付や時刻を自動的に計算して、印字する事ができます。例 : 3日間と設定すれば、3日後の日付が印字されます。

- 「履歴記憶機能」 必要に応じて、印字したデータの履歴を残す事ができます。
(E、EW 版では対応していません。)
- 「バーコード機能」 現在よく使われているバーコードを印字する事ができます。
- 「挿入機能」 フィードしている間に、別の異なる DATA を割り込ませ、印刷する事ができます。(E、EW 版では対応していません。)
- 「データベース機能」 1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルからデータを呼び出して印字する事ができます。(E、EW 版では対応していません。)
- 「条件参照機能」 1つのフォーマット内で条件を設定し、その条件により異なるアイテムを参照し印字内容を変更することができます。(E、EW 版では対応していません。)


画面の構成

【図2 - 1】 (S,SW 版イメージ)



ズーム表示窓：ズームを設定します。直接値を入力するか、一覧から選択して設定します。この値はフォーマット保存時に記憶されるので、印刷時に同じサイズで表示されます。全体表示はウィンドウサイズに自動で合わせて、レイアウトの全体を表示します。

アイテム設定ボタン：アイテム設定ボタンをクリックすると、マウスポインタの形が変わります。アイテムをクリックしてから、レイアウト画面に移動してクリックすると設定画面が開かれ、位置が自動的に設定されます。詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次]「アイテム種類とその設定方法」をご参照下さい。

リスト画面：設定したアイテムの属性、印字内容・方法などの情報を表示する画面です。右の図の  印がセレクトバーです。リスト画面からアイテムを選択、削除したり、[バックスペース](#)²にコピーしたりする事ができます。詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次]「リスト画面における操作方法」をご参照下さい。

番号	種類	属性
001	枠線	固定
002	罫線	固定
003	罫線	固定
004	罫線	固定
005	文字	固定
006	文字	固定
007	文字	固定
008	文字	固定
009	文字	入力
010	文字	入力
011	連番	自動
012	連番	自動

レイアウト画面：印刷デザインを表示する画面です。デザインの確認やアイテムを設定したり、移動・コピー・削除する事もできます。詳しい説明は[ヘルプ]メニューの[目次] [レイアウト画面における操作方法]をご参照下さい。

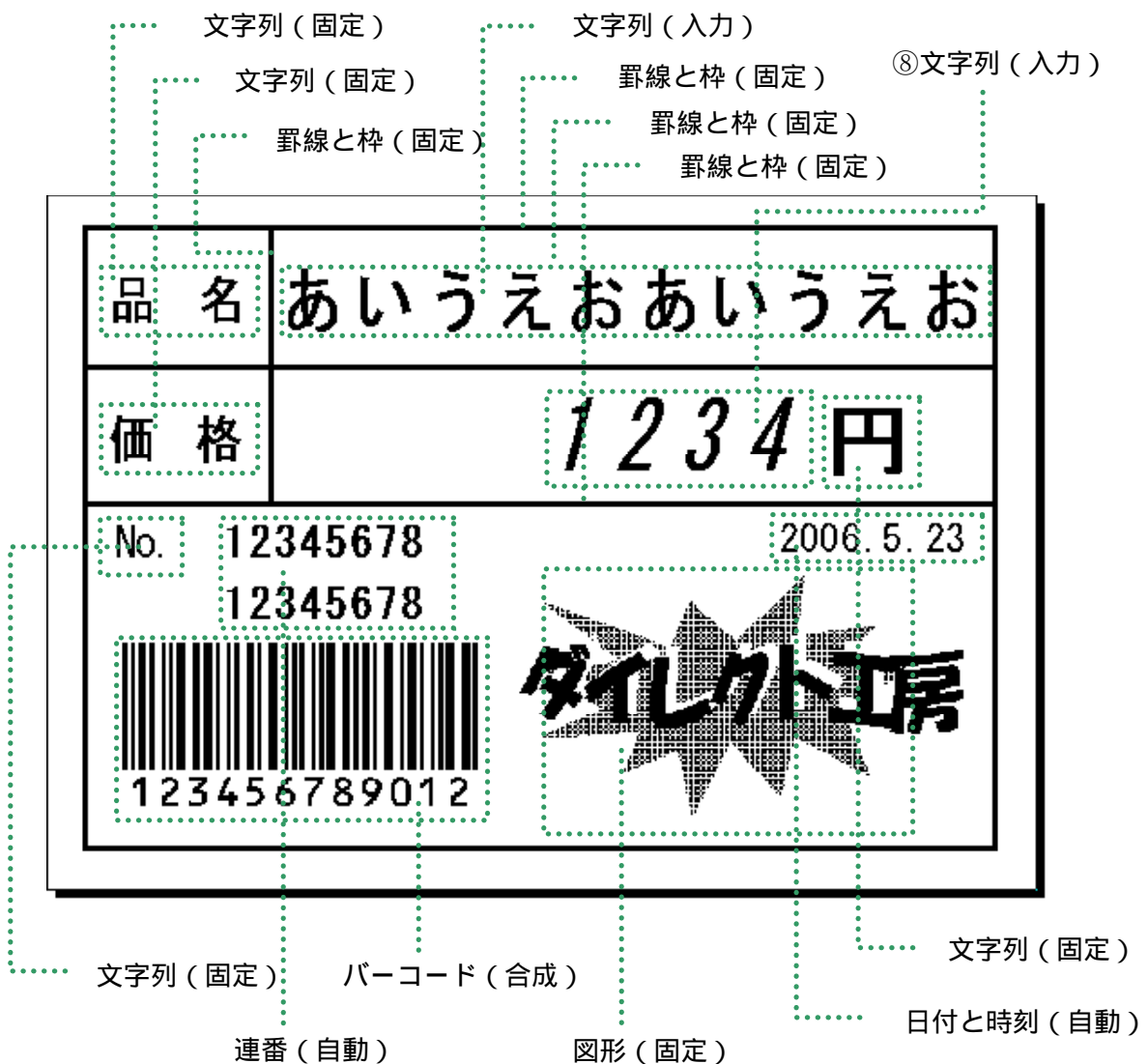


² 一時的にデータを保存する記憶装置

アイテムの種類とその設定方法

フォーマット（印字内容）を構成するとは、それぞれ異なる内容や方式、また属性に対し、アイテムと呼ばれる「文字列」、「罫線と枠」、「バーコード」等（下の図 ~ 参照）を使って設定する事です。下の図は、 ~ のアイテムで分割し、設定されています。その横には名称と属性を示しています。

【図 2 - 2】 (C:¥DrKoubou¥Sample1.fmt)



アイテムの分割

フォーマット作成とは、先にもご説明しましたが、アイテムを設定する事です。重要なのは、どの様に印刷のデザインを印字エリア（アイテムを表示、設定できるエリア）に分割するかと言う事です。分割の主な基準は次のようになります。

- 1 . どのアイテムを使って表現するか、種類別に分割します。
例：「文字列」「バーコード」「図形」「日付」等
- 2 . 同じアイテムでも属性別に分割します。
例：【図 2 - 2】の と は同じ文字列ですが、「固定」と「入力」で分割します。
- 3 . 同じアイテム・同じ属性でも印字の内容（項目）によって分割します。
例：【図 2 - 2】の と には、同じデータベース（「商品 DB.dbs」ファイル）から取り出して印字させる設定になっていますが、取出す項目が「品名」と「価格」では違う為、分割します。（ E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。）
- 4 . 印字方式によって分割します。
例：同じ固定の文字列でも、印字位置やフォントの大きさ、印字角度等の違いによって分割します。
- 5 . 特殊処理によって分割します。
例：あるアイテムの演算結果や、関数処理によって、別のアイテムの設定が必要な場合に分割します。

属 性

属性には「固定」「入力」「参照」「合成」の 4 つが有ります。

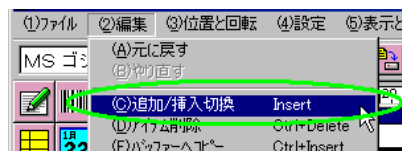
- 「固定」 常に変わらないものに設定します。（文字、テキスト、タイトルなど）
- 「入力」 印刷の時キーボードから入力する場合、又は登録されているデータベースファイルからデータを読み出し入力する場合などに設定します。（ E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。）
- 「参照」 入力設定したアイテムを 2 ヶ所印字する場合、又は他のアイテムの一部分だけコピーして印字する場合に設定します。
- 「合成」 いくつかのアイテムを組合せて印字する場合に設定します。

アイテムの設定モード

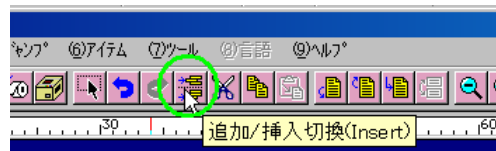
アイテムを設定する順番は、とても重要になります。これは、印刷する時にフォーマットに設定した順番で順次処理をする為です。

新しいアイテムの設定には、「追加モード」と「挿入モード」の2つの設定モードがあります。「追加モード」は、設定した新しいアイテムがアイテムリスト（リスト画面）の最後に追加されます。「挿入モード」では、選択したアイテムの前に挿入されます。

「追加モード」と「挿入モード」の切替は、メニューバーの「(2) 編集」から、「(C) 追加 / 挿入切替」をクリックする方法と、



ツールバーの「追加 / 挿入切替」ボタンをクリックする方法があります。



アイテム設定ボタン

(ダイレクト工房エディションにより異なります)



文字列

最もよく使われるのがこの「文字列」アイテムです。印字されるテキストやタイトル、文字や文章など、ほとんどは「文字列」によって設定されます。



バーコード

バーコードを印字したい場合、このアイテムを選択します。



罫線と枠

罫線（縦線、横線）、枠（長方形）を書きたい場合、印字エリアを塗りつぶしたい場合に設定します。



日付と時刻

印刷時に、自動でリアルタイムの日付と時刻を印字する事ができます。



有効期限

印刷時に、指定した有効期限によってリアルタイムに期限切れの日付と時刻を自動印字する事ができます。過去（マイナス）や将来の有効期限の指定も可能です。



図形

図面、写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字したい場合、このアイテムを設定します。現在「ダイレクト工房」は、ビットマップ形式（拡張子.bmp）、ジフ形式（拡張子.gif）、JPEG形式（拡張子.jpeg）の図形ファイルをサポートしています。他の形式による図形ファイルの場合は、上記ファイルに変換して下さい。



連番

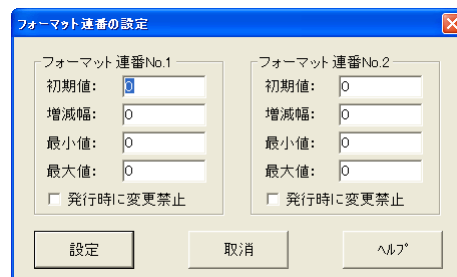
連番やカウンター、シークエンス番号、等間隔増減データなどを自動に印字させたい場合このアイテムを設定します。連番には3種類あり、外部グローバル連番とフォーマット連番は2つ、データベース連番は3つ提供します。

外部グローバル連番 全てのフォーマットやデータベースのアイテムが共通して使う連番。例えば、フォーマット で連番 10 番まで印刷した場合、フォーマット の連番初期値は 11 番になります。グローバル連番の初期値や増減幅、上下限の設定はプログラム印刷で行えます。連番は指定された範囲内で循環します。つまり最大値に到達すると最小値に戻ります。

フォーマット連番 各フォーマットがそれぞれ独自の連番を持ち、別のフォーマットには影響されません。フォーマット連番の初期値や増減幅、上下限の設定は、メニューの「(4)設定」「(C)フォーマット連番設定...」で行えます。

データベース連番 データベースの中にある連番。

データベースの各アイテム連番が独立している為、互いに影響されずアイテムごとに連番を管理する事が容易になります。例えば、各アイテムに付き何枚の印刷をしたか知りたい場合、各アイテムの連番を調べるといいでしょう。



演算データ

(E、EW 版では対応していません。)

印刷の処理上で2つのアイテムを演算する必要がある場合に、このアイテムを設定します。例えば、値段（重量×単価）、割引額（定価×割引率）、売り値（標準価格 - 割引金額）、印刷枚数（総数量÷個口数）、伸び率（当日売上÷前日売上）など四則（+ - × ÷）やA÷Bの余り、AのB乗などの6つの演算方法を標準に提供します。

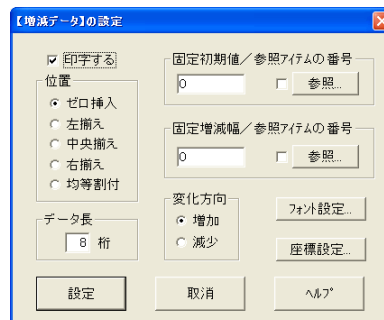


増減データ

フィールド時に、[インクリメント](#)³ 又は [デクリメント](#)⁴ するフィールドを設ける事が時々あります。例えば、3 枚の袋を連続印刷する時、袋に 3-1、3-2、3-3 又は 3/3、2/3、1/3 のように「印刷枚数 / 総印刷枚数」を印字したい場合やまたそのような処理を必要としている場合に、このアイテムを設定します。

印刷直前に、設定した数値を初期値と増減幅に入力又は、指定した参照先のアイテムから設定します。

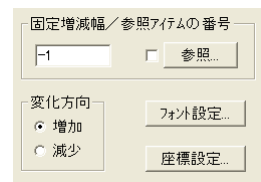
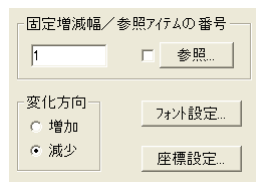
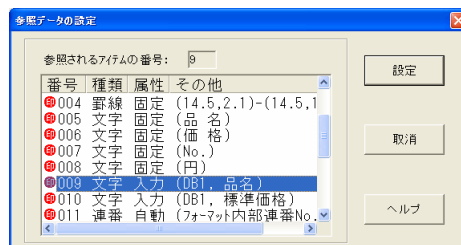
増減データと連番の大きな違いは、増減データは連続印刷中のみ有効で、一枚ずつの印刷では増減されません。印刷直前に初期値と増減幅が自動的にセットされます。



例えば、「印刷枚数 / 総印刷枚数」(1/4、2/4、3/4、4/4...)

を印字する為には、まず の分母部分になる印刷枚数アイテムを先に設定します(「印刷枚数」をご参照下さい。) 分子部分に当たる印刷枚数は、初期値を「印刷枚数」アイテムを参照先として指定し、増減幅は「-1」と入力して「変化方向」を「増加」にチェックするか、それとも「1」と入力して「変化方向」を「減少」

にチェックするかどちらかに設定します。又、固定の文字列(-1)を作成し、参照先として指定する場合も同じように印字されます。



³ 指定されたデータの値を増やす事。レジスタやカウンタなどの内容を 1 プラスする事
⁴ インクリメントの逆で指定されたデータの値を減らす事、内容を 1 マイナスする事。



集計データ

(E、EW 版では対応していません。)

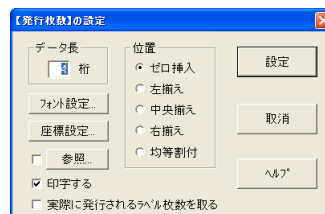
印刷において、あるデータの合計を計算する事があります。例えば、今日一日で袋を何枚印刷したか、各商品をいくつ生産したか、商品の総重量はどのくらいか、今日の売上がいくらか、などを集計する場合があります。このようにデータを集計したい場合にこのアイテムを設定します。集計値を袋ごとに印字しても、まとめて集計しても(「挿入 DATA」をご参照下さい。)又印字してもいいです。印刷時、集計値を自由にクリアする事ができます。



印刷枚数

印刷時に入力した印刷枚数を印字したい場合に、このアイテムを設定します。

ここでの注意は、単位個数が 1 でない場合、印刷時に入力した印刷枚数が総数量になる事です。総数量ではなく実際に印刷される印刷枚数を印字したい場合は、「実際に印刷される印刷枚数を取る」をチェックしなければなりません。

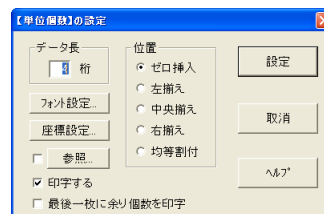


単位個数

(E、EW 版では対応していません。)

印刷時に入力した単位個数を印字したい場合に、このアイテムを設定します。

ここでの注意は、印刷枚数(総数量)が単位個数の倍数であれば問題ありませんが、割り切れない場合、最後の一枚の個数が変わってしまう事になります。例えば、印刷枚数が 50 とし、単位個数が 20 とします。1 枚目に 20、2 枚目に 20、3 枚目に 10 というように、最後 1 枚に余りを印字したい場合、「最後一枚に余り個数を印字する」にチェックしなければなりません。



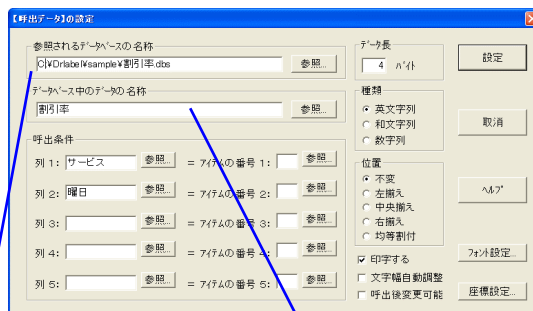


呼出データ

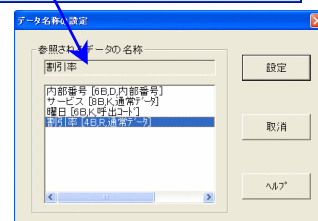
(E、EW 版では対応していません。)

呼出データはとても柔軟性のあるアイテムです。印刷時の処理過程は、指定した番号のアイテムからデータを取り、それを呼出条件としてデータベースから対応するアイテムのデータを呼び出し、そのアイテムデータから指定したデータ名称と一致するデータを抽出して印字します。つまり参照したデータを直接印字するのではなく、それを使ってデータベースから別のデータを引っ張ってきて印字するので、言い換えれば呼出データは「テーブル参照データ」、「間接参照データ」になります。呼出データは主に次のような目的で利用されます。

- ◆ データベース入力機能の拡張として利用する場合。「ダイレクト工房」では、1 つのフォーマットに 3 つのデータベースからデータを取り出し印字する事ができますが、更にその 3 つのデータベース以外のデータベースからデータを取り出したい場合、まずキーボードから入力する文字列アイテムを印字しないように設定します。次にその文字列を呼出対象として呼出データアイテムを設定します。そうすれば印刷時、キーボードから呼出条件を入力してデータベースからデータを呼び出し印字する事ができます。



番号	サービス	曜日	別引率	印刷値
00001	国際電話	月	0.9	
00002	国際電話	火	0.3	
00003	国際電話	水	0.4	
00004	国際電話	木	0.8	
00005	国際電話	金	0.7	
00006	国際電話	土	0.9	
00007	国際電話	日	0.7	
00008	携帯電話	月	0.5	
00009	携帯電話	火	0.2	
00010	携帯電話	水	0.7	
00011	携帯電話	木	0.6	
00012	携帯電話	金	0.5	
00013	携帯電話	土	0.4	
00014	携帯電話	日	0.7	



印刷履歴

(E、EW 版では対応していません。)

印刷時に、あるアイテムのデータの印刷履歴を残したい場合、このアイテムを設定します。データの履歴を記憶すれば、後で印刷作業のチェック、印刷データの確認、レポートの印刷、データの統計や分析を行う事ができます。1 つのフォーマットに印刷履歴アイテムを幾つでも設定する事ができ、どのデータの履歴も取る事ができます。フォーマットに印刷履歴アイテムがあれば、印刷時にメニューの設定で (G)「履歴レコードを記録」にチェックを入れて印刷すると履歴ファイル (拡張子.hst) が生成されます (ただし、「履歴データとして履歴ファイルに履歴ファイルに登録する」を選択の場合)。印刷終了後、プログラム「履歴データ管理」で履歴ファイルを読み込む事ができます。

また、この印刷履歴アイテムは上記のとおりデータの履歴を取るときに設定する場合と、パラメータで「出力データとして親 DATA 又は外部挿入 DATA にデータを引渡す」を選択して、挿入 DATA で外部挿入 DATA を使用する際に設定する場合があります。印刷履歴アイテムを「出力データとして親 DATA 又は外部挿入 DATA にデータを引渡す」で設定する場合、履歴・出力データの名称の欄に自動で入力されない場合は、直接入力で出力するデータの名称を設定します。



自由斜線

斜線を引きたい場合、このアイテムを設定します。



関数

(E、EW 版では対応していません。)

関数とは、フィルタと同じで指定されたアイテムのデータ（文字列又は数字）に対して様々な変換を行うものです。例えば、文字列を左寄せ、右寄せにしたり、価格の数字列にカンマを挿入したり、削除したり、小数を整数に変換するなど。関数の変換結果は直接印字しません。印字したい場合は、関数アイテムを参照する文字列アイテムを設定し、それを通して印字します。



楕円と扇形

楕円と扇形を書きたい場合、このアイテムを設定します。



自由多角形

多角形を書きたい場合、このアイテムを設定します。



QR コード

二次元バーコード QR コードを印字したい場合、このアイテムを設定します。QR コードに関する詳しい説明は、QR コードの規格書をご参考下さい。



PDF コード

二次元バーコード PDF コードを印字したい場合、このアイテムを設定します。PDF コードに関する詳しい説明は PDF コードの規格書をご参考下さい。



ジャンプ

(E、EW 版では対応していません。)

印刷の際、1つのフォーマットを使用するにあたってある特定のアイテムだけを印字したくないといった場合に対応するために、このアイテムを設定します。2つの比較する対象とその比較方法、そしてジャンプ先のアイテムを決め、条件が満たされると、指定したジャンプアイテムからジャンプ先のアイテムへ印字順番が飛び越えるという仕組みになっています。ある決められた条件に基づき印字内容を変更する必要がある時に便利なアイテムです。わざわざ別個のフォーマットを新規に作成する必要は無く、状況に応じた条件指定によって印刷内容も様々に変えることができます。



条件参照

(E、EW 版では対応していません。)

印刷の際、1つのフォーマット内で2つの比較する対象と、その比較方法、比較条件に対応する真・偽参照アイテムを設定して、印字する内容を選択する場合にこのアイテムを設定します。ジャンプアイテム同様に、1つのフォーマットで、ある決められた条件に基づき印字内容を変更する必要のある時に便利なアイテムです。



DATA MATRIX

二次元バーコード DATA MATRIX (データコード) を印字したい場合、このアイテムを設定します。DATA MATRIX に関する詳しい説明は DATA MATRIX 規格書をご参考下さい。



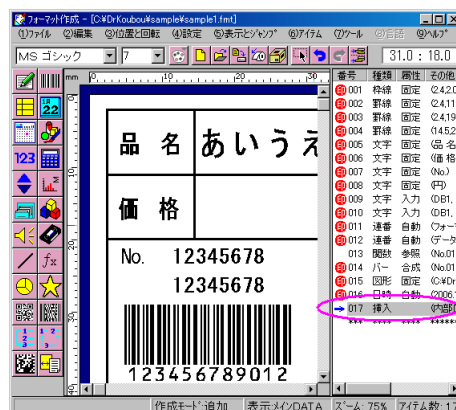
挿入 DATA

(E、EW 版では対応していません。)

1つのデザインの印刷 DATA を印字している間に別のデザインの DATA を割り込んで印字する場合があります。例えば、同じフォーマットで数種類の商品の DATA を印刷するとき、商品を変えるたびに1枚の区切りを入れる場合や、集計データがある時、集計が終わったら集計結果を印字する場合などです。このような場合に、挿入 DATA 機能を利用すれば、問題を解決できます。また、上下プリンタを使用する場合、この挿入 DATA アイテムを使用して、上下プリンタ同時印刷を行います。

アイテム「挿入 DATA」はパラメータを持ちません。レイアウト画面左側の「挿入 DATA」ボタンをクリックするか、又はメニュー「アイテム」のサブメニュー「挿入 DATA」をクリックすると、リスト画面に「挿入 DATA」のアイテムが表示されます。このアイテムが DATA の区切になり、これより上のアイテムはメイン DATA のアイテムで、これより下のアイテムは挿入 DATA のアイテムです。セレクトバーがメイン DATA のアイテムにあるとき、レイアウト画面がメイン DATA のレイアウトを表示し、セレクトバーが挿入 DATA のアイテムにあるとき、レイアウト画面が挿入 DATA のレイアウトを表示します。

挿入 DATA は「内部挿入 DATA」と「外部挿入 DATA」の二種類に分けられます。



- ・ 「内部挿入 DATA」・・・挿入 DATA のサイズや印刷条件などがメイン DATA と全く同じであれば、内部挿入 DATA を設定します。内部挿入 DATA にアイテムを設定する方法は、メイン DATA と全く同じです。全てのアイテム種類が挿入 DATA に設定できます。
- ・ 「外部挿入 DATA」・・・挿入 DATA のサイズがメイン DATA と異なる場合や、挿入 DATA を別のプリンタに出したい場合（上下タイプ・プリンタを使用して印字する場合）、又は挿入 DATA の印刷条件（感熱と熱転写、オートカッターなど）がメイン DATA と異なる場合などには、外部挿入 DATA を設定しなければなりません。詳しい設定方法はヘルプをご参照下さい。

【ダイレクト工房 Uバージョンでの設定】

挿入 DATA 印刷モード

「ダイレクト工房 Uバージョン」では、挿入 DATA アイテムの設定で「挿入 DATA 印刷モード」の設定が行えます。

この挿入アイテムでの「挿入 DATA 印刷モード」設定とメニューの「(4) 設定」の中の「(E) 処理方式設定」内の「挿入 DATA の印刷モード」の組み合わせにより、挿入 DATA の印刷タイミングが変わります。

「単位個数」アイテムが設定してある場合、挿入 DATA アイテムの設定で「単位毎に挿入 DATA 印刷」を選択し、処理方式設定の挿入 DATA 印刷モードで「商品/箱印刷モード」を選択すると単位個数毎に挿入 DATA を印刷し、メイン DATA で「商品」を、挿入 DATA で「箱ラベル」を印字する事ができます。詳しい設定方法はヘルプをご参照下さい。

挿入 DATA 印刷方式（上下タイプ・プリンタにて上下印刷行う場合）

「ダイレクト工房 Uバージョン」では「CPS-Pro シリーズ上下タイプ・プリンタ」に対応するため、挿入 DATA アイテムを利用して上下印刷を同時に行うことができます。

上下タイプ・プリンタで上下同時印刷をする場合は、挿入 DATA は必ず「外部挿入 DATA」として設定してください。

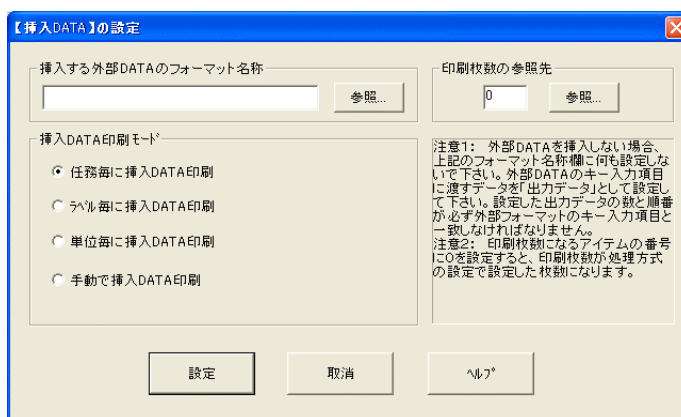
また、プログラム「印刷」のメニュー「(3) 設定」 「(C) 処理方式設定」内の「挿入 DATA 印刷方式」で「同時印刷」を選択してください。

挿入 DATA 印刷方式

順番印刷

同時印刷

上下タイププリンタ以外の場合は「順番印刷」を選択してください。メイン DATA 印刷後に、挿入 DATA を印刷します。



第 1 部 フォーマット作成 / フォーマットの作成 Part 1

挿入 DATA を設定する注意点として、メイン DATA 印刷中はメイン DATA のアイテムだけを処理し、挿入 DATA 印刷中は挿入 DATA のアイテムだけを処理をします。例えば、メイン DATA のデータを集計して挿入 DATA に集計結果を印字させる場合、アイテム「集計データ」をメイン DATA に設定し、集計データを参照する文字列アイテムを挿入 DATA に設定します。メインのデータを集計するアイテムを挿入 DATA に設定すると、集計はできなくなってしまいます。アイテム「挿入 DATA」の設定位置は自由で、削除もできます。ただし、「挿入 DATA」は1つしか設定できません。

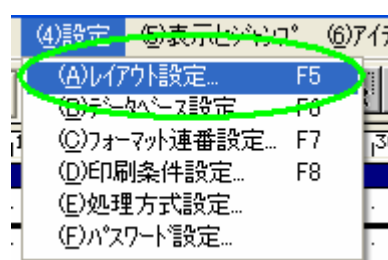
フォーマットの作成 Part1

それでは、実際に幾つかのフォーマットを作成していきます。まず、P14の【図2-2】(Sample1.fmt)と同じ設定内容のフォーマットを作成していきます。この『Sample1.fmt』は「罫線と枠」、「文字列」、「連番」、「バーコード」、「日付と時刻」、「図形」、「関数」の7つのアイテムで構成されています。中には同じ「文字列」でも属性別で「固定」と「入力」とで別々の設定をします。それでは、まず印刷サイズから設定していきます。

印刷サイズの設定

1

メニューバーの「(4)設定」をクリックし、「(A)レイアウト設定」を選択します。

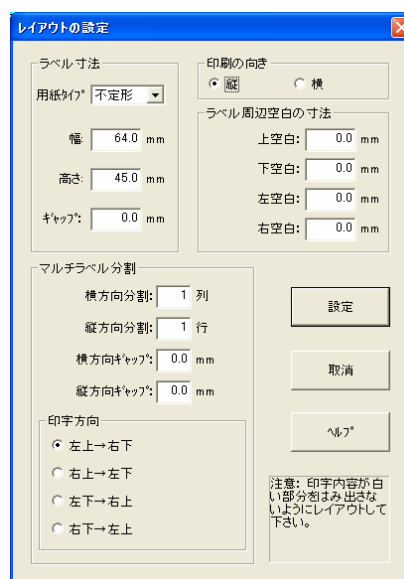


2

DATAの横幅と長さをここで設定します。入力する数値は、半角文字になります。

- ・ 印字幅 「 6 4 」
- ・ 印字長 「 4 5 」

数値の入力が終了したら、**設定** をクリックします。



3

他の設定は、右の図と同じ設定にして、**設定** ボタンをクリックします。

詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

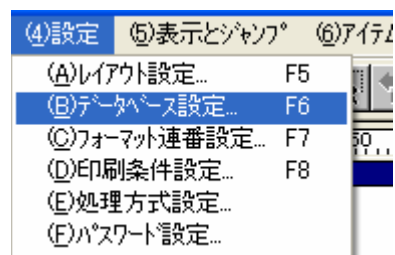
データベースの設定

(E、EW 版では対応していません。)

「機能」の所 (P12 「データベース機能」) でご説明しましたが、1つのフォーマットに、3つのデータベースファイルを呼び出す事ができます。【図 2 - 2】(P14) は1つのデータベースファイル(「商品 DB.dbs」) が設定されています。それでは、同じように設定していきます。データベースの設定は後からでもできます。

1

メニューバーの「(4)設定」をクリックし、「(B)データベース設定」を選択します。



2

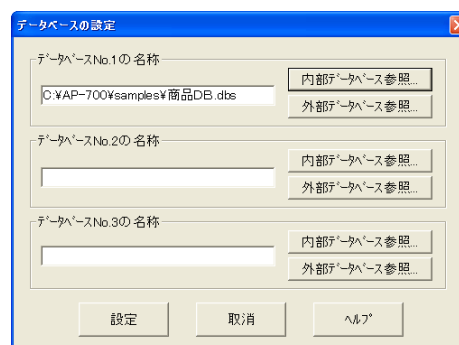
1つのフォーマットに、3つのデータベースを参照することができます。ここで、データベースのファイル名を設定します。

直接入力する場合

ファイルの名前はパスを全て含めてください。

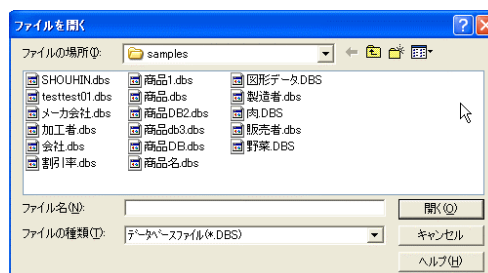
例えば：

「c:¥DrKoubou¥sample¥商品 DB.dbs」
になります。



参照ボタンからの場合

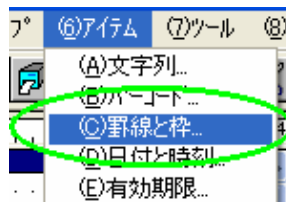
- ・「内部データベース参照」は
ダイレクト工場の「データベース管理」で登録されているファイルを参照します。
- ・「外部データベース参照」は
標準版ではサポートされていません。
「ACCESS」「EXCEL」などのダイレクト工場以外のデータベースから参照します。



罫線・枠の設定

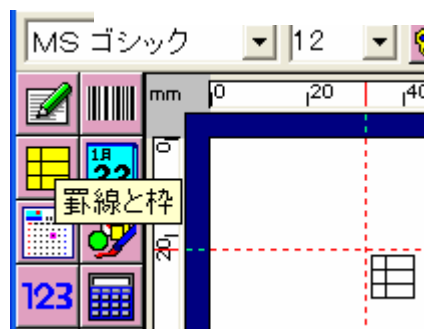
1

3 行 × 2 列の表を設定します。
 アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」を選択し、「(C)罫線と枠...」をクリックします。



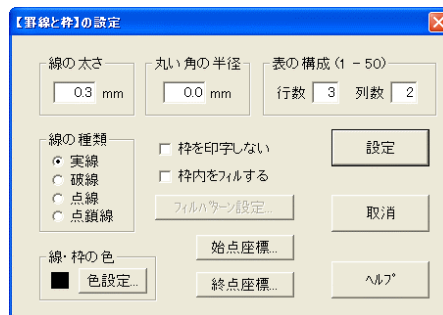
2

アイテム設定ボタンの場合はクリック後にレイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。
 このポインタの状態から、ドラッグして枠のサイズを設定すると「罫線と枠」の設定画面が表示されます。メニューから選択した場合、設定画面は直ちに表示されます。



3

「表の構成」の行数に”3”を、列数に”2”を入力します。他の設定は、右の図と同じにして、設定 ボタンをクリックします。



詳しい設定項目については ヘルプ をご参照下さい。

4

リスト画面・レイアウト画面は右の図のようになり、リスト画面の「001:枠線 固定...」が選択されているので、レイアウト画面の枠も選択されています。

リスト画面

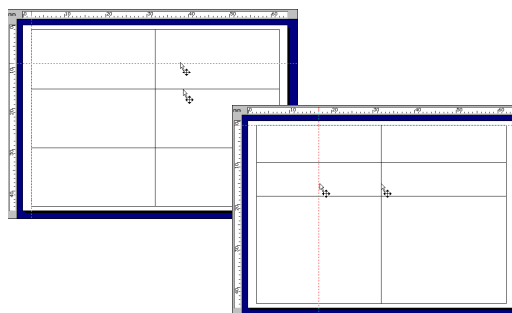
001	枠線	固定	(2.4,2.0)-(61
002	罫線	固定	(2.4,11.0)-(6
003	罫線	固定	(2.4,19.9)-(6
004	罫線	固定	(14.5,2.1)-(1

*** **



5

【図 2 - 2】(P14)を参照しながら、1 本づつ罫線を選択し、ドラッグ操作で長さ、位置を合わせていきます。
 長さを変更する場合は、罫線を選択し、マウスポインタの形が、 この形になった事を確認してから変更を行ってください。



マウスポインタが や 形の場合は、罫線が移動します。

文字列の設定

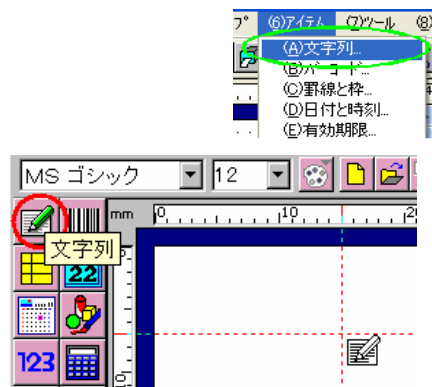
印字されるテキストやタイトル、文字や文章などほとんどは、「文字列」によって設定します。

【図 2 - 2】(P14)の「価格」「品名」「No.」「円」は常に変わらない文字列なので、**固定**に設定します。

—— 文字列が固定の場合 ——

1

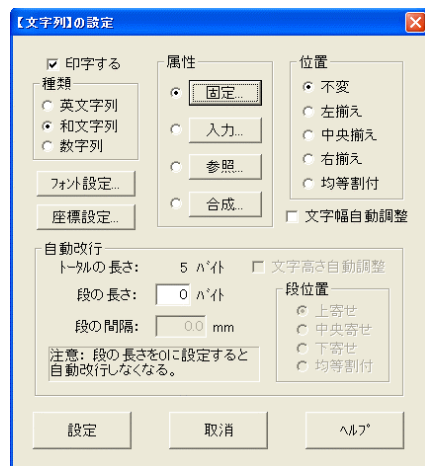
アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」を選択し、「(A)文字列...」をクリックします。



2

アイテム設定ボタンの場合は、クリック後にレイアウト画面に移動すると右の図のようにマウスポインタの形が変わります。

文字列を挿入したい所でクリックすると「文字列」の設定画面が表示されます。



3

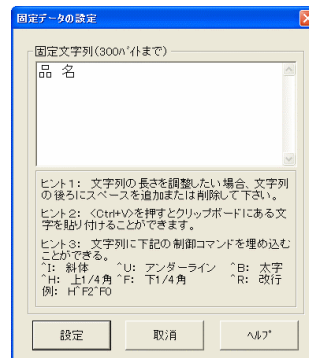
「属性」の「固定...」をクリックすると右下の図「固定データの設定」画面が表示されます。

4

固定文字列に「品名」と入力します。

ここでは、少し見やすくするために、「品名」の間に半角スペースを挿入しています。

入力が終了したら、「設定」ボタンをクリックし、「文字列の設定」画面に戻ります。



5

フォントの変更は、**フォント設定...** ボタンをクリックするとスタイル(太字、斜体)やサイズを変更することができます。

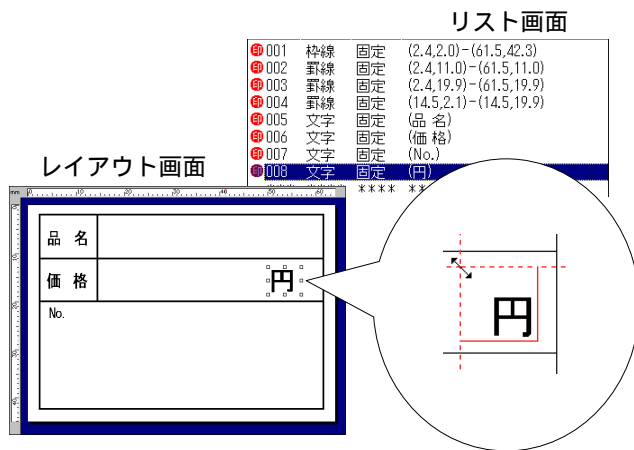
他の設定は、3の右図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

詳しい設定項目については **ヘルプ*** をご参照下さい。

6

同じ手順で(1~5)「価格」「円」「No.」を設定します。右図のようになります。

フォントのサイズ変更は、セレクト枠(選択されている状態)のハンドルからでも縮小・拡大する事ができます。



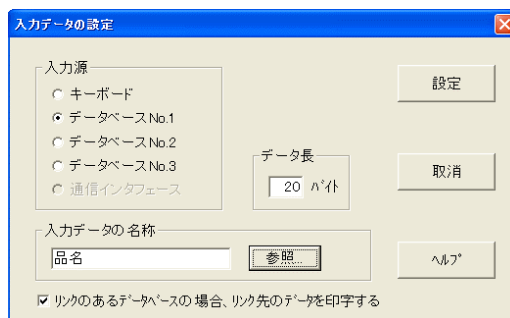
—— 入力文字列の場合 —— (E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。)

右上図の **入力...** に、既存のデータベースファイル「商品 DB.dbs」からデータを取り出し、印字させる設定をします。

7

入力文字列「品名」を設定します。(右上図)

1、2と同じ手順で、「文字列の設定」画面が表示されます。「属性」の **入力...** をクリックすると右図「入力データの設定」画面が表示されます。**入力源***は「データベース No.1」を選択します。



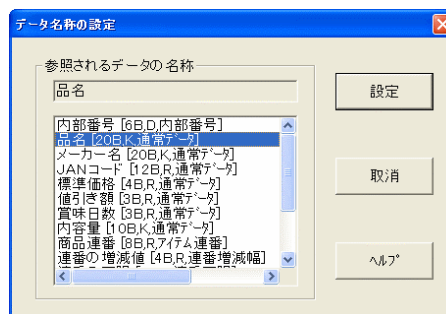
*3 入力する元を、キーボードから入力するか、どのデータベース(「データベースの設定」の所で設定したファイルを示します。)から持ってくるかを選択します。

8

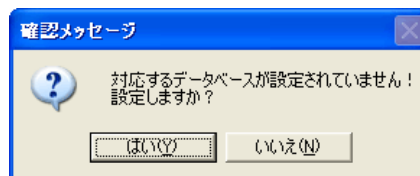
「入力データの名称」は必ず、データベースと同じものを入力して下さい。

例えば、データベースで「商品名」と登録している場合、「品名」ではなく、同じ「商品名」と入力して下さい。

データの名称が不安な場合は **参照...** ボタンをクリックすると「データ名称の設定」画面が表示されるので、一覧から選択して下さい。(右図)



「データベースの設定」の所で、データベースファイルを設定していない場合は、右図のメッセージが表示されますので、「はい」をクリックして下さい。設定方法は P26 「データベースの設定」をご参照下さい。



9

他の設定は、7の右図と同じにして、**設定** ボタンをクリックします。

詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

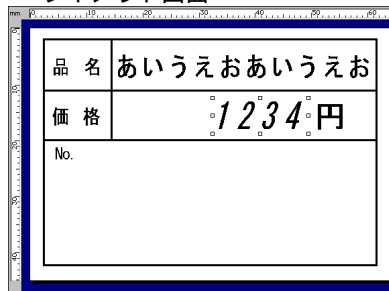
10

同じ手順で(7~9)「価格」を設定します。右図のようになります。

リスト画面

001	枠線	固定	(2,4,2,0)-(61,5,42,3)
002	罫線	固定	(2,4,11,0)-(61,5,11,0)
003	罫線	固定	(2,4,19,9)-(61,5,19,9)
004	罫線	固定	(14,5,2,1)-(14,5,19,9)
005	文字	固定	(品名)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1, 品名)
010	文字	入力	(DB1, 標準価格)

レイアウト画面



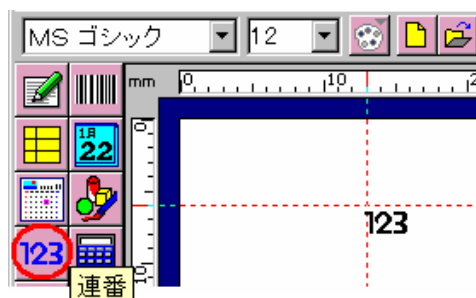
連番の設定

連番や、カウンター、シーケンス番号など、自動に印字させたい場合にこのアイテムを設定します。「アイテム設定ボタン」の所 (P17「連番機能」) でご説明しましたが、連番は 3 種類あり、グローバル連番とフォーマット連番は 2 つ、データベース連番は 3 つ設定できます。

【図 2 - 2】(P14) の 連番は「フォーマット連番」が設定されていますが、ここでもう 1 つデータベース連番を追加設定していきます。

1

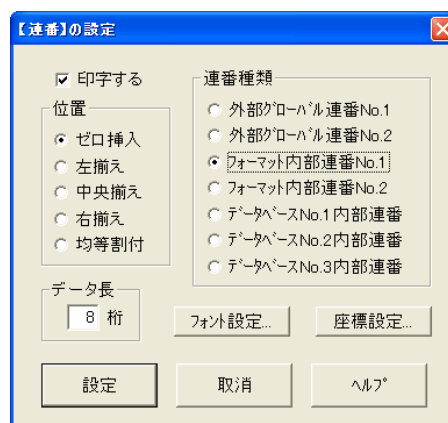
アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」「(G)連番...」をクリックします。右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。連番を挿入したい所でクリックすると「連番」の設定画面が表示されます。



2

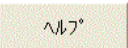
1 つ目は「フォーマット内部連番 No.1」を設定します。このフォーマットに対してだけの連番を表示させたい場合に選択します。

2 つ目は「データベース No.1 内部連番」を設定します。データベースファイル(「商品 DB.dbs」に商品連番が登録されています。)から連番を取り出し印字させたい場合に選択します。連番種類を選択したら、「設定」ボタンをクリックします。(連番種類は複数選択できないため、1 つずつ設定してください。)



3

右図のようになります。

詳しい設定項目については  をご参照下さい。

リスト画面

001	枠線	固定	(2.4,2.0)-(61.5,42.3)
002	罫線	固定	(2.4,11.0)-(61.5,11.0)
003	罫線	固定	(2.4,19.9)-(61.5,19.9)
004	罫線	固定	(14.5,2.1)-(14.5,19.9)
005	文字	固定	(品名)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
008	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(DB1,品名)
010	文字	入力	(DB1,標準価格)
011	連番	自動	(フォーマット内部連番No.1)
012	連番	自動	(データベースNo.1内部連番)

レイアウト画面

品名	あいうえおあいうえお
価格	1234 円
No.	12345678
	2345678

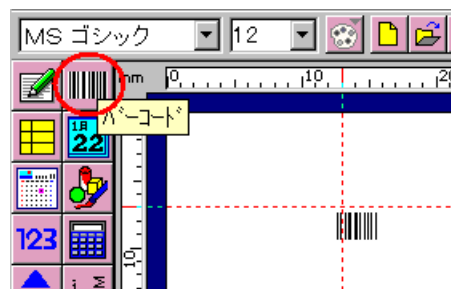
バーコードの設定

「ダイレクト工房」では、現在よく使われているバーコードを、印字する事ができます。各バーコードの詳細説明は、ヘルプをご参照下さい。

【図 2 - 2】(P14)の バーコードは「合成」の設定になっています。機能の所(P11「合成機能」)でもご説明しましたが、合成とは幾つかのアイテムを組合せたものです。ここでは、前のページで設定した、「データベース連番」と「文字列(入力) 価格」を組合せたバーコードを設定していきます。

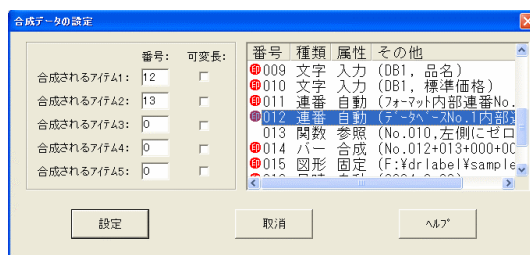
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」「(B)バーコード...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合、右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。バーコードを挿入したい所でクリックすると「バーコード」の設定画面が表示されます。



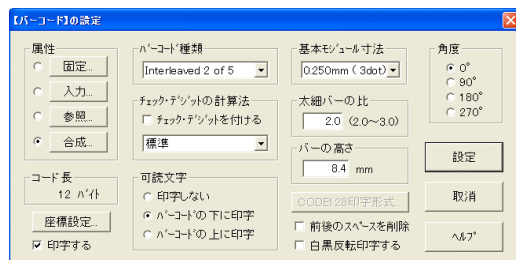
2

ここでは、今まで設定してきたアイテムを組合せて「合成」のバーコードを作成していきます。それでは、右図と同じにして **合成...** ボタンをクリックして下さい。



3

組合せたいアイテムを一覧の中から選択していきます。バーコードは半角英数(ローマ字・数字)しかサポートしていないので、10番と12番のアイテムの合成を設定していきます。



詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。



図形の設定

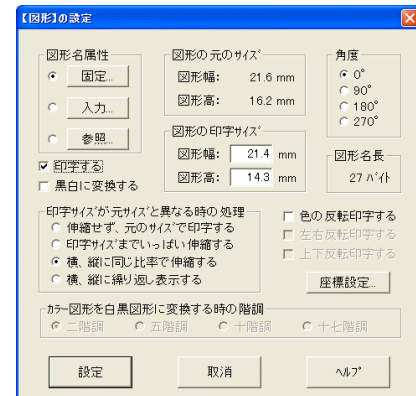
図面や写真、ロゴ、マーク、特殊記号などの図形を印字することができます。

「ダイレクト工房」は、ビットマップ形式（拡張子.bmp）、ジフ形式（拡張子.gif）、JPEG形式（拡張子.jpeg）の図形ファイルをサポートしています。他の形式による図形ファイルの場合は、上記ファイルのいずれかに変換して下さい。

【図 2 - 2】(P14)の 図形は、「C:\¥DrKoubou¥sample」フォルダの中に「図形 1.bmp」ファイルが有りますので、その図形ファイルを使用し、「固定」の設定をしていきます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」「(F)図形...」をクリックします。レイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。図形を挿入したい所でクリックすると「図形」の設定画面が表示されます。



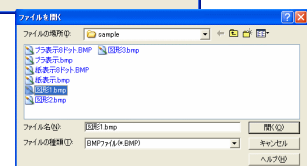
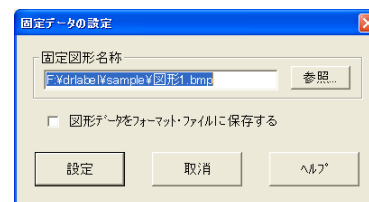
2

固定の図形を設定するので、「固定...」ボタンをクリックします。

3

C:\¥DrKoubou¥sample フォルダの中に「図形 1.bmp」がありますので、「固定図形名称」欄に直接入力するか、「参照...」ボタンをクリックしファイルを指定して下さい。

図形のファイル名が入力されたら、「設定」ボタンをクリックし、「図形の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、「設定」ボタンをクリックします。

詳しい設定項目については「ヘルプ」をご参照下さい。

レイアウト、リスト画面は、右図のようになります。

レイアウト画面

リスト

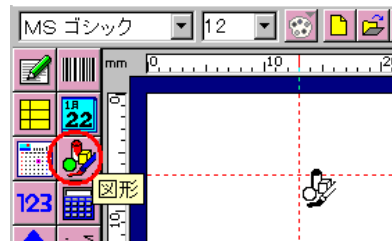
001	特殊	固定	(2,4,2,0)-(61,5,42,3)
002	罫線	固定	(2,4,11,0)-(61,5,11,0)
003	罫線	固定	(2,4,19,9)-(61,5,19,9)
004	罫線	固定	(14,5,2,1)-(14,5,19,9)
005	文字	固定	(色)
006	文字	固定	(価格)
007	文字	固定	(No.)
	固定	固定	(円)
	入力	(DB1,品名)	
	入力	(DB1,標準価格)	
	自動	(マ-内部番号No.1)	
	自動	(マ-内部番号No.1内部番号)	
	名簿	(No.010+012+000+000+000)	
	図形	(C:\¥DrKoubou¥sample¥図形1.bmp)	

日付と時刻の設定

印刷時に、リアルタイムの日付と時刻が自動印字できます。【図 2 - 2】(P14)の 日付と時刻は、西暦を印字させた形式ですが、他にも色々な形式に設定する事ができます。

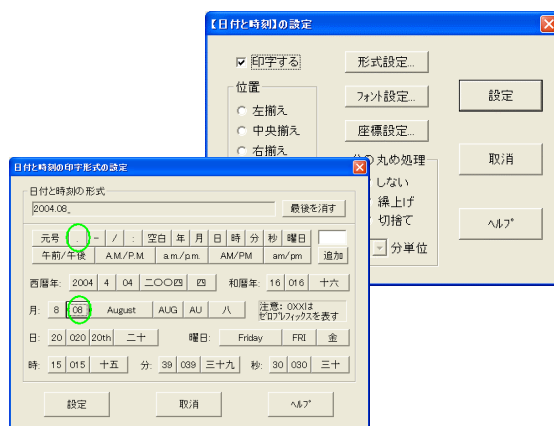
1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」「(D)日付と時刻...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合は、右の図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わります。日付・時刻を挿入したい所でクリックすると「日付と時刻」の設定画面が表示されます。



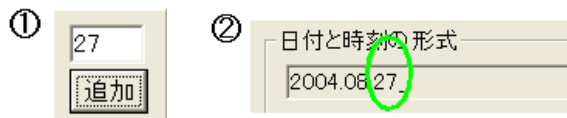
2

形式設定... ボタンをクリックします。



3

「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。表示させたい形式をクリックします。この中に無い文字を入力したい場合は、追加ボタンの上(図)に文字を入力し、追加ボタンをクリックします。 図のように表示されます。形式設定が終了したら、設定 ボタンをクリックし、「日付と時刻の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、設定 ボタンをクリックします。

詳しい設定については ヘルプ* をご参照下さい。

000	文字	固定	(円)
009	文字	入力	(061, 品名)
010	文字	入力	(061, 標準価格)
011	連番	自動	(0-999内部連番No.1)
012	連番	自動	(7-9A~SNo.1内部連番)
013	バー	合成	(No.010+012+000+000+000)
014	図形	固定	(c:\drlabel\sample\図形1.bmp)
015	図形	自動	(0002242)

レイアウト画面



リスト画面

関数の設定

(E、EW 版では対応していません。)

バーコードの種類を「Interleaved2 of 5」に設定している為、「関数の設定」をする必要があります。関数は文字列・数字に対して様々な変換を行います。ヘルプでも説明されていますが、「Interleaved2 of 5」バーコードは、表現できる記号が数字だけの為、スペース(空白)はサポートされません。10番アイテムの「標準価格」は4バイトに設定されています。つまり「標準価格」が4桁の場合、バーコードは正常に表示されますが、2桁(2バイト)、3桁(3バイト)の場合は、桁数が足りない分がスペースとなり、バーコードが正常に表示できません。その為、スペースになってしまう所に「0」を挿入する設定をしていきます。

1

アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」「(P)関数...」をクリックすると「関数」の設定画面が表示されます。

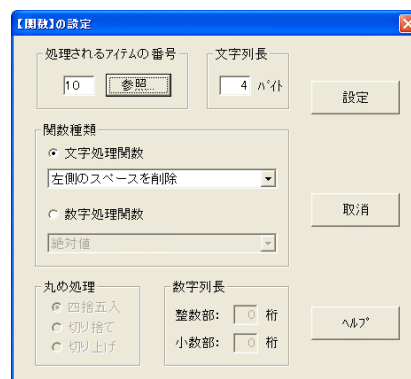


2

処理されるアイテム番号の **参照...** ボタンをクリックします。

3

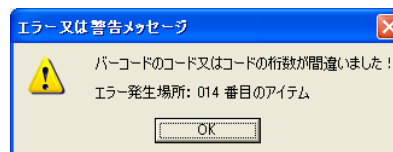
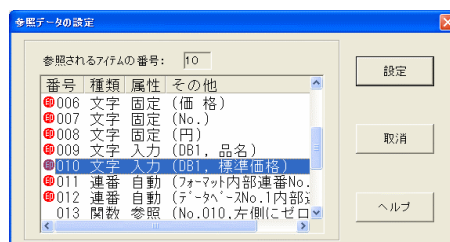
参照データの設定一覧から「010:文字入力(DB1,標準価格)」を選択すると、処理されるアイテムの番号の所に「10」と入力されます。 **設定** ボタンをクリックし、「関数の設定」画面に戻ります。



4

他の設定は、右上の図と同じにして、 **設定** ボタンをクリックします。

「文字列長」は参照されるアイテム(10番)が設定したバイト数が表示されます。バイト数を変更する事もできますが、ここでの注意点は、「Interleaved2 of 5」バーコードは「偶数」でなければいけない為、4バイト 5バイトに変更すると右図にあるエラーメッセージが表示されます。



詳しい設定項目については **ヘルプ** をご参照下さい。

5

設定後、リスト画面は右図のようになります。
 バーコードが No.012 と No.010 の合成になっているので、No.012 と No.016 の合成に修正します。

リスト画面の「013：バー合成」を W クリックし、「バーコードの設定」 合成ボタン 合成されるアイテム 2 の番号：40 16 へ変更 設定ボタンをクリックします。(サンプルでは No012 と No016 を順番に設定し直しています。)

リスト画面

009	文字	入力	(DB1, 品名)
010	文字	入力	(DB1, 標準価格)
011	連番	自動	(フォーマット内部連番No.1)
012	連番	自動	(フォーマット内部連番)
013	バー	合成	(No.010+012+000+000+000)
014	図形	固定	(c:¥drlabel¥sample¥図形1.bmp)
015	日時	自動	(2002.12.19)
016	関数	参照	(No.010,左側にゼロを挿入)

印字されないアイテムは 印 が頭につきません。



011	連番	自動	(フォーマット内部連番No.1)
012	連番	自動	(フォーマット内部連番)
013	バー	合成	(No.011+016+000+000+000)
014	図形	固定	(c:¥drlabel¥sample¥図形1.bmp)
015	日時	自動	(2002.12.19)
016	関数	参照	(No.010,左側にゼロを挿入)

6

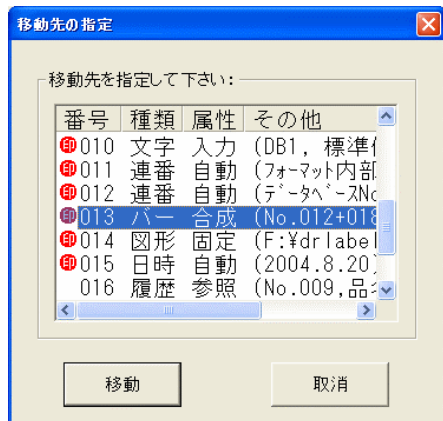
アイテムの順序を移動します。
 これは印刷する時、フォーマットに設定した順番でアイテムを順次処理する為、「013：バー合成」の参照先である「016：関数参照」を前に移動する必要があります。

リスト画面で「016：関数参照」をクリックし選択した状態で、メニューバーの「(2)編集」 「(G)アイテム順序移動...」をクリックします。



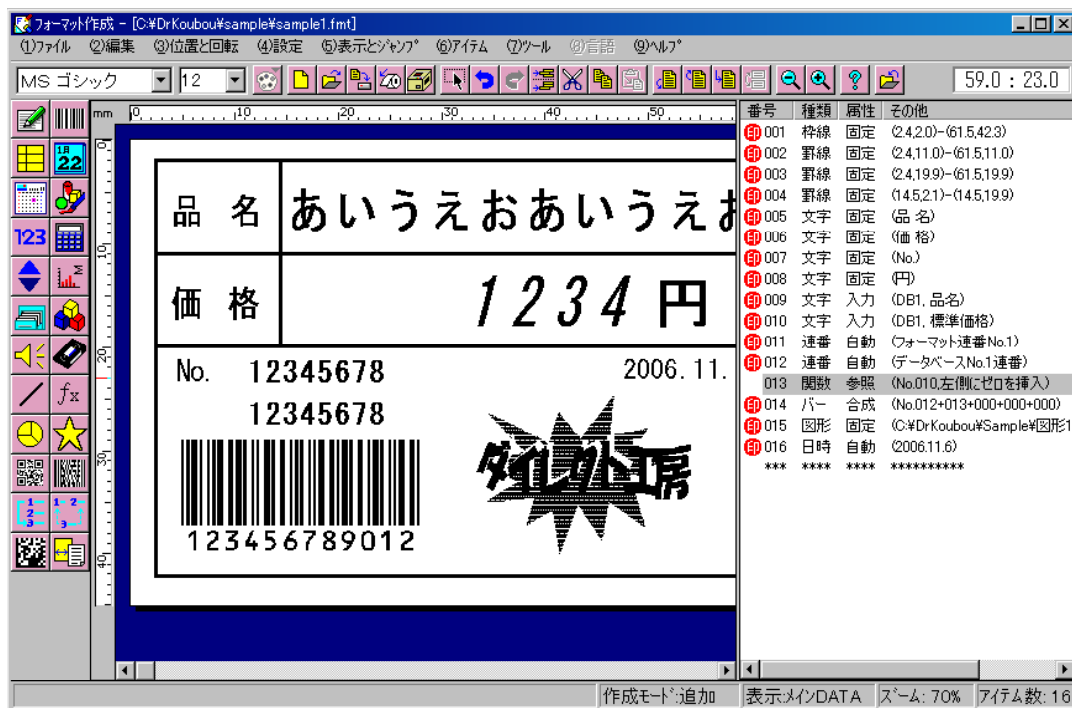
7

「移動先の指定」画面が表示されますので、右図のように選択し、**移動** ボタンをクリックして下さい。
 バーコードの上に挿入されます。



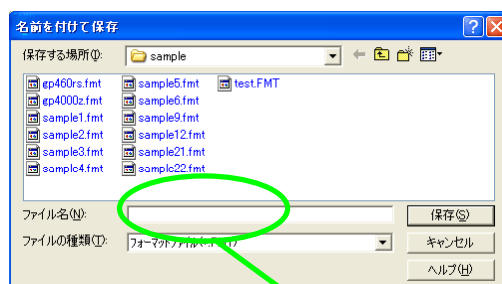
フォーマットの保存

それでは、【図 2 - 2】(P14)と同じフォーマットの設定が終了したので、保存をしていきます。



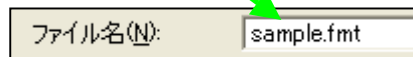
1

メニューバーの「(1)ファイル」を選択し、「(D)名前をつけて保存...」をクリックします。



2

ここに「sample.fmt」と入力をして、
 ボタンをクリックします。



フォーマットの作成 Part2

『フォーマット作成 Part1』では、実際に幾つかのアイテムを設定しながら大まかな流れを説明してきましたが、大分感じがお分かり頂けたと思います。

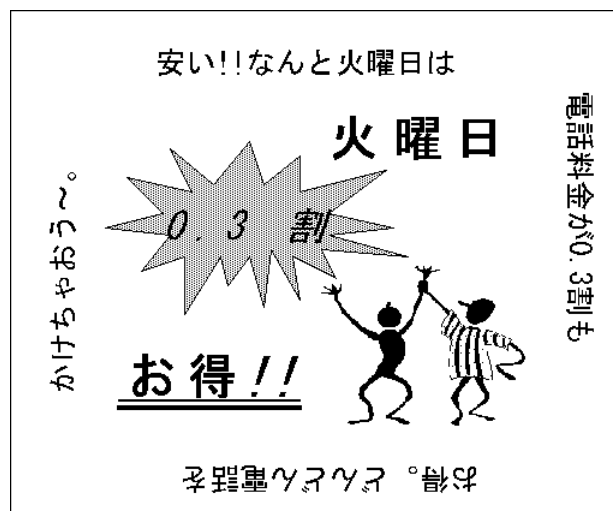
さて、Part2 では、Part1 に出てこなかったアイテムを使ったり、又 Part1 で出てきたアイテムで違う属性を設定して色々なフォーマットの作成を、『~をしたい場合』として説明していきます。それでは「c:¥DrKoubou¥Sample」にある「Sample2、3、4.fmt」(下図)、他「Sample5、6、21、22、24、25」を参照しながら設定をしていきます。



「Sample2.fmt」



「Sample4.fmt」



「Sample3.fmt」

賞味期限を印字させる場合 1

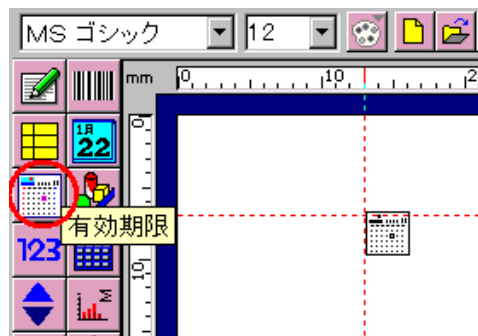
製造日：03.01.21
賞味日：04.01.21

あらかじめ「賞味期限」が登録してあるデータベースファイルからデータを呼び出し、例えば右図のように『賞味日』を印字させたい場合、「有効期限」アイテムを使います。

(E、EW版ではデータベースは対応していません。)

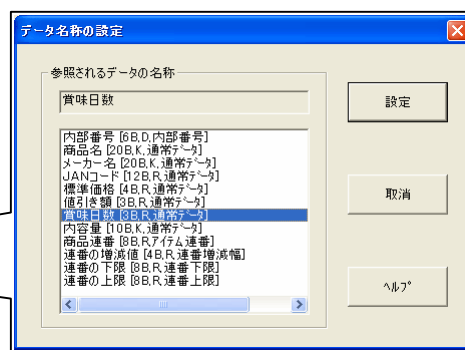
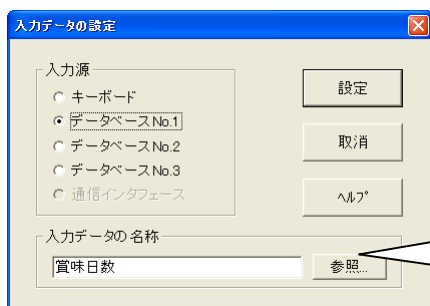
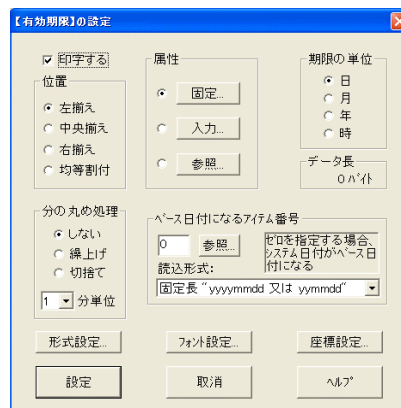
1

「有効期限」の設定は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G)アイテム」「(E)有効期限...」をクリックします。アイテム設定ボタンの場合、右図のようにレイアウト画面に移動するとマウスポインタの形が変わり、もう一度クリックすると、「有効期限の設定」の画面が表示されます。



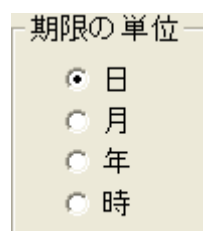
2

「属性」の設定は、「入力」が選択されています。(図) **入力...** ボタンをクリックすると「入力データの設定」画面が表示され、「データベース No.1」に設定されている「商品 db2.dbs」中の「賞味日数」からデータを呼び出す事を示しています。(、 を参照。)



3

「期限の単位」の設定は、「商品 db2.dbs」で賞味日数を登録しているので、「日」を選択します。もしもデータベースに「年数」や「月数」単位で登録している場合は、「期限の単位」もその単位を選択して下さい。誤ってしまうと有効期限が正常に印字されません。



4

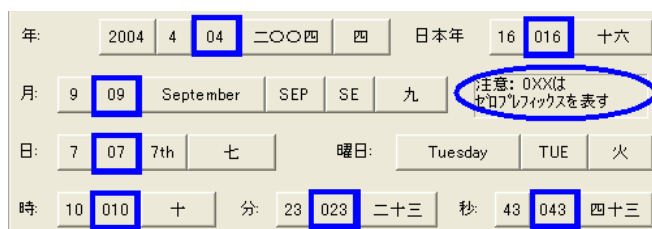
図 (P39) の「有効期限の設定」にある「形式設定…」ボタンをクリックすると、フォーマット作成 Part1 に出てきた「日付と時刻の印字形式の設定」画面が表示されます。(P34「日付と時刻の設定」) Part1 と同じように形式を選択していく訳ですが、ここで補足説明をします。

「日付と時刻の印字形式の設定」画面に「注意:」があります。

「0XX」とは で囲ってある数値を示しています。

例えば、「日:」の「021」は

一見不自然に思われますが、「021」を選択すると、日付が「1~9」のような 1 桁の場合は、「01~09」と表示されます。つまり、1 桁の場合「0」を挿入した形で表示する設定になります。もちろん、2 桁の場合(例:10~31)は「0」は挿入されません。



5

他の設定は、図 と同じにして、 ボタンをクリックします。

詳しい設定項目については をご参照下さい。

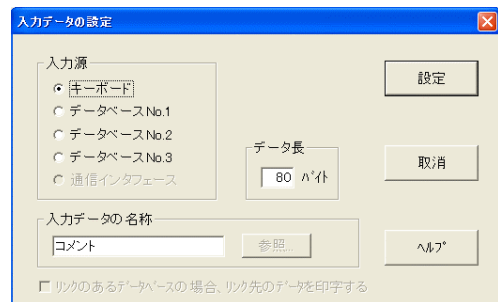
長い文字列を分割して印字する場合

例えば、80 バイト（全角文字で 40 文字）の文字列を印字したい場合、フォントの設定（サイズ、スタイル）によって多少違いがありますが、決められた印刷サイズ範囲内で全てを印字するのは難しいでしょう。しかし 80 バイトの文字列を例えば、20 バイトずつ 4 つに分割する事によって印字する事が可能になります。（「Sample3.fmt」参照）
それでは、アイテムの構成を見ていきましょう。

1

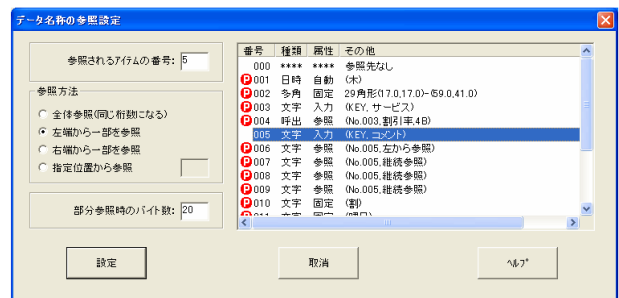
図 1 を見ると、「No.005」の文字列は印字無しでキーボード入力する設定になっています。「No.005文字列」の「入力データの設定」(図 1) 画面にある「データ長」を見ると「80」バイトに設定してあります。これは、「No.006」~「No.009」で設定する文字列を分割して印字する内容(文字数)を示しています。

005	文字	入力	(KEY, コメント)
印006	文字	参照	(No.005,左から参照)
印007	文字	参照	(No.006,継続参照)
印008	文字	参照	(No.007,継続参照)
印009	文字	参照	(No.008,継続参照)



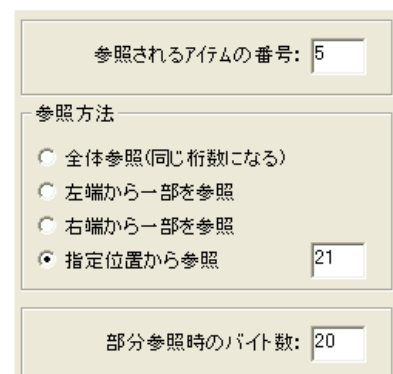
2

「文字列」は今までにたくさん設定してきましたが、「No.006 ~ No.009」の文字列は属性を「参照」に設定します。図 2 は、「参照」ボタンをクリック後、表示される「参照データの設定」画面です。この図 2 は、「No.006文字列」の設定内容を示しています。キーボードから入力した文字(「No.005文字入力(KEY)」で設定)の「左端から一部参照」(80 バイト中 20 バイト分の文字)して印字する設定になっているのが分かります。「部分参照時のバイト数」は、キーボードから入力された文字の左端から、何バイトを印字するかを入力します。



3

図 3 は「No.007」の参照データ設定画面です。「No.007 ~ No.009」の文字列設定でも、「参照されるアイテムの番号」のところに、「No.005」の 4 分割ぶんのデータを参照したいので、「5」が入力されています。

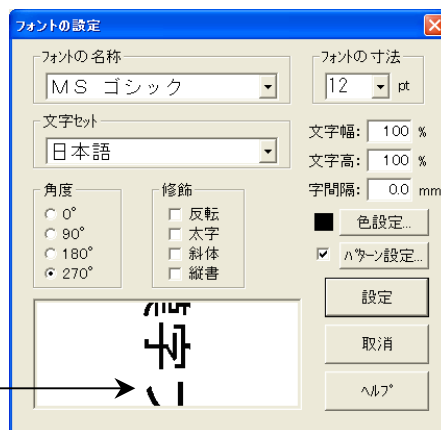


「参照方法」は「No.006」の続きを印字させたいので、「指定位置から参照」を選択し、参照開始位置を横のテキストボックスの中に入力します。「No.006」で20バイトまで参照しているの
 で、続きの21バイトから参照することになります。「部分参照時のバイト数」は指定位置から何
 バイト分参照するかを入力するので、ここでも20と入力し、設定ボタンをクリックします。
 「No.008」、「No.009」も同じように設定すると、80バイトの長い文字列が、20バイトず
 つ分割された4つの文字列に、続けられて印字されます。

4

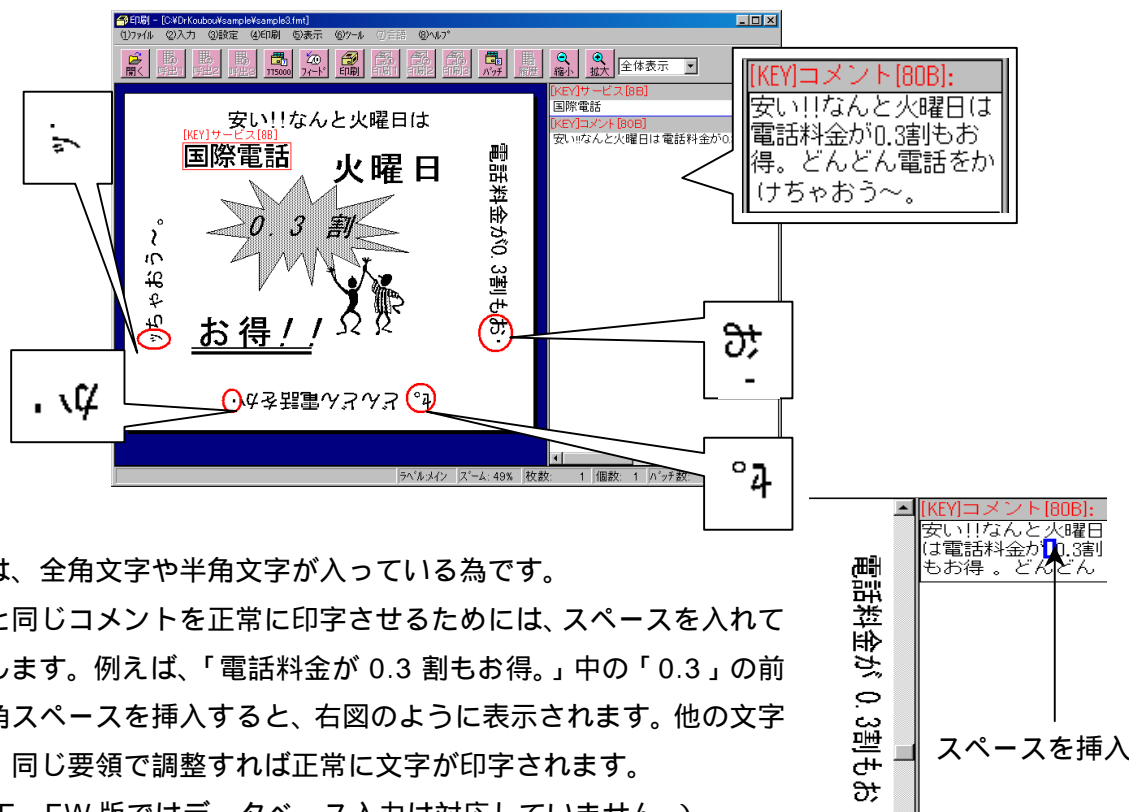
文字列の設定画面に戻り、「フォント設定...」をクリックすると、図の画面が表示されます。

「Sample3.fmt」のように文字に角度をつけて印字したい場合は、右図にある「角度」から選択して下さい。指定した角度のレイアウト表示がされます。



5

「No.005 ~ No.008」の文字列を、プログラム「印刷」を起動しコメントを図のように入力して画面で確認します。レイアウト画面を良く見ると、文字列の内容が一部正常に印字されていないところがあります。



これは、全角文字や半角文字が入っている為です。
 図と同じコメントを正常に印字させるためには、スペースを入れて調整します。例えば、「電話料金が0.3割もお得。」中の「0.3」の前に半角スペースを挿入すると、右図のように表示されます。他の文字列も、同じ要領で調整すれば正常に文字が印字されます。
 (E、EW版ではデータベース入力に対応していません。)

図形の設定（データベースに登録されている場合）

（ E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。）

図形の設定は、フォーマット作成 Part1（P33）に出てきましたが、属性を「入力」に設定し、データベースにあらかじめ登録されている「図形ファイル」を呼び出して印字させていきたいと思えます。

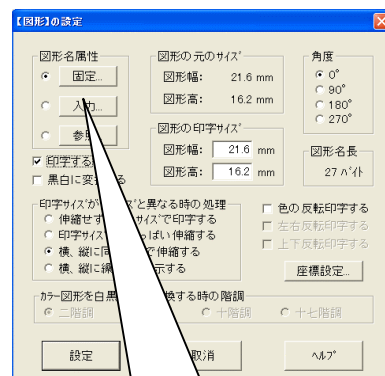
1

「c:\¥DrKouboul¥sample¥sample1.fmt」で設定した図形は、「固定」に設定されていますが、属性を「入力」に変更します。右図にあるリスト画面から「No.015 図形固定」をWクリックし、「図形の設定」画面を表示します。

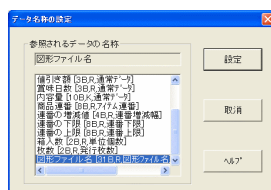
印	014	バー	合成	(No.012+013+000+000+000)
印	015	図形	固定	(c:\¥DrKouboul¥sample¥図形1.bmp)
印	016	日時	自動	(2005.5.11)

2

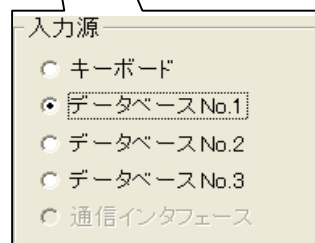
「図形名属性」は「入力」をクリックします。「入力データの設定」画面が表示されるので、「データベース No.1」を選択（図 -1）し、「参照」ボタンをクリックします。一覧（図 -2）が表示されるので、「図形名」（属性が「図形ファイル名」のデータ項目）を選択し、設定ボタンをクリックします。入力データの名称の所に選択されたデータ項目の名称が表示されます。（図 -3）



-3



-2



-1

3

リスト画面は右図 のようになります。

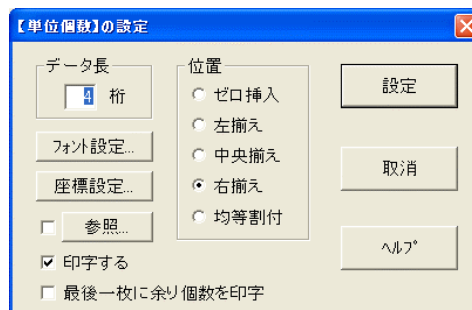
印	014	バー	合成	(No.012+013+000+000+000)
印	015	図形	入力	(DB1, 図形ファイル名)
印	016	日時	自動	(2004.9.7)

個数を印字したい場合（ケース入数、箱入数など）

（ E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。）

1 mple4.fmt」にある、「入 / 個」のように個数を印字したい場合、「単位個数」アイテムを設定します。（ E、EW 版では単位個数アイテムは対応していません。）

「単位個数」は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(G) アイテム」「(L) 単位個数...」をクリックします。「単位個数の設定」の画面が表示されます。



2 図 の設定画面に「最後一枚に余り個数を印字する」チェック項目があります。右図 のリスト画面にある「No.021」と「No.022」は「単位個数」が設定されていますが、この項目のチェックに有無に違いがあります。

チェック無しは「No.021」、チェック有りが「No.022」になります。これは、例えば 1 箱 5 個入りのダンボールが有り、商品は 11 個有る場合、1 枚目、2 枚目に印刷される DATA は、図 のように「5 入 / 5 個」と印字されます。3 枚目に印刷される DATA は、「5 入 / 1 個」になります。つまり最後の DATA に「余り個数」が印字される事を示しています。

印	021	個数	自動
印	022	個数	自動
印	023	文字	固定 (入)
印	024	文字	固定 (個)
印	025	文字	固定 (✓)



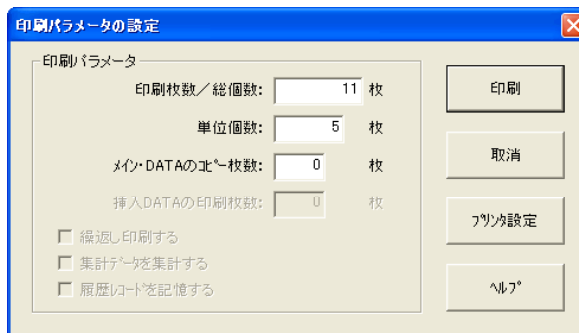
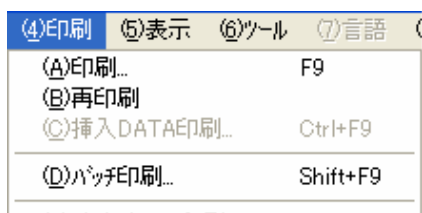
1枚目



3枚目

3 プログラムの「印刷」において実際に上記ケースのような DATA を印刷したい場合、まずツールバーの ボタンで

データベース 1 から商品ミスターコーヒーを呼出します。次にツールバーの ボタンか、又は図 (P45 参照) のメニューバーから実行します。その際、図 (P45 参照) の「発行パラメータの設定」画面が表示されるので、印刷枚数に「11」、単位個数に「5」と入力し「発行」ボタンをクリックすると、図 のような DATA が印刷されます。

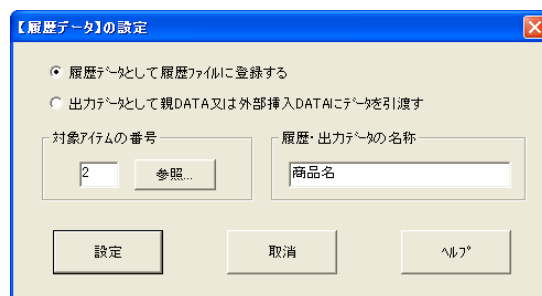


印刷時の履歴を取りたい場合

例えば、どの商品を、何枚、いつ印刷したか等、履歴を取りたい場合「印刷履歴」アイテムを設定します。(E、EW 版では対応していません。)

1

「印刷履歴」は、アイテム設定ボタン、またはメニューバーの「(6)アイテム」「(N)印刷履歴...」をクリックします。「履歴データの設定」の画面が表示されます。

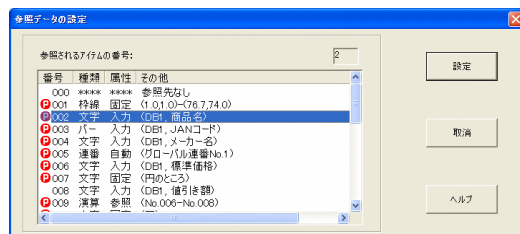


2



図 1 は「sample22.fmt」の設定とリスト画面を示しています。図 1 の「履歴を取るアイテムの番号」横の「参照」ボタンをクリックすると、図 2 の一覧が表示されます。ここでは、「商品名」の履歴を取りたいので、「No.002」を選択し、「設定」ボタンをクリックします。

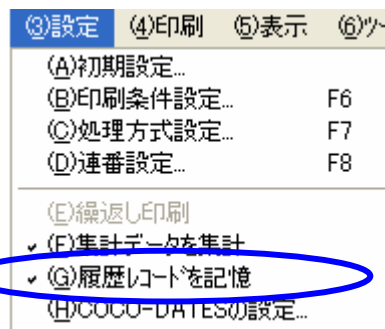
020	履歴	参照	(No.002,商品名,20B)
021	履歴	参照	(No.009,価格,4B)
→ 022	挿入		(内部ラベル)
P 023	文字	入力	(DB1, 商品名)

「履歴データ名称」の下の欄には選択した「商品名」が入力されているのが分かります。
 (「No.020 履歴」) 同じ要領で「No.021」は参照アイテムを「No.009」に選択した設定をします。「履歴データ名称」に「価格」と入力します。



3

プログラムの「印刷」から実際に履歴を取る場合、まずメニューバーにある「(3)設定」「(G)履歴レコードを記憶」をクリックし、横にチェックが入っている事を確認します。(図参照) ツールバーの履歴一覧ボタン  か、又はメニューバーにある「(5)表示」「(L)履歴レコード一覧」をクリックすると、図  に示す「履歴レコード一覧」画面が表示され、何を、何枚、いつ印刷したかが一目で分かります。「枚数」「時間」は自動的に表示されます。)



履歴レコード一覧 - [C:\\$DRLABEL\\$SAMPLE¥sample22.hst]

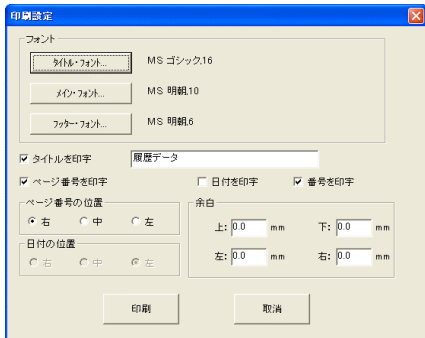
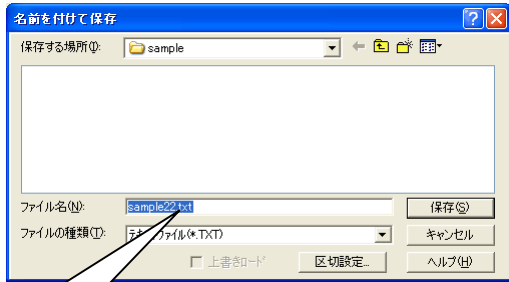
検索対象: 時間

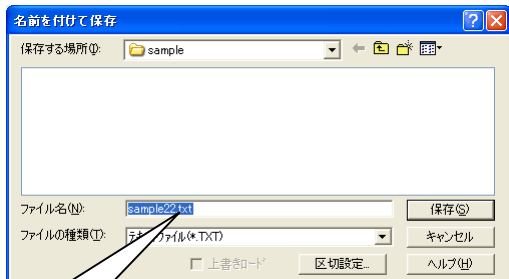
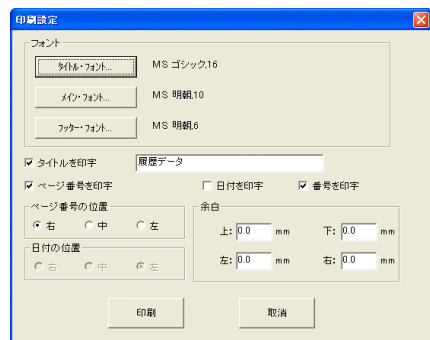
次を検索 名前を付けて保存 外部データベースに保存 テキス

呼出(Enter) 全て印刷 指定印刷 全て削除 指定削除 終了(Esc)

番号	商品名	価格	枚数	時間	番号
00001	なまみそずい	160	1	2004- 9- 7 15:00:51	1
00002	なまみそずい	160	1	2004- 9- 7 15:20:53	2
00003	ポッキーピター	130	1	2004- 9- 7 15:21:46	3
00004	ホーミングレモン	140	7	2004- 9- 7 15:22:02	4
00005	なまみそずいカップ	120	1	2004- 9- 7 15:26:17	5
00006	ローストブリッツ	85	1	2004- 9- 7 16:20:32	6
00007	トマトブレッツェル	120	8	2004- 9- 7 16:22:50	7
00008	新マミオス胃腸薬	790	1	2004- 9- 7 16:23:09	8
00009	のリピーバック	230	6	2004- 9- 7 16:26:26	9

4

この「履歴レコード一覧」を印刷したい場合、「全て印刷」「指定印刷」ボタンで印刷することができます。但し、ここで印刷に使用するプリンタはパソコンに設定してあるデフォルトプリンタ(通常使用するプリンタ)となります。印刷ボタンを押すと、(図 ) のような印刷設定画面が表示されます。また「テキストへ変換」ボタンで、「テキストファイル(.txt)」へ変換することができます。テキストファイル形式で保存をすれば、市販のソフト(Excel、Lotus1-2-3、Access など)がテキストファイルをロードして印刷することもできます。「テキストへ変換」ボタンをクリックすると「名前を付けて保存」画面が表示され、ファイル名の所に「フォーマット名.txt」が入力されているので、「保存」ボタンをクリックします。(図 )



データベースから他のデータベースを参照する場合 (リレーションシップ)

(E、EW 版ではデータベース入力是对应していません。)

ここでは、あるデータベースから更に他のデータベースを参照してデータを読み出す「リレーションシップ」の設定について説明をしていきます。例えば、「c:\DrKoubou\Sample」の中にある「商品 DB3.dbs」には「製造者」に関する情報は入れずに、「製造者 No」というデータ項目をつくり、製造者に関する情報 (名称、住所など) は別のデータベース (製造者.dbs) に保存しています。「商品 DB3.dbs」と「製造者.dbs」は「製造者 No」によって互いに関連付けられています。ある商品の製造者名と、住所を読み出したい場合は、まず「商品 DB3.dbs」から「製造者 No」を読み出して、次に「製造者 No」を使って「製造者.dbs」から名前と住所を読み出します。それでは、「sample6.fmt」を参照しながら設定をしていきます。

番号	価格設定	製造者No	加工者No	販売者No	品目CODE設定	英数
00001	ナシ	2	2	5	◎	◎
00002	ナシ	2	1	6	◎	◎
00003	ナシ	2	0	10	◎	◎
00004	ナシ	2	0	11	◎	◎

「商品 DB3.dbs」

番号	CODE	製造者	住所
00001	1	凸凹ハム株式会社 A	千葉県松戸市◇町1234
00002	2	凸凹ハム株式会社 B	千葉県松戸市◇町5678
00003	3	凸凹ハム (株) 東京工	東京都品川区◇▽8-9-3
00004	4	凸凹ハム株式会社 AB	東京都◇▽市△△町987
00005	5	凸凹ハム株式会社 12	千葉県船橋市◇町123
00006	6	凸凹ハム株式会社 YH	東京都江戸川区◇川1555
00007	0		
行追加			

「製造者.dbs」

1

図 は「sample6.fmt」を示しています。その中にある「製造者 ~ 販売者」セルを拡大したものが図 になり、更にここに設定されている内容を示しているのが、図 のリスト画面になります。リスト画面 (図) にある「No.036」を見ると属性が「入力」の「文字列」が設定されているのが分かります。(あらかじめ「商品 DB3.dbs」をデータベース No.1 に設定してあります。) 「No.036」は、データベース No.1 (「商品 DB3.dbs」) から「製造 No」を読み出す事を示していますが、印字しない設定になっています。これは、「製造 No」データには製造者の名前、住所のデータは無く、コードのみが登録されているので、コード No を印字しない為です。

036	文字	入力	(DB1, 製造者No)
P037	呼出	参照	(No.036, 製造者, 20B)
038	呼出	参照	(No.036, 住所, 50B)
P039	文字	参照	(No.038, 全体参照)
040	文字	入力	(DB1, 加工者No)
P041	呼出	参照	(No.040, 加工者, 30B)
042	呼出	参照	(No.040, 住所, 50B)
P043	文字	参照	(No.042, 全体参照)
044	文字	入力	(KEY, 販売者No)
P045	呼出	参照	(No.044, 販売者, 36B)
046	呼出	参照	(No.044, 住所, 50B)
P047	文字	参照	(No.046, 全体参照)

原材料名	あいうえおあいうえおあいうえおあいうえお		
製造日付	12345678		
賞味日付	12345678		
内容量	ABCDEFE	検印方法	ABCDC以下で保存
製造者	あいうえおあいうえおあいうえお		
加工者	あいうえおあいうえおあいうえお		
販売者	あいうえおあいうえおあいうえお		

製造者	あいうえおあいうえおあいうえお
加工者	あいうえおあいうえおあいうえお
販売者	あいうえおあいうえおあいうえお

2

「No.037」は「呼出データ」を使って別のデータベース（「製造者.dbc」）にある「製造者名」データを印字する設定をしていきます。P20 の「呼出データ」でも説明していますが、指定した番号のアイテム、ここでは「No.036」（「製造 No.」）からデータを取り、それを呼出条件として指定したデータベース（「製造者.dbc」）から、対応するアイテムデータ（「製造者.dbc」中の「CODE」データ）を呼出し、そのアイテムデータから指定したデータ名称（「製造者」）と一致するデータを抽出する設定になっています。（図 ）



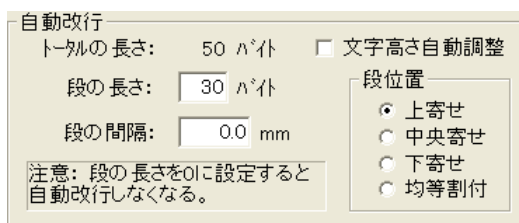
3

「No.038」にも同様に「呼出データ」を設定し、「製造者.dbc」にある「住所」データを印字する設定をします。図 は「No.038」の「呼出データの設定」画面ですが、設定内容は、「No.037」とほとんど同じになります。違うところは2つあり、「データベース中のデータの名称」部分は「住所」を選択します（参照ボタンをクリックします）。もう1つは印字しない設定になっています。これは、「製造者.dbc」を参照して頂くとお分かりになりますが、「住所」のデータ長（データの長さ）は50バイトに設定されている為、フォーマットの「住所」セルに収まりきらず、はみ出してしまう可能性があります。その為、「No.038」は印字しないで、次の「No.039」の「文字列」で印字させるようにします。



4

「No.039」の文字列は、「No.038」を全体参照して、印字する設定をします。図 は「文字列の設定」の一部ですが、トータル長さ：50バイト（データ長）の文字列を改行する設定は、「段の長さ：」のところに入力します。



5

図（P47）のリスト画面を参照しながら、残りの「加工者」セルにも、1～4で設定した「製造者」（製造者名と住所）と同じ要領で設定します。

6

「No.036 ~ No.047」で設定した内容を「印刷」画面で確認すると、図 のようになります。図 は「製造者」、「加工者」、「販売者」セルの設定内容を拡大したのですが、それぞれ呼び出されたものがレイアウト画面(画面左)に表示されているのが分かります。

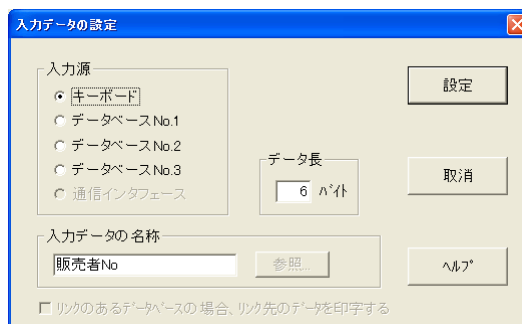


4 つ以上のデータベースからデータを入力したい場合

1 つのフォーマットには、3 つまでデータベースからデータを読み出して印刷することができますが、実際に 4 つ以上のデータベースからデータを入力したい場合もあります。その場合は「呼出データ」を利用します。それでは、P47 の「データベースから他のデータベースを...」を参考に「呼出データ」アイテムを同様に設定していきながら説明していきます。

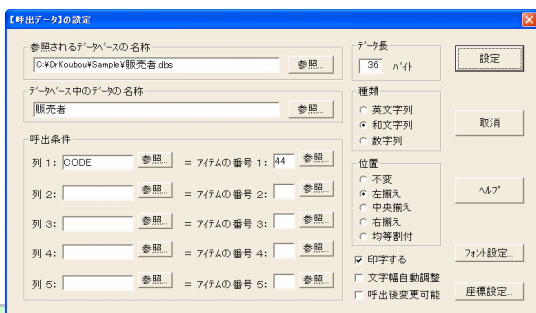
(E、EW 版ではデータベース入力に対応していません。)

1 の図 のリスト画面にある「No.044 ~ No.047」を参照しながら、まずキーボードから入力する文字列アイテムを印刷しないように設定していきます。右図 のように、「入力源」は「キーボード」を選択し、「入力データの名称」には、印刷発行時に分かりやすくする為に、「商品 DB3.dbs」にあるデータと同じ名称を入力してあります。



2

残りの「No.045 ~ No.046」も、先程と同じ要領で、「No.044」の文字列を呼出条件として呼出データアイテムを設定します。図 は「No.045」の「呼出データ」設定画面を表し、「販売者」のデータを呼び出す事を示し、図 は「No.046」で販売者の「住所」データ呼び出す事を示しています。

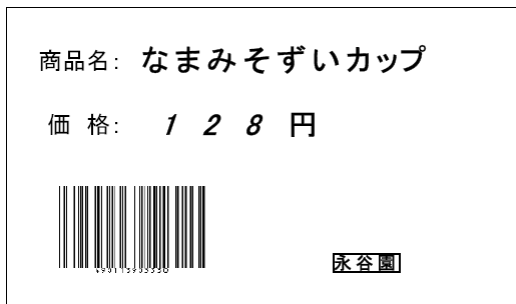


3

「No.047」も同様に、「No.046」を全体参照する文字列を設定し、「段の長さ：」を入力します。印刷時は、呼出条件（ここでは販売者 No）をキーボードで入力して、データベースからデータを呼び出して印字することができます。（ P 49 図 、 参照）

条件によりアイテムを選択して印字したい場合 1（ジャンプ）

例えば、月曜日から日曜日まで毎日販売する商品があり、“火曜日だけ特売価格で通常より安く値段を設定したい” というように、ある決められた条件に基づき DATA の印字内容を変更するとき、「ジャンプ」アイテムが便利です。それでは、「Samplew 1.fmt」を参照しながら、「ジャンプ」アイテムの設定例を見ていきましょう。（ E、EW 版では対応していません。）



「Samplew 1.fmt」 図

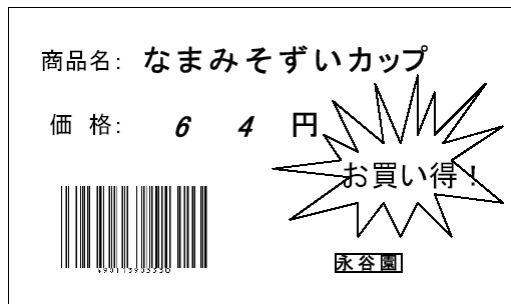


図 - 2

1

上図の「Samplew 1.fmt」は火曜日だけ、商品の価格を半額にして印字するように作成してあります。図- が火曜日以外の曜日に印刷される通常価格のデザインで、 - 2 は火曜日に印字される半額のデザインです。どちらも同じ1つのフォーマットですが、DATA 印刷時に条件を入力することで印字する内容を選択できるように設定してあります。このフォーマットのリスト画面が図 - 3 に表示されている内容です。フォーマットには通常の価格を表示する文字

図 3

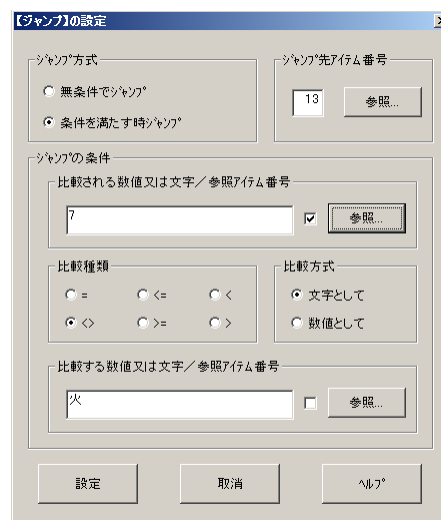
番号	種類	属性	その他
001	文字	固定	(商品名:)
002	文字	入力	(DB1, 商品名)
003	文字	固定	(価 格:)
004	文字	固定	(円)
005	文字	入力	(DB1, 標準価格)
006	バー	入力	(DB1, JANコード)
007	文字	入力	(KEY, 曜日)
008	JUMP	自動	(No.007<>火->No.013)
009	多角	固定	26角形(31.0,8.0)-(58.0,27.0)
010	文字	固定	(お買(得!))
011	演算	参照	(No.005*0.500000)
012	JUMP	自動	(無条件->No.014)
013	文字	参照	(No.005,全体参照)
014	文字	入力	(DB1, メーカー名)
***	***	***	*****

列アイテムと半額の価格を表示させるための演算アイテムを設定します。No.005 で「商品 DB2.dbs」から標準価格データが設定してありますが、これは半額の金額表示のための No.011 の演算アイテムの参照先とするので、ここでは印字しない設定をします。また、通常価格を表示するために、No.013 に No.005 の標準価格データを参照する文字列アイテムを設定しておきます。また、印刷時に標準価格を表示するか半額の金額を表示するかの条件を入力できるように No.007 のキー入力の曜日という文字アイテムを設定しておきます。

2

ここで半額の金額を表示する演算アイテム No.011 と同時に印字したい多角形アイテムと「お買い得！」という文字列アイテムは火曜日以外の曜日を印字する時は、印字したくありません。そこで通常印字したくないアイテムの前に「ジャンプ」アイテムを設定することで、印刷時に No.007 で「火」という条件が入力されなければ、No.009 ~ No.011 を飛び越えて、通常価格を表示する No.013 のアイテムを印字する設定をします。

ジャンプアイテムはツールボタン、またはメニューの (J) アイテム (V) ジャンプを選択します。
【ジャンプ】の設定ダイアログが表示されます。



3

No.008 のジャンプアイテムを見てみると、条件によって半額を表示するアイテム (No.009 ~ No.011) を飛び越えるので、ジャンプ方式は「条件を満たす時ジャンプ」を選択します。ジャンプの条件では、比較される数値又は文字/参照アイテムの欄にそれぞれ比較するもの (ここでは、曜日が設定されているアイテム7と「火」の文字) をそれぞれ入力します。比較種類は「<>」を選択します。そして、この条件を満たす時のジャンプ先として No.013 をジャンプ先のアイテムに設定します。これで、印刷時に No.007 の曜日にキー入力で「火」以外の曜日を入力したならば常に通常価格を表示する No.013 のアイテムまでのアイテムは印字されません。



4

さらに、図 - 3 のリスト画面を見ると、No.012 にもジャンプアイテムが設定されています。これは、No.008 の条件が満たされなかった場合、すなわち火曜日の半額表示される時は通常価格の表示は印字されないようにするためです。この場合、ジャンプ方式を「無条件でジャンプ」を選択し、ジャンプ先を No.014 のメーカー名を設定することで、印刷時に「火」と入力し、No.009 ~ No.011 のアイテムが印字される場合には、通常価格を表示するアイテム No.013 が印字されなくなります。

このように条件により印字するアイテムが複数アイテムある場合、ジャンプアイテムを設定すると便利です。

条件によりアイテムを選択して印字したい場合 2 (条件参照)

同じく、一つのフォーマットである条件によって印字する内容を変えたい場合、「条件参照」アイテムを利用して印字するアイテムを選択する方法を説明していきます。例として、「130円より高い商品には5点、それより安い商品には1点を印字する」とします。(sample24.fmt)
(E、EW 版では対応していません。)

1

条件は「価格が130円より高い」として、この条件に対応する「真・偽」の答えが「5・1」となります。条件によって変わる「5・1」の数字は印字しない文字列としてフォーマットに設定します(図 アイテム9、10参照)

2

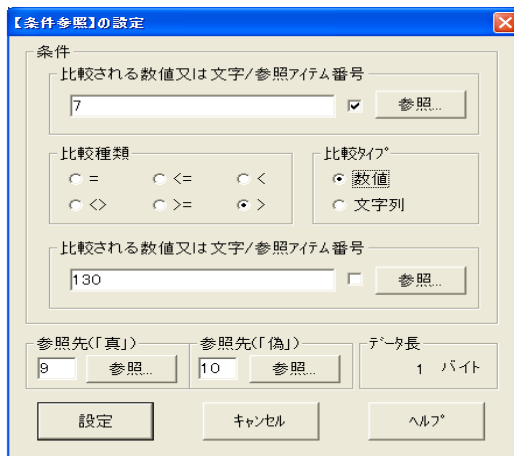
または、メニューの(6)アイテムから(X)条件参照を選択すると、【条件参照】の設定ダイアログ(図)が表示されます。比較される数値又は文字/参照アイテムの欄にそれぞれ比較するもの(ここでは、商品の価格が設定されているアイテム7と130円の数値)をそれぞれ入力します。比較種類は、>を選択して、アイテム7(価格)が130円より高いという条件を設定します。

番号	種類	属性	その他
印001	枠線	固定	(1.0,0.9)-(48.8,49
印002	枠線	固定	(1.0,47.8)-(48.8,3
印003	文字	固定	(商品名)
印004	文字	入力	(DB1, 商品名)
印005	文字	固定	(価格)
印006	文字	固定	(円)
印007	文字	入力	(DB1, 価格)
印008	文字	固定	(ポイント)
009	文字	固定	(5)
010	文字	固定	(1)
011	参照	参照	([No.007>130.00000
印012	文字	参照	(No.011,全体参照)
印013	文字	固定	(きりとり線)
***	****	****	*****

文字列設定の時、 印字する に
チェックを入れないで設定します。

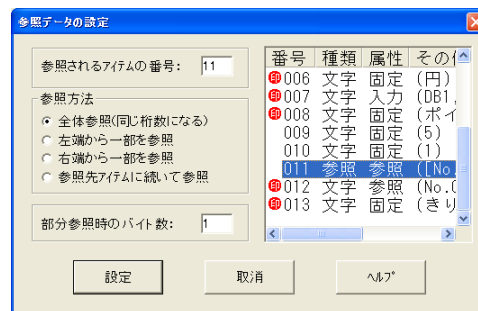
3

次に、この条件に対応する「真・偽」の参照アイテムを設定します。ここでは、条件通り、商品の価格が130円以上なら5になるので、「真」の参照アイテムにはアイテム No.009 を、以下なら1なので「偽」のアイテムにはアイテム No.010 を設定します。最後にこの結果を印字させるために、文字列アイテムの属性を参照で設定し（下図）、この【条件参照】（アイテム No.011）を参照されるアイテムとして設定します（図 のアイテム No.012）。



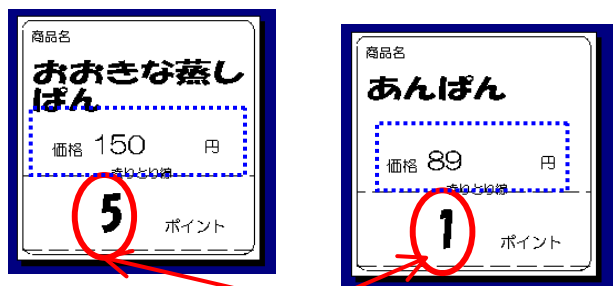
4

印刷する際は、図 -1,2 のように呼び出される商品の価格によって、このひとつのフォーマットだけで、2種類の印字内容を自動的に選択して印刷されます。



1

2



- 1 商品の価格 > 130円 なので 5
- 2 商品の価格 > 130円 なので 1

第 2 部

データベース管理

データベースを利用する事によって、印刷時に毎回同じデータを入力する必要がなくなり、作業効率のアップになります。さらに、データを管理する事もでき、特に工場や商店等の既存の管理用データベースとのやり取りや、ネットワークを通してホスト側のデータベースへの遠隔操作ができます。それでは、データベース管理の様々な機能について紹介していきます。

データベース管理は、ダイレクト工房 S 版、SW 版、U 版のみ対応しています。

データベースとは

例えば、袋を印刷する為に、事前に商品に関するデータ（商品番号、品名、成分、産地、価格など）を商品ごとにまとめてファイルに登録します。このファイルをデータベースと言い、印刷する時に、そのデータベースファイルから必要なデータ呼び出して印字する事ができます。

データ項目

番号	品名	メーカー名	JANコード
00001	ミスターコーヒー	P o k k a	490247100320
00002	烏龍茶	カルピス	490134051221
00003	紅茶伝説アイスティ	カルピス	490134056521
00004	オリジナルブレンド	UCC	490120100708
00005	ブレンドコーヒー	UCC	490120120129

アイテム

データベースを作成する時に特に注意する事は、必ず関連のあるデータをデータベースに設定して下さい。関連のあるデータとは、同じ現象から生じる結果、又は同じ対象や事柄などを説明するデータの事です。まったく関連の無いデータを1つのデータベースに設定すると、データの管理やデータの呼び出しが正常にできない恐れがあります。

データベースに設定できるデータ項目の数は 250 個まで、データベースに登録できるアイテム数は 999999 個までになります。

又、アイテムが登録されている状態でも、データ項目の追加や挿入、削除などができます。

画面の構成

次は【図3 - 1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

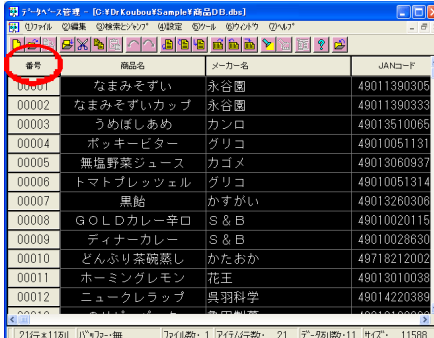
【図3 - 1】



第2部 データベース管理 / 画面の構成

番号ボタン

このボタンをクリックすると、全てを選択する事ができます。データベースに「呼出コード*4」が設定されていない場合、ここに設定される行番号で呼び出されます。



番号	商品名	メーカー名	JANコード
00001	なまみそすい	永谷園	49011390305
00002	なまみそすいカップ	永谷園	49011390333
00003	うめぼしあめ	カンロ	49013510065
00004	ポッキービター	グリコ	49010051131
00005	無塩野菜ジュース	カゴメ	49013060937
00006	トマトフレッシュ	グリコ	49010051314
00007	黒糖	かすかい	49013260306
00008	GOLDカレー辛口	S & B	49010020115
00009	ディナーカレー	S & B	49010028830
00010	どんぶり茶碗蒸し	かたおか	49718212002
00011	ホームイングレモン	花王	49013010038
00012	ニュークセラップ	興羽科学	49014220388

データ名称ボタン

各データ項目の名称が表示されます。このボタンをクリックすると、そのデータ項目（列）が選択されます。Wクリックすると、そのデータ項目列の設定画面が表示されます。

列・行 追加ボタン

「列追加」ボタンの場合、新しいデータ項目の設定画面が表示され、設定ボタンをクリックすると新しいデータ項目（列）が追加されます。「行追加」ボタンの場合、新しい行が追加されます。

セレクト枠

リスト画面における選択されているデータを示します。

リスト画面

データベースのデータを表示する画面です。この画面で、行や列やアイテムのデータを選択して、削除したり、バッファーにコピーしたりする事ができます。

行番号ボタン

6桁の行番号が表示されます。このボタンをクリックするとその番号の行が選択されます。

列・行 セレクトバー

リスト画面で選択されているアイテム（列・行）を示します。

*4 データベースから特定のデータを呼び出す時に必要なコード。

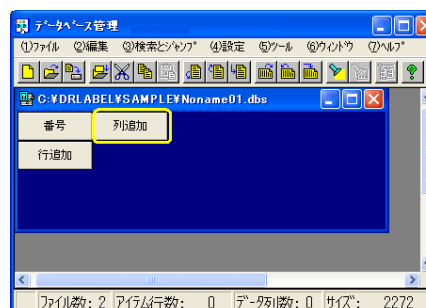
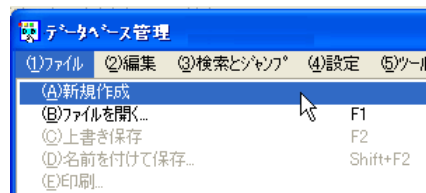
データベースの設定方法

データベースを作成する為に、まずデータベースの構造を設定する必要があります。データベース構造の設定とは、データベースに「データ項目」の数、名称、属性、バイト数を設定する事です。

—— データ項目の設定方法 ——

「データベース管理」の「(1)ファイル」から「(A)新規作成」をクリックすると、「Noname01.dbs」(新規データベース画面)が表示されます。

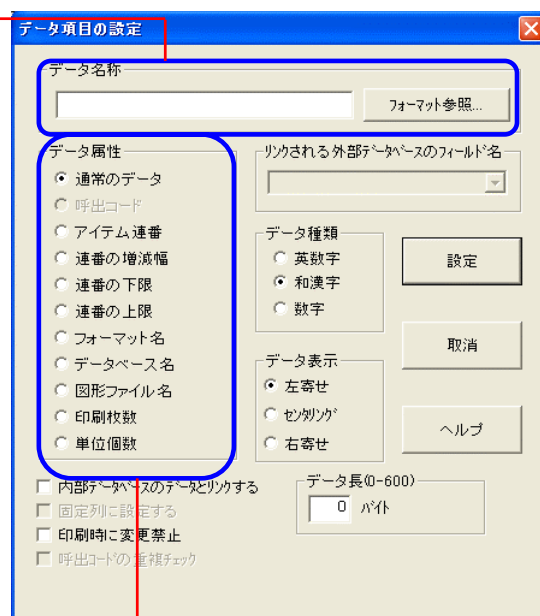
更に、「列追加」ボタンをクリックすると、「データ項目の設定」画面が表示されます。



—— 各項目の説明 ——

データ名称

印刷をする時に、この名称でデータベースからデータ呼び出すので、名称を安易に変更してしまうと、正常に発行する事ができなくなります。これは、その変更したデータ名称に関連付けられているフォーマットも変更しなければならぬからです。つまり、フォーマットで設定されている「データベース入力アイテム」と全く同じ名称でなければなりません。事前にどのフォーマットと関連するかが分かっている場合、「フォーマット参照...」ボタンをクリックしてデータ名称のリストから選択したほうが間違いないでしょう。



データ属性

「ダイレクト工房」では、データベースに通常のデータを設定できる他、特殊なデータも設定する事ができます。「図形ファイル名」を除いて、特殊データはそれぞれ1つしか設定できません。

「データ属性」の各項目については、次のページで説明していきます。

呼出コード

データベースからアイテムを呼び出す時、検索の対象になるデータです。

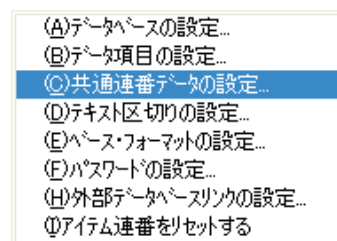
アイテム連番

それぞれのアイテムに付いている連番です。この連番を使って印刷する時は、その連番が書き換えられます。

連番の増減幅

アイテム連番の増減幅になるデータです。

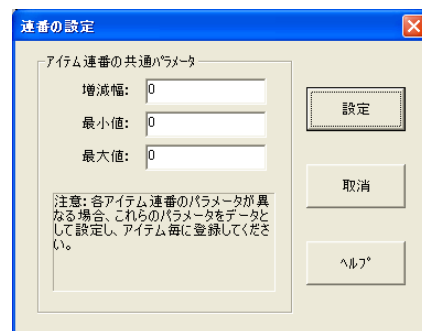
全てのアイテム連番の増減幅が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4)設定」から「(C)共通連番データの設定...」で設定して下さい。



連番の下限

アイテム連番の最小値になるデータです。

全てのアイテム連番の最小値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4)設定」から「(C)共通連番データの設定...」で設定して下さい。



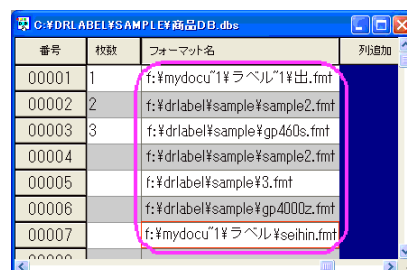
連番の上限

アイテム連番の最大値になるデータです。

全てのアイテム連番の最大値が同じ場合は、この設定は不要になります。その場合は、メニューの「(4)設定」から「(C)共通連番データの設定...」で設定して下さい。

フォーマット名

アイテムとつながるフォーマットファイル名を登録するデータです。(右図)印刷する時に、印刷モードを「データベース優先」(先にデータベースからデータを呼び出して、関連するフォーマットを後から呼び出すモード)を選択した場合、必要なデータになります。この印刷モードについては、第3部「印刷」の「初期設定」で詳しく説明します。又、ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。




データベース名

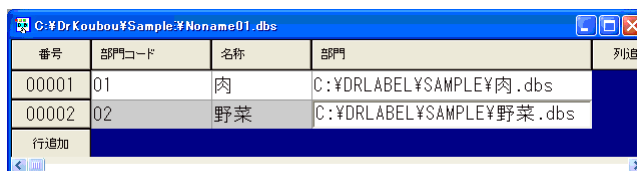
アイテムとつながるデータベースファイル名を登録するデータです。

今のデータベースから更に他のデータベースにリンクする場合に必要なデータです。

又、ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。

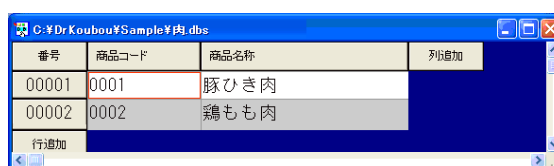
例えば

右図の「部門」データ項目の属性は「データベース」に設定されています。ツールバーの  ボタンをクリックし、「ファイルを開く」ウィンドウからリンクさせるデータベースを指定します。



番号	部門コード	名称	部門
00001	01	肉	C:\DR\LABEL\SAMPLE\肉.db
00002	02	野菜	C:\DR\LABEL\SAMPLE\野菜.db
行追加			

印刷時に、図の行番号「00001」を選択すると、図の「肉.db」データベースにリンクされ、「豚肉」や「鶏肉」等のアイテムをフォーマットに印字させ、印刷する事ができます。



番号	商品コード	商品名称
00001	0001	豚ひき肉
00002	0002	鶏もも肉
行追加		

又、行番号「00002」を選択すると、図の「野菜.db」にリンクされ、「ほうれん草」や「ねぎ」等アイテムを印字、印刷する事ができます。



番号	商品コード	商品名称
00001	0001	ほうれん草
00002	0002	ねぎ
行追加		

図形ファイル名

アイテムとつながる図形ファイル名を登録するデータです。

又、ファイル名には、ディレクトリ名などのパスが含まれるので、十分な長さが必要になります。

印刷枚数

印刷枚数を登録するデータです。単位個数が1の場合は実際の印刷枚数と一致しますが、値が2以上の時はアイテムの総個数を設定する必要があります。

単位個数

アイテムの単位個数を登録するデータです。

データ長

データの長さをバイト単位で設定します。フォーマット参照でデータ名称を設定した場合、データ長も自動的に設定されます。

データ種類

データ種類を設定します。半角文字列は英数字に、全角文字列は和漢字に、数値の場合は必ず数字に設定します。データを登録する時、データ種類によって全角入力モードと半角入力モードが自動的に切り換えられます。

データ表示

データの表示方法を設定します。「左寄せ」は左側に、「センタリング」は中央に、「右寄せ」は右側にデータを寄せて表示します。とても長く画面に表示しきれないデータに対しては「左寄せ」、数字のデータに対しては「右寄せ」に設定したほうがいいでしょう。

固定列に設定する

ここにチェックをすると、列が固定され、スクロールバーを使っても画面に残って表示されます。ただし、一番左側の列から設定する必要があります。

印刷時に変更禁止

ここにチェックをすると、当該データが印刷の時に変更できなくなります。

呼出コードの重複チェック

ここにチェックをすると、呼出コードを設定した列に同じデータ値がないかどうかのチェックを行い、あればエラーメッセージが表示されてそのデータ値が登録できなくなります。

内部データベースのデータとリンクする

ここにチェックをすると、設定したデータ項目が他の内部データベースのデータ項目と呼出コードによってリンクすることになります。呼出コードが設定されていなければ番号によってリンクされます。

リンクされる外部データ名称

プロ版のみのサポートとなります。

データ項目（列）を外部データベースのどのフィールド（列）と関連づけるかを設定します。メニュー「(4)設定」の「(H)外部データベースリンクの設定」にリンクする外部データベースを設定すると、このパラメータが有効になります。関連づけを設定すると、外部データベースからデータをロードする時に、リンク先フィールド（列）のデータが自動的に設定したデータ項目（列）に入ってきます。

リスト画面の操作方法

リスト画面は、データを表示するだけでなく、入力や変更、削除、コピーする事ができます。

画面のスクロール

データが多くてリスト画面に表示しきれない場合、画面をスクロールしますが、マウスによる方法、キーによる方法、ジャンプによる方法の3つがあります。

マウスによる方法

水平、垂直スクロールバーのボタンをドラッグ、又はバーをクリックします。この方法では、セレクト枠の位置は変わりません。

キーによる方法

PageUp PageDown ボタンを押す事で、10 アイテムずつ画面を垂直にスクロールする事ができます。又 Shift キーを押しながら、PageUp や PageDown ボタンを押すとデータ項目が2列ずつ水平にスライドします。この方法では、セレクト枠の位置が変わります。上下左右の矢印キーからでも、セレクト枠を移動する事によって画面を水平、垂直にスクロールする事ができます。

ジャンプによる方法

メニューの「(3)検索とジャンプ」から選択する方法と、ツールバーボタンをクリックする方法があります。

③検索とジャンプ ④設定 ⑤ツ...

- (A)新規検索... F7
- (B)次へ検索 F8
- (C)置換...
- (D)並び替え...
- (E)最初行へ Shift+Home
- (F)最後行へ Shift+End
- (G)指定行へ... Shift+F9
- (H)最初列へ Ctrl+Home
- (I)最後列へ Ctrl+End
- (J)指定列へ... Ctrl+F9

最初行へジャンプ 最初、最後、指定先のアイテムにジャンプします。(垂直移動)

最後行へジャンプ

指定行へジャンプ

指定行へのジャンプ

ジャンプ先のアイテム番号: 00021

ジャンプ キャンセル

最初列へジャンプ 最初、最後、指定先のデータ項目にジャンプします。(水平移動)

最後列へジャンプ

指定列へジャンプ

指定列へのジャンプ

データ項目名称の一覧

- 01 品名 (02B,通常データ)
- 02 メーカー (02B,通常データ)
- 03 JANコード (12B,通常データ)
- 04 標準価格 (4B,通常データ)
- 05 値引標準 (3B,通常データ)
- 06 賞味日数 (3B,通常データ)
- 07 内容量 (10B,通常データ)
- 08 商品連番 (9B,7桁目連番)
- 09 連番の増減幅 (4B,連番増減幅)
- 10 連番の下限 (6B,連番下限)
- 11 連番の上限 (6B,連番上限)
- 12 箱入数 (2B,単位/箱数)

ジャンプ キャンセル

グループの選択

アイテム（行選択）

選択したいアイテム行の番号ボタンをクリックすると、そのアイテム行が選択されます。（行セレクトバー）上下の矢印キーを押すと、行セレクトバーが上下に移動し、PageUp PageDown ボタンを押すと 1 ページずつ移動します。

番号	品名	メーカー名
00001	ミスターコーヒー	P o k k a
00002	烏龍茶	カルビス
00003	紅茶伝説アイスティ	カルビス
00004	オリジナルブレンド	U C C
00005	ブレンドコーヒー	U C C
00006	グレープ100%	ウェルチ
00007	アップル100%	ウェルチ
00008	ペプシコーラ	ペプシ

データ項目（列選択）

選択したいデータ項目の名称ボタンをクリックすると列が選択されます。（列セレクトバー）左右の矢印キーを押すと、列セレクトバーが左右に移動し、Shift キーを押しながら PageUp PageDown ボタンを押すと、列セレクトバーが 2 列ずつ移動します。

番号	標準価格	値引き額	賞味日数	内容量
00001	110	10	180	190g
00002	210	20	180	500ml
00003	120	20	180	350ml
00004	688	8	180	1000g
00005	110	8	180	180g
00006	498	8	14	1リットル
00007	458	8	14	1リットル
00008	110	30	180	350ml

グループ選択する場合は、グループ最初の行番号ボタン（列の場合は、最初のデータ項目名称ボタン）をクリックし、Shift キーを押しながら最後の行番号ボタン（列の場合は、最後のデータ名称ボタン）をクリックします。又は、ドラッグ操作でもグループ選択する事ができます。

ブロックを選択する場合は、最初に一つセルをクリックして、そのまま選択したい範囲までドラッグ操作をすると、リスト中のデータをブロックで範囲選択できます。

番号	JANコード	標準価格	値引き額	賞味日数	内容
00001	490247100320	110	10	180	190g
00002	490134051221	210	20	180	500ml
00003	490134056521	120	20	180	350ml
00004	490120100708	688	8	180	1000g
00005	490120120129	110	8	180	180g
00006	490406000710	498	8	14	1リットル
00007	490406000711	458	8	14	1リットル
00008	490100490161	110	30	180	350ml

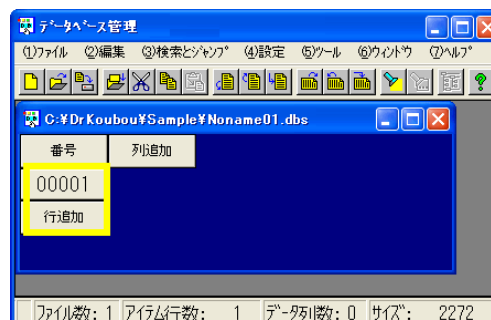
全てのアイテムを選択する場合は、リスト画面の左上角の

ボタンをクリックするか、メニューの「(2)編集」「(I)すべて選択」をクリックします。アイテムの選択を解除するには、行、列ボタン以外のエリアをクリックします。

アイテムとデータ項目の追加と変更

アイテムの追加

リスト画面にある ボタンを押すか、又はメニューの「(2)編集」「(C)行追加」をクリックする事で新しいアイテムが追加されます。



データ項目の追加と変更

リスト画面にある ボタンを押すか、又はメニューの「(2)編集」「(D)列追加」をクリックする事で新しいデータ項目が追加されます。設定済みのデータ項目を変更したい場合は、変更したいデータ項目名称ボタンを W クリックします。「データ項目の設定」画面が表示されるので、変更したい部分を修正したら、設定ボタンをクリックします。新しい設定が記憶されます。又、メニューの「(4)設定」「(B)データ項目の設定...」からでも同じ作業ができます。

データの入力と変更

通常、セレクト枠（選択されているセル）は、赤の枠で囲まれています。データの入力や変更をする時には、枠の色は黒になります。データの入力、変更方法には、3つあります。

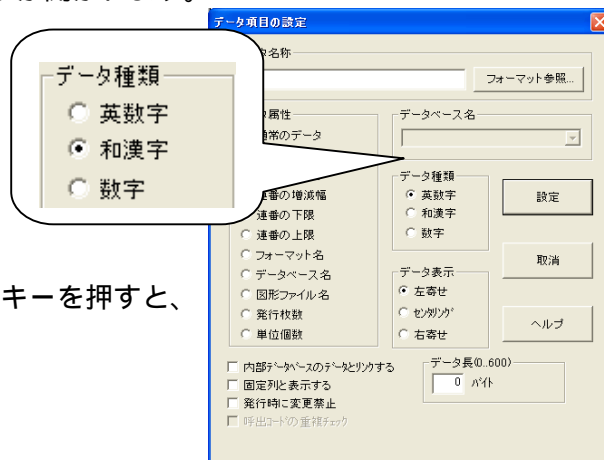
1. 入力又は、変更を加えたいセルを、Wクリックします。
2. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、Shift キーを押しながら Enter キーを押します。
3. セレクト枠を入力又は、変更を加えたいセルに移動し、そのままデータを入力します。最初の1文字入力によって、入力ウィンドウが開かれます。

番号	品名
00001	ミスターコーヒー
00002	烏龍茶
00003	紅茶伝説アイスティ
00004	オリジナルブレンド
00005	ブレンドコーヒー


全角、半角の入力モードは、はじめに設定した「データ種類」の「英数字」、「和漢字」、「数字」によって自動切り換えします。

入力を取消したい場合、Esc キーを押すと、今入力したデータは取消されます。

又、Shift キーを押しながら、上下左右の矢印キーを押すと、入力セルを移動する事もできます。



ファイル名参照入力

データの属性が「フォーマット名」、「データベース名」、「図形ファイル名」の場合、正確にファイル名が分からない場合にとっても便利です。右図のように、メニューの「(2)編集」、「(J)ファイル名参照入力」をクリックするか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、「ファイルを開く」ダイアログボックスが開かれるので、ファイルリストからファイルを選択し、開くボタンをクリックすると、ファイル名が自動的に登録されます。

番号	枚数	フォーマット名	列追加
00001	1	f:¥mydocu¥ラベル¥出.fmt	
00002	2	f:¥drlabel¥sample¥sample2.fmt	
00003	3	f:¥drlabel¥sample¥gp460s.fmt	
00004		f:¥drlabel¥sample¥sample2.fmt	
00005		f:¥drlabel¥sample¥3.fmt	
00006		f:¥drlabel¥sample¥gp4000z.fmt	
00007		f:¥mydocu¥ラベル¥seihin.fmt	

データ項目の移動

データ項目（列）を移動する場合は、

1. 移動したいデータ項目ボタンをクリックし選択します。
2. ツールバーにある「切り取り」ボタンか、メニューの「(E)切り取り」を選択
3. 挿入したい列の、（選択した列の左側に挿入されます）データ項目ボタンをクリックし、ツールバーにある「貼り付け」ボタンか、メニューの「(H)貼り付け」を選択

②編集		③検索とジャンプ		④設定		⑤	
(A)元に戻す	Ctrl+Z						
(B)やり直し	Ctrl+Y						
(C)行追加	F3						
(D)列追加	Shift+F3						
(E)行/列挿入	Insert						
(F)切り取り	Ctrl+Delete						
(G)バックアップ	Ctrl+Insert						
(H)貼り付け	Shift+Insert						
すべてを選択							
(J)ファイル名参照入力...	F11						

テキストファイルに書出す・読む

「ダイレクト工房」では、データベースの構造に関する情報とデータベースのデータが独自の形式でファイルに保存されるため、Access、Excel、Oracle、SQL Serverなどの市販のデータベース管理ソフトと互換性を持っていません。しかし、市販のデータベースソフトなどで作成したファイルをテキストファイル形式(.txt)で保存すれば、「ダイレクト工房」で「テキストファイルを読む」事ができます。又、ダイレクト工房で作成したデータベースファイルを「テキストファイルに書出し」、保存すれば市販のソフトウェアがテキストファイルをロードして自分の形式に変換できるので、データは共有できます。尚、プロ版では市販のデータベースソフトのデータを直接読む事ができます。

テキスト区切りの設定

テキストファイルに書出す・読む場合、データ項目の間にどんな記号を入れて区切るかなど、市販のソフトによって異なるので、「ダイレクト工房」では区切り記号などのパラメータを自由に設定できるようになっています。メニューの「(4)設定」 「(D)テキスト区切りの設定...」で設定する事ができます。

- (A)データベースの設定...
- (B)データ項目の設定...
- (C)共通連番データの設定...
- (D)テキスト区切りの設定...**
- (E)ハッシュフォーマットの設定...
- (F)パスワードの設定...
- (H)外部データベースリンクの設定...
- (I)アイテム連番をリセットする

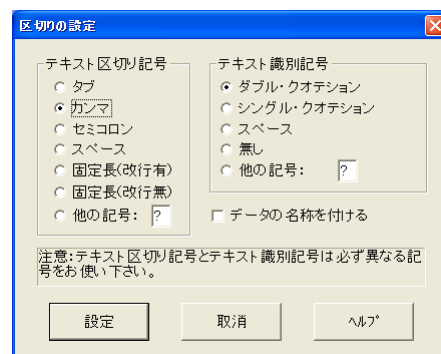
テキスト区切り記号

テキストファイルに書出す・読む時、データ項目とデータ項目の間にどんな記号を入れて区切るかを設定します。常用区切り記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力します。区切り記号を使わずに固定長のテキストに書出し又は読む場合、「固定長」を選択します。ただし、この場合、書出し側又は読む側のソフトウェアでは、全く同じデータ長に設定しなければなりません。

テキスト識別記号

データの中に区切り記号と同じ記号が含まれている可能性がある場合、このパラメータを設定しなければなりません。これは、逆変換する時に、間違っってデータを区切ってしまふ恐れがあるからです。例えば、「”ワイン”,1,900”」この様にカンマ記号(,)を区切り記号とし、価格データにカンマが入っていれば(1,900)「テキスト識別記号」(ここではダブルクォテーション”)を付ける必要があります。常用識別記号以外の記号を使いたい場合、「他の記号」のところに入力し、使わない場合は「無し」を選択します。

注意：テキスト識別記号とテキスト区切り記号を同じ記号に設定にすると、読み込みができなくなるので、同じ記号に設定にしないように気をつけて下さい。



データの名称を付ける

テキストファイルに書出し・読む時、1行目にデータ項目の名称とバイト数を入れるかどうかを設定します。これをチェックすると、データ項目に関する一部の情報も他のソフトウェアに伝える事ができます。

テキストファイルに書出す

では、右図にあるデータベースをテキストファイルに書出しをします。

メニューの「(1)ファイル」 「(F)テキストファイルに書出し...」をクリックします。

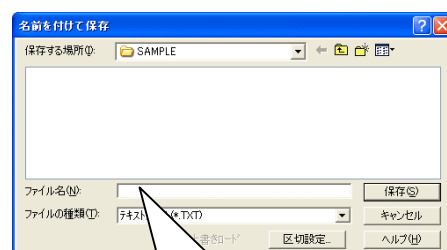
右下図の「名前を付けて保存」画面が表示されます。ファイル名を「商品.txt」と入力し、保存先のディレクトリを指定し **保存(S)** ボタンをクリックします。

「区切設定...」ボタンをクリックすると「区切りの設定」(前ページ)が表示され設定の確認、変更ができます。

メモ帳から「商品.txt」ファイルを開いてみると、右下図のようにデータ項目とデータ項目の間に「,」が入っていて区切られている事が分かります。



番号	商品コード	商品名称	商品価格	列以
00001	0001	オレンジジュース	120	
00002	0002	ココア	130	
00003	0003	紅茶	140	
00004	0004	ドリンク	280	
00005	0005	ビール	500	
00006	0006	お酒	500	
00007	0007	アイソトニック飲料	150	



テキストファイルを読む

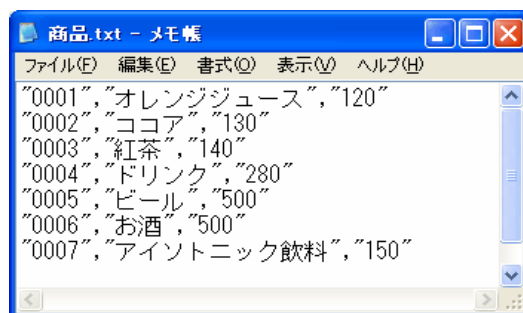
メニューの「(1)ファイル」 「(A)新規作成」からファイルを開くか、又は別の「.dbs」ファイルを開き、ウィンドウに表示させます。

メニューの「(1)ファイル」 「(G)テキストファイルを読む...」をクリックします。「ファイルを開く」画面が表示されるので、ファイル名を入力、又は一覧から選択します。

「区切設定...」ボタンをクリックして、「商品.txt」と同じ区切り記号の設定になっているか、確認をし、

開く(O) ボタンをクリックします。

上書きロード がチェックしてある状態は、開いているデータベースに上書きでロードされます。チェックがない状態は、追加データとしてロードされます。




番号	商品コード	商品名称	商品価格	列以
00001	0001	オレンジジュース	120	
00002	0002	ココア	130	
00003	0003	紅茶	140	
00004	0004	ドリンク	280	
00005	0005	ビール	500	
00006	0006	お酒	500	
00007	0007	アイソトニック飲料	150	
00008	0001	オレンジジュース	120	
00009	0002	ココア	130	
00010	0003	紅茶	140	
00011	0004	ドリンク	280	
00012	0005	ビール	500	
00013	0006	お酒	500	
00014	0007	アイソトニック飲料	150	

「データベース優先印刷」用データベースの設定方法

データベース優先印刷用データベースは、通常のデータベースとは少し違います。データベース優先印刷用のデータベースには、ベース・フォーマットを設定しなければなりません。ベース・フォーマットとは、データベースに登録されているアイテムが使用する全てのフォーマットに共通する、ベースとなるフォーマットの事です。P60の「データ属性」の「フォーマット名」でも少し出てきましたが、印刷モードで、「データベース優先印刷モード(先にデータベースからデータを読み出し、関連するフォーマットを後から呼び出すモード)」を選択している場合は、この項目を設定しないと、印刷ができなくなります。

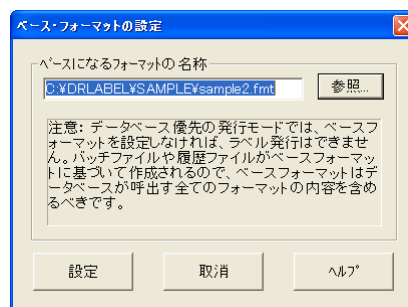
「フォーマット優先印刷モード」を選択している場合は、この項目を設定する必要はありません。

ベースフォーマットの設定

メニューの「(4)設定」 「(E)ベース・フォーマットの設定...」をクリックすると右図 の設定画面が表示されます。

ベースになるフォーマットの名称

ベースになるフォーマットファイルの名前を入力します。
参照ボタンを押してファイル一覧から選択する事もできます。

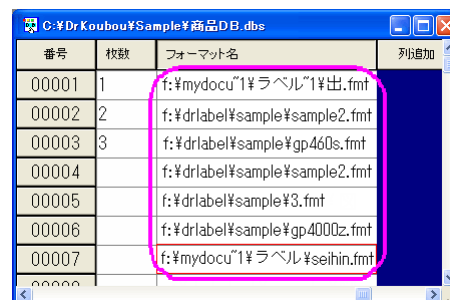


データベース優先印刷モードの場合、印刷時にバッチファイル(印刷を記憶する)や履歴データ(履歴データを記憶する)がベースフォーマットに基づいて作成される為、ベースフォーマットには、データベースに登録されている全てのフォーマットの内容を含めておくべきです。特に、全てのフォーマットにある属性「入力」のアイテムと「履歴データ」アイテムを含まなければ、一部の入力データがバッチ印刷時に印字できない、一部のデータの履歴が取れない等のエラーが発生する恐れがありますので、ご注意ください。

アイテムごとにフォーマットが違う場合

データベースにあるアイテム全てが同じフォーマットを使用する場合は、ベースフォーマットだけを設定すればよいのですが、アイテムごとにフォーマットが違う場合、右図のように属性を「フォーマット名」で設定した列

(データ項目)を作成し、アイテム(行)毎にフォーマット名称(ファイル名)を、登録しなければなりません。ただし、ここに入力するフォーマット名称が、ベースフォーマットと同じであれば、省略する事が可能です。つまり、この「フォーマット名」列に空白セルがある場合は、ベースフォーマットで設定されたファイル名が自動的に呼び出される事になります。



番号	枚数	フォーマット名	列追加
00001	1	f:%mydocu%1%ラベル%1%出.fmt	
00002	2	f:%drlabel%sample%sample2.fmt	
00003	3	f:%drlabel%sample%gp460s.fmt	
00004		f:%drlabel%sample%sample2.fmt	
00005		f:%drlabel%sample%3.fmt	
00006		f:%drlabel%sample%gp4000z.fmt	
00007		f:%mydocu%1%ラベル%seihin.fmt	
00008			

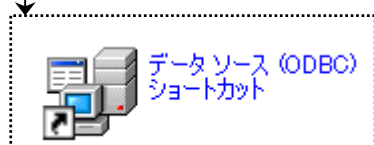
外部データベースのアクセス方法

「ダイレクト工房」では、1つのフォーマットにつき3つのデータベースからデータを呼び出して印字することができます。標準版では、「ダイレクト工房」のデータベース機能を利用して作成したデータベース（以降、内部データベースと呼ぶ）しか参照できませんが、プロ版では市販の汎用データベース（以降、外部データと呼ぶ）を参照することができます。外部データベースを利用するには、そのデータベースの ODBC ドライバをインストールし、ODBC のデータソース名を登録しなければなりません。登録方法は次のようになります。

ODBC のデータソース名を登録する方法

1

「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」 「管理ツール」を開き、その中の「ODBC ショートカット」を開きます。「ODBC データソースアドミニストレータ」ダイアログボックスが表示されます。(図)



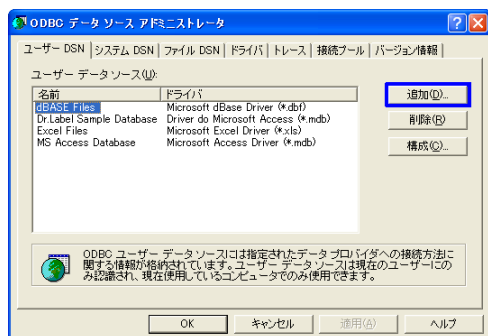
データソース (ODBC) ショートカット

OS によっては、「コントロールパネル」「ODBC (32ビット)」を選択してください。



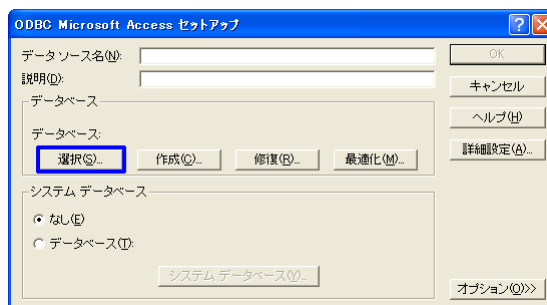
2

「ユーザー DSN」タブにある「追加」ボタンをクリックすると(図)、「データソースの新規作成」画面が表示されます(図)。このダイアログボックスにはドライバが一覧表示されます。ユーザーデータソース用に追加するドライバを選択し[完了]をクリックします(ここでは、Microsoft Access Driver (*.mdb) を選択しています)。



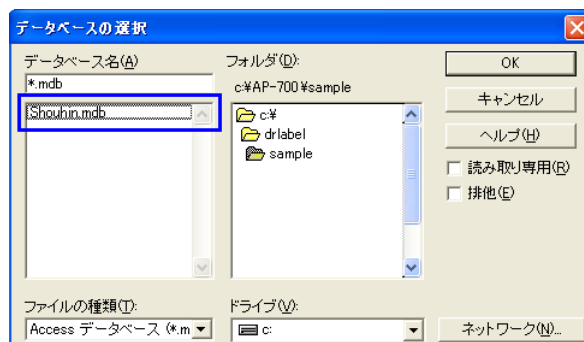
3

Microsoft Access Driver のデータソースのセットアップダイアログボックス(図)が表示されるので、「選択」ボタンをクリックします。



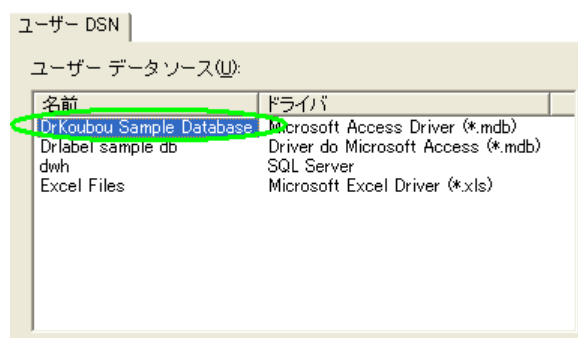
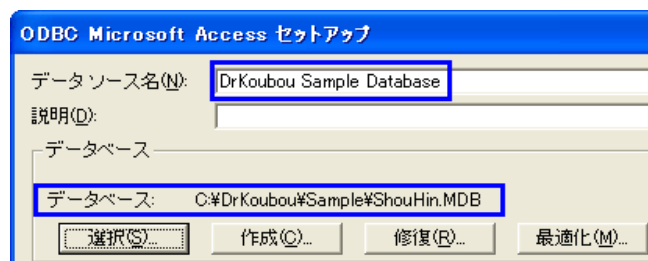
4

次に、「データベースの選択」のダイアログボックスが表示されるので、フォルダデータベースファイルを選択し、「OK」ボタンをクリックします。「ODBC Microsoft Access セットアップ」画面に戻ります。



5

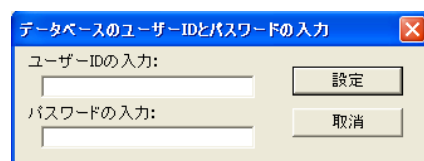
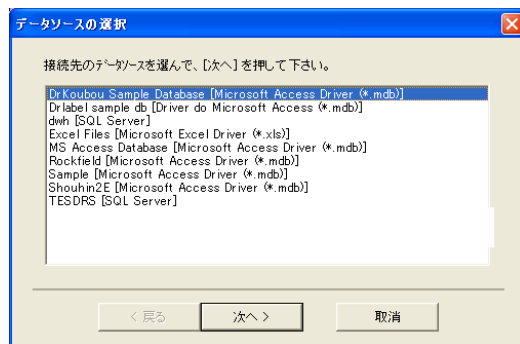
「データベース:」の横には指定したファイル名が表示されているのが確認できます。(図) 「データソース名」のところに、名前を入力して、「OK」ボタンをクリックします。始めの「ODBC データソースアドミニストレータ」画面に戻り、「ユーザーデータソース」の中に追加されます。確認できたら、「OK」ボタンをクリックし、ダイアログボックスを閉じます。これで ODBC のデータソース名の登録は完了です。



「データベース管理」で外部データベースを読み込む場合

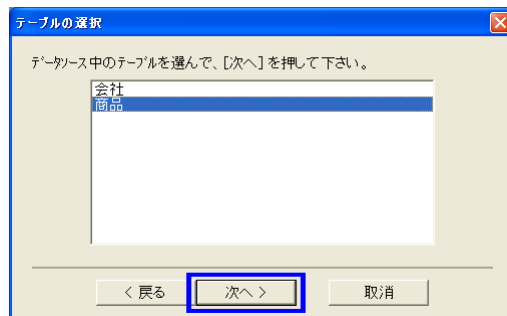
6

「ダイレクト工房」の「データベース管理」で外部データベースから読み込む方法は、「(1)ファイル」「(H)外部データベースを新規読み込む...」を選択します。「ODBC」で登録したデータソースの一覧が表示されます(図)。データソースを選択して、「次へ」ボタンをクリックすると、ユーザーID とパスワードの入力が面が表示されるので、(図)、その二つが設定してある場合、入力して「設定」ボタンをクリックします。ユーザーID とパスワードが設定されていない場合はそのまま「設定」ボタンをクリックします。



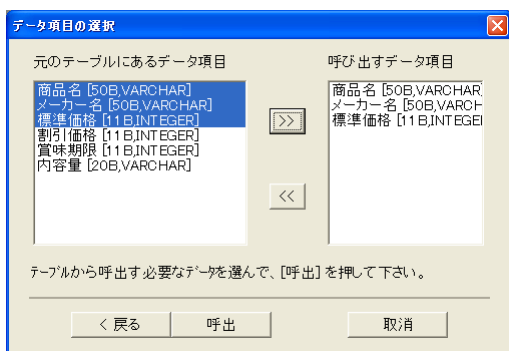
7

次に「テーブルの選択」ダイアログボックスが表示されます(図)。テーブルを選択して「次へ」ボタンをクリックすると、「データ項目の選択」ダイアログボックスが表示されます。(図)



8

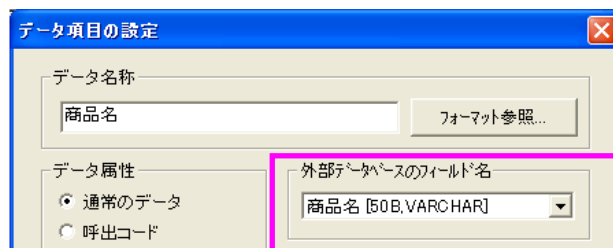
図 画面の左側には、そのテーブルにあるデータ項目が一覧表示されているので、呼び出したいデータ項目を選択し追加ボタン をクリックします。図 画面右側の「呼び出すデータ項目」欄に追加されます。又、「呼び出すデータ項目」欄に追加したデータ項目を削除したい場合、データ項目を選択し ボタンをクリックすると削除されます。「呼出」ボタンをクリックし、図のように外部データベースが読み込まれます。



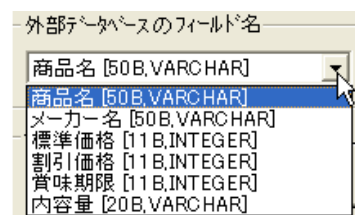
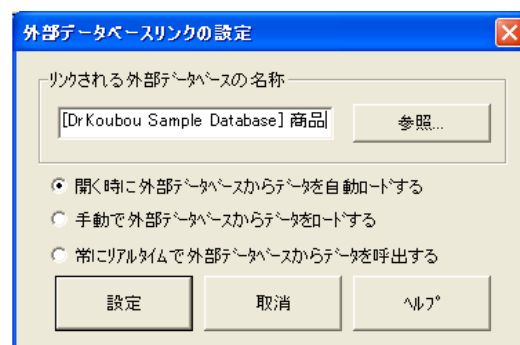
番号	商品名	メーカー名
00001	ミスターコーヒー	P o k k a
00002	鳥籠茶	カルビス
00003	紅茶伝説アスティ	カルビス
00004	オリジナルブレンド	UCC
00005	ブレンドコーヒー	UCC
00006	グレープ100%	ウェルチ
00007	アップル100%	ウェルチ
00008	ペブシコーラ	ペブシ
00009	ストレートピーチ	全農
00010	静岡産 煎茶	カルビス
00011	ウイスキー	サントリー
00012	ワインカフェ	メルシャン
00013	雀巢鶴	日本盛

9

図-9では外部データベースを新規で読み込みました。各データ項目の設定を見ると、「外部データベースのフィールド名」に、読み込んだ外部データベースのフィールド名が自動で表示され、外部データベースとリンクしていることがわかります(図-9)。



既存のデータベースに外部データベースをリンクさせる場合は、メニュー(4)設定 (H)外部データベースリンクの設定...を選択すると、「外部データベースリンクの設定」のダイアログ(図-10)が表示されるので、「参照」ボタンからリンクする外部データベースを設定します(「6」からの設定を参照して下さい)。既存のデータベースに外部データベースをリンクさせる場合、データ項目の設定で「外部データベース・フィールド名」は手動で選択して入力して下さい。



10

外部データベースとリンクさせた場合、上図-10の「外部データベースリンクの設定」でデータ更新の設定をします。

- ・ 手動で外部データベースからデータをロードする

これを選択した場合、自動ロードは行われません。メニューの(1)ファイル (I)外部データベースを再ロードする を選択し手動で更新します。

- ・ 開く時に外部データベースからデータを自動ロードする

これを選択した場合、プログラム「印刷」で「ダイレクト工房」のデータベースが開かれると、指定されたリンクされる外部データベースから全データを自動ロードします。ロードする前の外部データベースに何か変更があれば必ず内部データベースに反映され全データベースをロードされます。但し、印刷においては同じデータベースが何回も開かれる場合があるので、データベースを初めに一回ロードした後はその後ロードを行いません。またそれ以降外部データベースの変更があってもリンクする内部データベースに影響されないため、印刷時データが最新のものとは限りません。

- ・ **常にリアルタイムで外部データベースからデータを呼出する**

これを選択した場合、印刷時、外部データベースのある特定のデータを指定した時に初めて、そのデータをロードします。この場合、呼出するデータは外部データベース内にあるデータの一行だけになります。常に最新のデータをロードすることができます。

尚、外部データベースによって接続とデータの取込みに時間がかかる場合もあるので、マウスが砂時計になっている時はしばらくお待ち下さい。

第 3 部

印 刷

「ダイレクト工房」の大きな特徴の一つが、フォーマット作成と印刷を別のツールに分けてある事です。その必要性やどんなメリットがあるか等様々な機能について紹介していきます。

印刷について

フォーマット作成と印刷を別のツールに分けているのは、管理上操作し易く、安全面から見てもとても優れているからです。

フォーマット作成と印刷は、全く目的の違う作業で、それぞれ特徴をもっています。フォーマット作成は、専任の管理者によって作成される場合がほとんどです。これは、フォーマットは勝手に変えてはいけないケースが多いからです。例えば、値段など勝手に変えられては困る場合があります。その為、印刷時には、フォーマットの変更が一切できないようになっています。印刷において管理上の必要事項として、次の様な事が考えられます。

✎ 印刷用データの準備

例えば、キーボードからデータ入力する、データベースからデータを呼出す、連番の初期値を設定するか等。

✎ 印刷中データ処理の指定

例えば、集計するかどうか、履歴を取るかどうか、連続印刷中日付と時刻を更新するかどうか等。

✎ プリンタの印刷条件の設定

例えば、印字濃度や印字位置等。

✎ 印刷方式の選択

例えば、一枚ずつの印刷か、連続印刷か、バッチ印刷か等。

一方、印刷は、現場で作業される方が使う場合がほとんどで、しかも毎日大量に印刷する機会が多いと考えられます。その為に、印刷は現場で作業する方や初心者の方でも、簡単に操作や設定ができるようになっています。

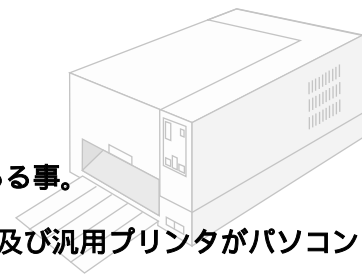
印刷できる必要条件是3つあります。

✎ 必要なフォーマットとデータベースがすべて作成済みである事。

✎ サーマルダイレクト（CPSシリーズ、SCS4シリーズ）及び汎用プリンタがパソコンとつながっている事。

✎ IDキーをパソコンに接続済みである事

IDキーは、印刷をする時に必要になるので、無くなさないように大切に保管して下さい。



画面の構成

次は【図 4 - 1】を基に、画面の構成に関する説明をしていきます。

【図 4 - 1】 S 版、SW 版イメージ

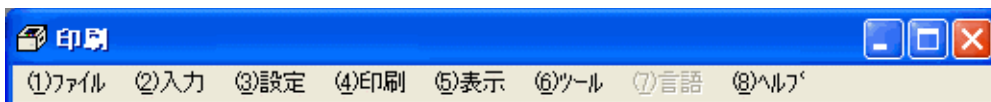


データ入力枠 : レイアウト画面上に入力や変更ができる印字エリアを表します。

データ名称 : リスト画面に表示される入力データ名称です。

データ値 : リスト画面に表示される入力データのカルレント値です。

メニューに関する説明

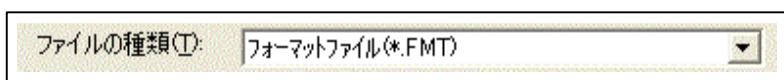
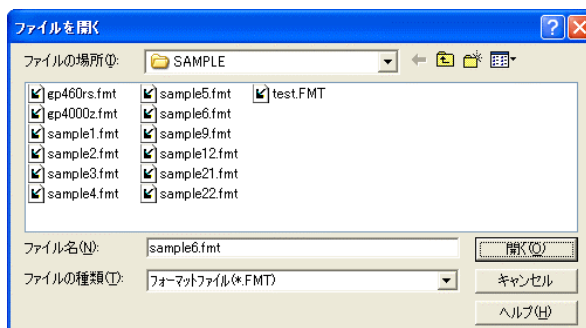
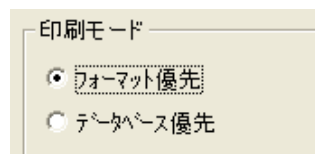


(1)ファイル

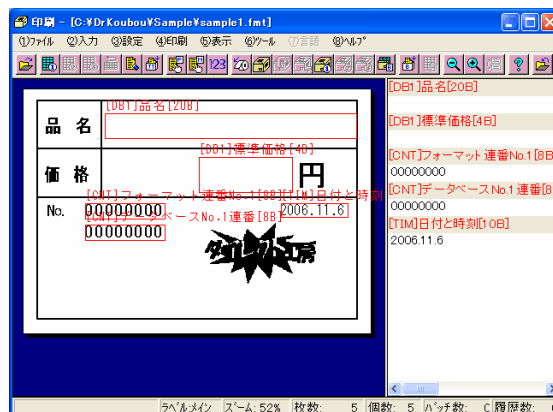
(A)ファイルを開く...

「(3)設定」「初期設定」印刷モードで、
フォーマット優先を選択していればフォーマットを、
データベース優先を選択していればデータ
ベースをメモリにロードします。

(E版、EW版はフォーマット優先モードのみ)



ロードしたファイルの対応フォーマットがレイ
アウト画面に表示され、その名称がタイトルバー
に表示されます。(右図) バッチファイルと履歴
ファイル(履歴データが設定されている時も)も
同時にロードされます。



(B)バッチを開く...

バッチデータファイルをメモリにロードします。

このメニューを選ぶと、「ファイルを開く」

ダイアログボックスが開かれ、ロードしたいバッチデータファイルを選択できます。ロード
したバッチデータファイルの対応フォーマットがレイアウトに表示され、その名称はウインドウの
タイトルバーに表示されます。履歴データが設定されている時に履歴ファイルも同時に
ロードされます。フォーマットに変更があって、バッチデータファイルが変わった場合、
旧バッチデータファイルをロードできません。(E版、EW版は対応しません。)

(C)テキストバッチをロード...

テキスト形式のバッチファイルをメモリにロードします。テキスト形式のバッチファイルにはデータ構造に関する情報が入っていないので、このメニューを選択する前に、フォーマット / データベース / バッチデータファイルを開いておかなければなりません。

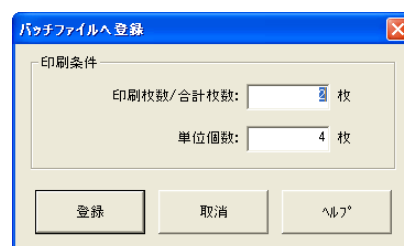
このメニューを選ぶと、「ファイルを開く」ダイアログボックスが開かれ、ロードしたいテキストファイルを選択できます。ロードする前にテキスト区切りの設定が必要です。

(E 版、EW 版は対応しません。)

(D)バッチへ登録...

入力したデータと呼出したデータを 1 レコードとしてバッチファイルへ登録します。

印刷枚数と単位個数の入力ダイアログボックスが表示され、入力した印刷枚数と単位個数もバッチファイルに登録されます。(E 版、EW 版は対応し



ません。)

(E)集計値をクリア

印刷中に集計した値を全てクリアにします。「集計値を自動クリアする」状態にあってもこのメニューが有効です。(E 版、EW 版は対応しません。)

(2)入力

- (A)データベース 1 から呼出...
- (B)データベース 1 から呼出...
- (C)データベース 3 から呼出...

対応するデータベースに登録されているすべてのアイテムの一覧が画面に表示されます。
(E 版、EW 版は対応しません。)

- (D)キーボードから入力...
- (E)呼出データを変更...

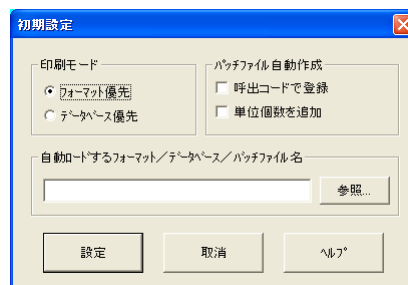
入力ダイアログボックスが開かれ、データの入力と変更ができます。

詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「その他の設定」「データ入力と変更」をご参照下さい。

(3)設定

(A)初期設定...

印刷モードやバッチファイルの自動作成条件を設定します。フォーマットファイル又はデータベースファイルを開くときの動きを決めるものなので、ファイルを開く前に設定されなければなりません。一旦ファイルを開いたら変更はできないので、変更する場合は、「印刷」を終了させて起動し直して下さい。



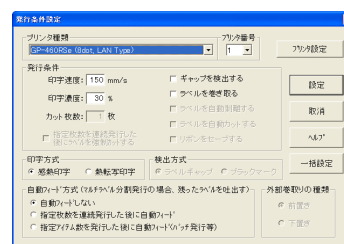
フォーマット優先 先にフォーマットを呼び出してから、データベースのデータを後から呼び出すモード

データベース優先 先にデータベースからデータを呼び出し、関連するフォーマットを後から呼び出すモード (E 版、EW 版は対応しません。)

詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「その他の設定」 「初期設定」をご参照下さい。

(B)印刷条件設定...

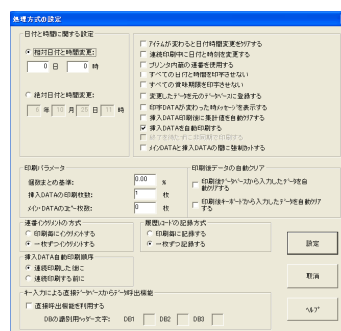
プリンタ種類、濃度、印刷方式などの印刷条件を設定します。



詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「その他の設定」 「印刷条件の設定」をご参照下さい。

(C)処理方式設定...

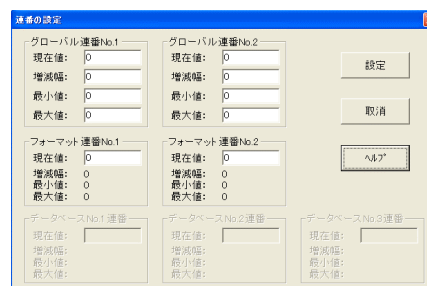
印刷中、日付や時刻、履歴データなどの処理方式を設定します。(ダイレクト工房 U バージョンの場合、上下タイププリンタを使用する時は、「挿入 DATA 印刷方式」の設定を確認してください。P 23 を参照して下さい。)



詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「その他の設定」 「処理方式の設定」をご参照下さい。

(D)連番設定...

グローバル連番の現在値、増減幅、上下限と他の連番の現在値を設定します。



詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「その他の設定」 「連番の設定」をご参照下さい。

(E) 繰返し印刷

指定した枚数で繰返し印刷するように設定します。

(F) 集計データを集計

集計データを集計するように設定します。(E 版、EW 版は対応しません。)

(G) 履歴レコードを記憶

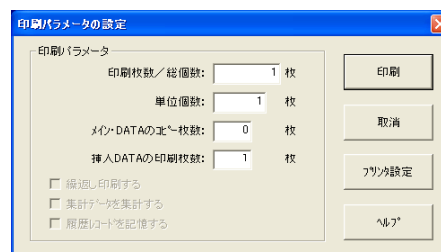
印刷中、印字データを履歴ファイルに記憶するように設定します。

(E 版、EW 版は対応しません。)

(4) 印刷**(A) 印刷...**

印刷枚数などの印刷条件を指定して印刷を
始めます。

それぞれのプリンターごとに設定します。

**(B) 再印刷**

先程印刷した DATA をもう一度印刷します。

(C) 挿入 DATA 印刷...

挿入 DATA の印刷枚数などを指定して挿入 DATA だけを印刷します。

(E 版、EW 版は対応しません。)

番号	状態	枚数	呼出コード1	呼出コード2	調整日数
00001	印	1	000001	000001	10
00002	印	1	000003	000002	14
00003	印	1	000006	000001	7
00004	印	1	000012	000001	180

(D) バッチ印刷

バッチファイルに登録したレコードを用いて
DATA をいっぺんに印刷します。

印刷する前に「バッチレコード一覧」を選んで
内容を確認して下さい。(E 版、EW 版は対応しません。)

(E) ~ (G) データベース 1 (2、3) 印刷...

データベース #1 (#2、#3) のアイテム一覧を
表示させ、印刷対象のアイテムを選んで DATA を
一度に印刷します。(E 版、EW 版は対応しません。)

番号	状態	枚数	品名	メーカー名
00001	印	5	ミスターコーヒー	P o k k e
00002	印	2	鳥籠茶	カルピス
00003		3	紅茶信箋アイスディ	カルピス
00004		4	オリジナルブレンド	UCC
00005	印	1	ブレンドコーヒー	UCC
00006	印	1	グレープ100%	ウェルチ
00007	印	1	アップル100%	ウェルチ
00008	印	2	ペプシコーラ	ペプシ

詳しい説明は、ヘルプ「(A)目次」の「データベースダイレクト印刷における操作方法」をご参照下さい。

(H)バッチ・ファイルダイレクト印刷...

バッチデータファイルからバッチデータをロードしてから直ちに印刷を始めます。
その場合、バッチデータを変更したり、アイテムを印刷しないように切換えする事ができないのでご注意下さい。(E版、EW版は対応しません。)

(I)テキスト・バッチダイレクト印刷...

テキスト形式のバッチファイルからバッチデータをロードしてから直ちに印刷を始めます。
その場合、バッチデータを変更したり、アイテムを印刷しないように切換えする事ができないのでご注意下さい。テキスト形式のバッチファイルにはデータ構造に関する情報が入っていない為、このメニューを選ぶ前に、フォーマット / データベース / バッチデータファイルを開いておく必要があります。(E版、EW版は対応しません。)

(5)表示

(A)表示ズーム 100% ~ (F)全体表示

レイアウトをその % で表示します。ロードされた時の表示サイズはフォーマット保存時の設定です。ただし、100%以上の場合は100%での表示となります。

(G)表示を回転しない

レイアウトをそのまま画面に表示します。

(H)表示を 90 度回転

(I)表示を 180 度回転

(J)表示を 270 度回転

その角度で半時計回りで回転してから画面表示します。

例えば、270度で印刷するレイアウトを、90度回転してから表示すると見やすくなります。180度で印刷する場合は、レイアウトは、180度回転、90度で印刷する場合は、270度回転してから表示すると見やすくなります。

(K) フォーマット情報

現在開いているフォーマットに関する情報を表示します。

(L) 履歴レコード一覧

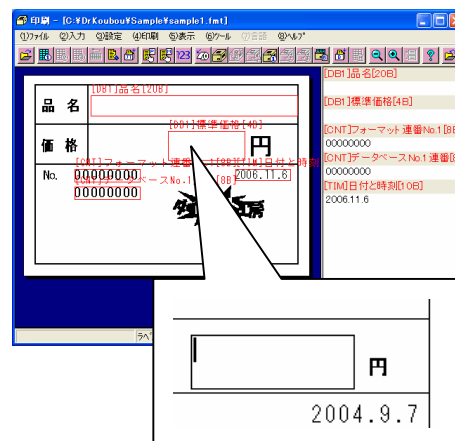
履歴ファイルにある全てのレコードをリストアップします。マウスでスクロールバー操作、上下左右の矢印キー、PageUp PageDown キーから一覧画面をスクロールすることができます。(E 版、EW 版は対応しません。)

(M) メイン DATA を表示

メイン DATA のレイアウトを表示します。

(N) 挿入 DATA を表示

内部挿入 DATA の場合に限り、メイン DATA のレイアウトから挿入 DATA のレイアウト画面に切り替えて表示します。

**(O) データ入力枠を表示**

レイアウト画面のデータ入力枠を表示 / 非表示に切り替えます。

データ入力枠を非表示にしても、レイアウト画面でのデータ入力が可能です

(P) 印字しない線と図を表示

フォーマット作成で設定した印字しない罫線、枠、斜線と図形をレイアウト画面に表示 / 非表示に切り替えます。これらの線と図を表示にしても印字される事はありません。

(Q) 大きいアイコンを表示

ツールバーに表示されるボタンを大きいアイコン / 小さいアイコンに切り替えます。大きいアイコンにすると判りやすく操作がしやすくなりますが、ボタンの数が少なくなります。

(R) オプションの設定

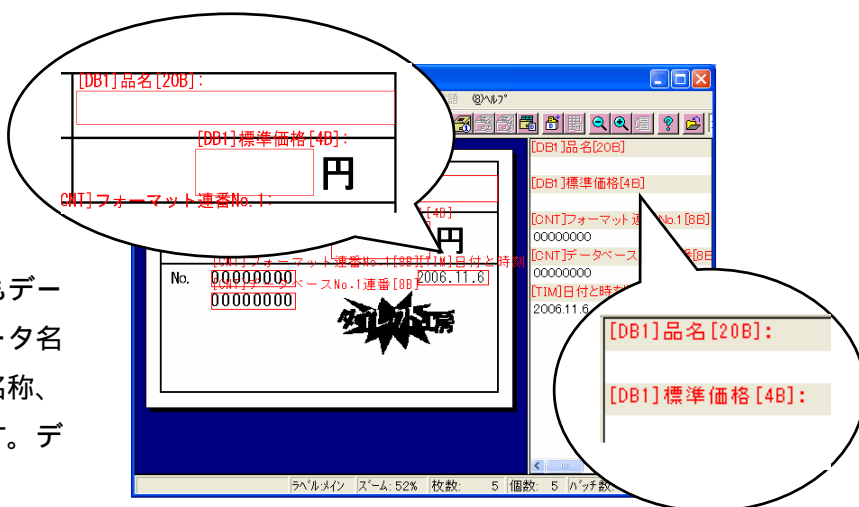
データベース呼出や、バッチ印刷や、履歴一覧などのリスト表示を定めるパラメータを設定します。

操作方法 (一般)

レイアウト画面 / リスト画面

印刷フォーマットが合っているのか、印字内容が正しいか、データ入力漏れが無いかなど、印刷する前に確認できるのがレイアウト画面です。レイアウト画面には固定部分以外にも、データベースから呼び出したデータやキーボードから入力したデータ、連番の初期値や日付と時刻、参照 / 合成属性を持つアイテムの処理結果も表示されます。

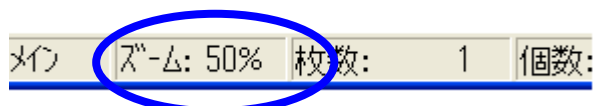
又、レイアウトを表示するだけでなく、データの入力、変更も可能です。リスト画面は入力属性のデータ名称とデータ値の一覧を表示します。ここでもデータの入力、変更ができます。データ名称にはデータの入力源、データ名称、データのバイト数が入っています。データベースからの入力は[DB1] [DB2] [DB3]、キーボード入力は[KEY]と表示されます。データの表示順番は、フォーマットで設定した順番と同じです。



レイアウト表示の拡大・縮小

1. メニューの「(5)表示」から直接表示ズームを指定する
2. ツールバーの拡大、縮小ボタン
3. ツールバーの表示ズーム枠から選択、または直接入力する。
4. <Ctrl> キーを押しながら <PageUp> キー (拡大)、<PageDown> キー (縮小)

現在の表示ズームは、ステータスバーにも表示されています。この表示ズームは記憶されるので、次回プログラムが立ち上がる時、同じズーム表示になります。



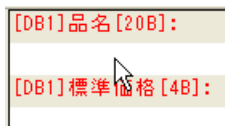
レイアウト画面でのデータ入力、変更方法

「データ入力枠」(赤い枠)が表示されている場合は、枠内を W クリックすると入力ウィンドウが開かれます。入力を取り消したい場合は <Esc> キーを押します。又、データ入力枠が非表示になっていて、どの部分にどのデータが印字しているかがハッキリと分かっている場合、同様に W クリックで入力ウィンドウが開かれ、入力・変更する事ができます。

リスト画面でのデータ入力、変更方法

入力、変更したい「データ値」の表示行で W クリックすると入力ウィンドウが開かれます。入力を取り消したい場合は <Esc> キーを押します。




キー操作で入力、変更したい場合は、<Enter> キーを押すと入力ウィンドウが開かれます。データを入力して <Enter> キーを押すとリスト画面の上から順番に次の入力データの入力ウィンドウが開かれます。



ここで入力データを変更しても、データベース自体には影響されません。変更した内容をデータベースに登録したい場合、メニューの「(3)設定」「(C)処理方式設定...」を開いて、下右図にある「変更したデータを元のデータベースに登録する」にチェックを入れます。

- アイテムが変わると日付時間変更をクリアする
- すべての日付と時間を印字させない
- すべての賞味期限を印字させない
- 連続発行中に日付と時刻を変更する
- 変更したデータを元のデータベースに登録する

データベースから呼出 (E 版、EW 版は対応しません。)

メニューの「(2)入力」から「(A)、(B)、(C)データベース 1、2、3 から呼出...」を選択するか、ツールバーの    ボタンをクリックすると、対応するデータベースのアイテム一覧が表示されます。使用していないデータベース番号ボタンはマークが灰色になります。最初の呼び出しは、1 行目に 1 番のアイテムが表示されますが、2 回目以降は前回呼び出されたアイテムが、一番上の行に選択された状態(反転表示=セレクトバー)で表示されます。例えば、7 番のアイテムを呼び出した後、次に呼び出す時は 1 番上の行に 7 番が選択された状態で表示されます。

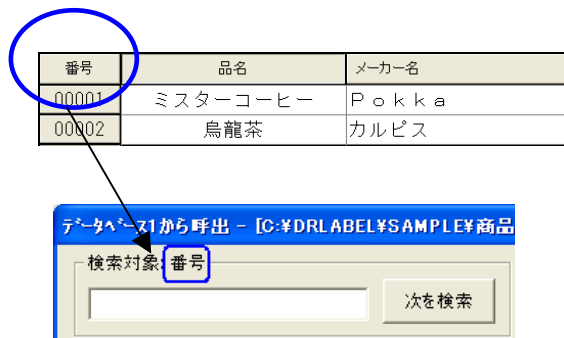
第 3 部 印刷 / 操作方法(一般)

1. マウスでクリックするか、< > < > キー又は < PageUp > < PageDown > キーを使って表示させたいアイテム行を選択します。
2. **呼出(Enter)** ボタンをクリックするか、選択したアイテムを W クリック、又は < Enter > キーを押すと、選択したアイテムが呼び出され書き込まれます。




データの検索によりアイテムを選択する方法

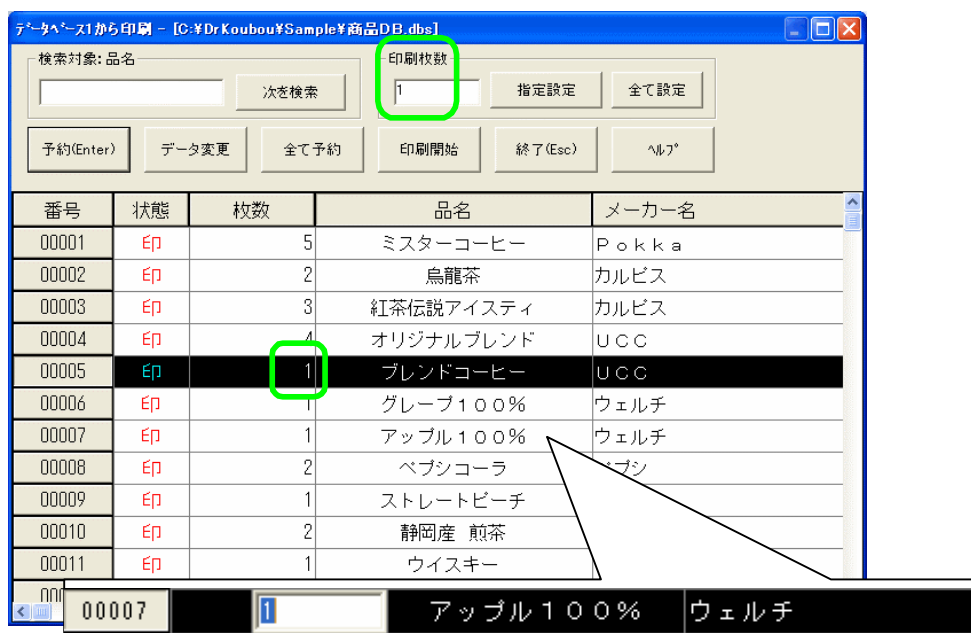
1 行目にあるデータ名称ボタンをクリックすると

そのデータ項目が検索の対象になります。例えば右図にある「番号」をクリックすると「番号」が検索の対象になり、画面左上にある(右図)検索対象が番号と表示されます。入力枠に検索したいデータを入力すると、セレクトバーは検索データと一致するアイテムに移動します。一致するアイテムが無い場合、セレクトバーは消えます。又、一致するアイテムが複数ある場合、「次を検索」ボタンを押すと検索を続けます。



データベースからダイレクト印刷 (S版、SW版、U版のみ)

メニューの「(4)印刷」から「(E)、(F)、(G)データベース 1、2、3 印刷...」を選択するか、ツールバーの    ボタンをクリックすると、対応するデータベースのアイテム一覧が表示されます。「状態」、「枚数」列が追加表示されます。「状態」欄は、アイテムが印刷予約状態に入ると「印」、印刷終了状態になると「済」と表示されます。



指定設定

「印刷枚数」入力枠に枚数を入力して、このボタンを押すと、選択されたアイテムの印刷枚数が設定されます。又、各アイテムの枚数表示エリアで W クリックすると上図のように入力できる状態になります。

全て設定

「印刷枚数」入力枠に枚数を入力して、このボタンを押すと、全てのアイテムの印刷枚数が設定されます。

予約 (Enter)

このボタンをクリックまたは、<Enter> キーを押すと、選択されたアイテムが印刷予約状態に入ります。もう一度押すと、予約状態が解除されてしまうので、すでに印刷予約の状態（「印」印のあるもの）に入っているアイテムは、印刷予約が解除されます。又、各アイテムの状態表示エリアで W クリックしても予約の切換えができます。

データ変更

選択されたアイテムのデータを変更する為のダイアログボックスが表示され、データ変更を行います。変更したデータを元データベースに反映させるかどうかは、P85の「リスト画面でのデータ入力、変更方法」で説明していますが、メニューの「(3)設定」「(C)処理方式設定...」を開いて、「変更したデータを元のデータベースに登録する」の設定値によって決まります。

全て予約

このボタンをクリックすると、全てのアイテムが印刷予約の状態に入ります。ただし、すでに印刷予約状態に入っているアイテムは予約状態から解除される事になります。

印刷開始

このボタンをクリックすると、印刷をスタートさせます。

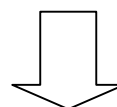
終了

このボタンをクリック又は、<Esc> キーを押すとデータベース印刷ウィンドウが閉じます。

データの並び替え


データ項目をWクリックすると、その列のデータを「昇順」/「降順」に並び替えをします。

番号	標準価格	値引き額	賞味日数
00001	168	8	365
00002	128	8	365
00003	180	20	120
00004	135	5	365



番号	標準価格	値引き額	賞味日数
00001	180	20	120
00002	168	8	365
00003	135	5	365
00004	128	8	365

バッチ印刷における操作方法 (S版、SW版、U版のみ)

メニューの「(4)印刷」から「(D)バッチ印刷...」を選択するか、ツールバーの  ボタンをクリックすると、対応するバッチデータファイルに登録されている全てのアイテム一覧が表示され、1列目に「状態」、2列目に「枚数」データが表示されます。「状態」欄は、アイテムが印刷予約状態に入ると「印」、印刷終了状態になると「済」と表示されます。

指定削除

選択されたアイテムを削除します。

全て削除

全てのアイテムを削除し、バッチデータファイルを空にします。

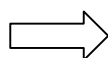
並び替え

このボタンをクリックすると、左の列から順番に並び替えをします。

ボタンを押すごとに、昇順/降順が切り替わって並べ替えをします。



JANコード	KEY管理ID	KEY数量
050412	125	AAA
050410	028	AAA
050409	100	AAA
050410	030	BBB
050409	100	AAA
050412	102	AAA
050412	125	BBB
050410	028	AAA
050412	125	BBB
050409	100	BBB



JANコード	KEY管理ID	KEY数量
050412	125	BBB
050412	125	BBB
050412	125	AAA
050412	102	AAA
050410	030	BBB
050410	028	AAA
050410	028	AAA
050409	100	BBB
050409	100	AAA
050409	100	AAA

そのほかのボタン操作方法は「データベースから直接印刷」を参照してください。

J T P 用 ファイル 出力 方法


プリンタに J T P ハンディ・ターミナルを接続してプリントするには、J T P 用ファイル（拡張子 J T P）を作成して、メモリカードにファイルをコピーする必要があります。J T P 用ファイルはフォーマットに呼び出したデータ、または入力したデータを一つのデザインとして一つずつ保存します。ここでは J T P 用ファイルの作成方法を説明します。

1

印刷画面でフォーマットファイルを開きます。

通常の印刷時同様に印字に必要なデータの呼び出し、または入力をします。

レイアウト画面を確認し、データの漏れがないことを確認して、メニューの「(1) ファイル」

「(E) J T P ファイルへ出力する ...」を選択するか、ツールボタンの  または



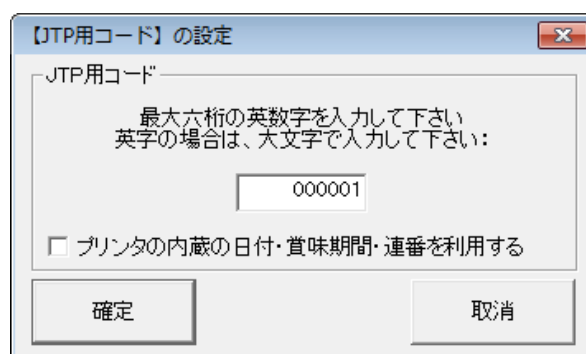
をクリックします。

2

【J T P 用コード】の設定ダイアログが表示されるので、6桁の数字でコードを入力します。

このコードは J T P ハンディ・ターミナルでファイルを検索する場合に使用します。

必ず 6 桁の数字を入力してください。



フォーマット内に日付アイテムや有効期限アイテム、連番アイテムが設定されている場合、印刷する日時、枚数によって変化させる必要がある場合は、「プリンタの内蔵の日付・賞味期間・連番を利用する」にチェックを入れてください。チェックをつけないで保存した場合は、保存される時に表示してあるレイアウト上のデータで印字され、印刷日時や枚数に関わらずデータの更新はされません。

3

「確定」ボタンを押すと「名前を付けて保存」ダイアログが表示されるので、任意の場所にファイル名を付けて保存してください。拡張子（J T P）の J T P 用ファイルが作成されるので、このファイルをメモリカードへコピーして J T P ハンディ・ターミナルで使用します。

印字したいデータ毎に J T P ファイルをそれぞれ作成してください。

第 4 部

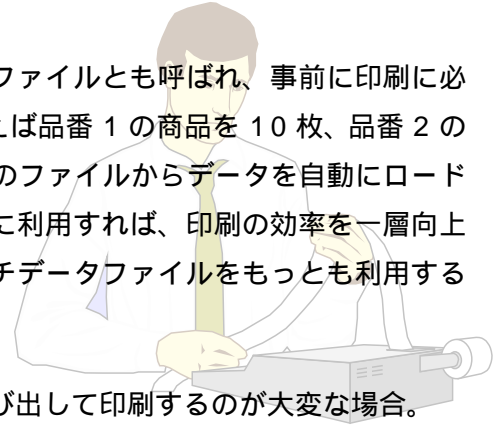
バッチデータ管理

バッチデータ管理では、大量の DATA を印刷する時など、事前に印刷に必要なデータをまとめ、登録する為のファイルを管理します。
それでは、バッチデータ管理についての様々な機能について紹介していきます。

バッチデータ管理は、ダイレクト工房 S 版、SW 版、U 版のみ対応しています。

バッチデータ管理について

バッチデータファイルは、予約ファイル、スケジュールファイルとも呼ばれ、事前に印刷に必要なデータをまとめて登録するためのファイルです。例えば品番 1 の商品を 10 枚、品番 2 の商品を 5 枚、品番 10 の商品を 1 枚印刷したい場合、このファイルからデータを自動的にロードして印刷します。つまり、バッチデータファイルを上手に利用すれば、印刷の効率を一層向上でき、間違いも少なくなります。次のような場合、バッチデータファイルをもっとも利用するのに適しています。



- 📖 印刷するアイテム数が非常に多くて、1つずつ呼び出して印刷するのが大変な場合。
- 📖 アイテム毎の印刷枚数が多い、現在の印刷が終らなければ、次の印刷指示を出せない等プリンタの側で待機していなければならない場合
- 📖 印刷データの作成と実際印刷する時間や場所が離れている場合。
例えば、今日作成したデータを明日印刷する場合、本部で作成したデータを支店で印刷する場合など。
- 📖 印刷データを作成する人と印刷する人が同じ人ではない場合。
- 📖 同じパターンの印刷データを繰り返し印刷する場合。

バッチデータファイルは一種のデータベースです。データベースファイルのデータ構造は自由に設定できますが、バッチデータファイルのデータ構造の場合は、フォーマットによって決められるので、自由に設定する事ができません。ご注意ください。

バッチデータファイルを新規作成する時、フォーマット優先印刷モードでは、対応するフォーマット名称を設定すれば、そのフォーマットによってバッチデータファイルの構造が自動に作られます。データベース優先印刷モードでは、対応するデータベース名称を設定すれば、そのデータベースに設定してあるベースフォーマットによってバッチデータファイルの構造が自動に作られます。

一方、プログラム「印刷」において、フォーマット優先印刷モードでフォーマットを呼び出す時、データベース優先印刷モードでデータベースを呼び出す時にも、バッチデータファイルが自動に作られます。ただし、ファイルの拡張子は「BT\$」になります。プログラム「印刷」で登録したバッチデータはこのファイルに記憶されます。プログラム「バッチデータ管理」ではこのファイルを読み込む事ができます。

操作方法・その他設定

データ項目に関する情報

リスト画面にある、データ項目に対応するデータ名称ボタンを W クリックすると、そのデータ項目に関する情報が表示され、データの属性、バイト数、種類（英文（数値含）、和文）を確認する事ができます。

また、外部からテキスト形式のバッチデータをロードする時、特に複雑なバッチ印刷をする場合は、次の項目の設定が必要となります。

- ・ **変わる度に挿入DATAを印刷する**

このパラメータにチェックをつけると、指定のデータ項目の内容が変わったらDATA印刷をする設定ができます。これによって、挿入DATAの印刷タイミングを自由に設定できます。二つ以上のデータ項目がチェック対象に設定された場合、どれかが変わったら挿入DATAを印刷します。

- ・ **変わる度に警告を表示する**

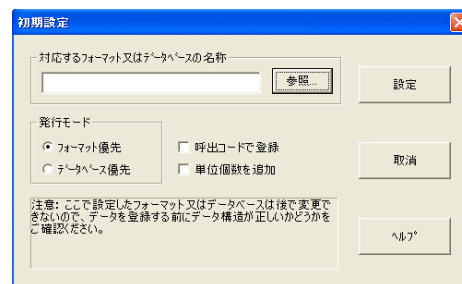
このパラメータにチェックをつけると、指定のデータ項目の内容が変わったら警告メッセージを表示します。「OK」を押して印刷を続けます。

- ・ **テキストデータダウンロード時フィルターを掛ける**

このパラメータにチェックをつけると、フィルターになるデータベースと比較対象のデータ項目をデータ項目に設定します。外部からテキストデータを読み込む時、読み込んだ当該のデータが指定フィルターのデータベースにあるかどうかを調べて、あればロードし、なければロードしないという処理をします。この機能によって、外部バッチデータに必要なデータのみをロードすることが可能になります。フィルターの設定に間違いがあれば、フィルターが無効になります。

初期設定

バッチデータファイルは必ずフォーマット、又はデータベースに対応しています。フォーマット優先印刷モードでは、バッチデータファイルはフォーマットと対応し、フォーマットの設定内容によってバッチデータの構造が自動的に決められます。データベース優先印刷モードでは、バッチデータファイルはデータベースと対応し、データベースに設定されているベース・フォーマットの設定内容によってバッチデータの構造が自動的に決められます。対応するフォーマットやデータベースの設定は、「新規作成」作業の最初に行います。ここで設定したパラメータがバッチファイルのデータ構造を決めるパラメータなので、一度設定すると後で変更する事ができません。変更したい場合は、もう一度「新規作成」を選択し、改めて作り直して下さい。



対応するフォーマット又はデータベースの名称

対応するフォーマット又はデータベースの名称を設定します。この設定をする前に、まず印刷モードを選択します。フォーマット優先印刷モードを選んだ場合はフォーマット名称を、データベース優先印刷モードを選んだ場合はデータベース名称を設定します。

印刷モード

フォーマット優先か、データベース優先か印刷モードを選択します。

- ・フォーマット優先印刷モード フォーマットを先に呼び出してからデータベースにあるデータを呼び出すモード
- ・データベース優先印刷モード データベースからデータを呼び出す時に関連するフォーマットを呼び出すモード

呼出コードで登録

このパラメータにチェックすると、バッチファイルにアイテムの呼出コードを登録する事になり、チェックしないと、バッチファイルに呼び出したアイテムのデータを登録する事になります。チェックする場合は、バッチファイルのサイズが小さい事と、印刷時にデータベースからデータを呼び出すのでデータベースの変更が反映できます。

チェックしない場合は、バッチデータがデータベースのデータと切り離されたので、バッチデータを変更してもデータベースのデータに影響しないというメリットがあります。ニーズに合わせて選択して下さい。

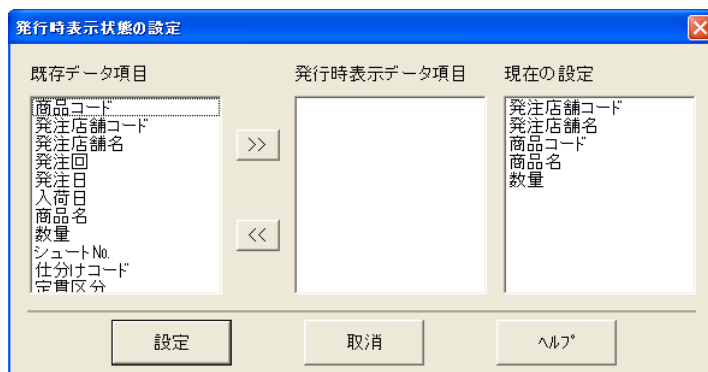
単位個数を追加

このパラメータをチェックすると、バッチファイルに「個数」というデータ項目が追加されます。チェックしないと追加はされません。「個数」が無ければ、印刷時に単位個数が自動的に「1」にセットされます。単位個数が「1」以外の場合にチェックして下さい。

印刷時表示状態の設定

プログラム「印刷」のバッチ印刷の画面にどのデータを表示するか、どの順番で表示するかを設定します。メニュー（5）設定（F）印刷時表示状態の設定...を選択します。

右図のダイアログボックスが表示されます。バッチデータにある全てのデータ項目をどの形で表示するかを自由に設定できます。



「既存データ項目」から表示させたいデータを選択し、「>>」ボタンをクリックして「発行時表示データ項目」の欄に追加します。追加する順番により、データの並び順も設定することができます。但し、設定した結果をプログラム「印刷」のバッチ印刷の画面でしか確認ができません。

列順移動

外部からテキストデータを読み込む時、データの並び順がフォーマット作成時のデータの並び順と異なる場合は、データ項目列の並び順を入れ替えることができます。移動したい列のデータ項目名を選択し、メニューの（2）編集（H）列順序移動...を選択します。

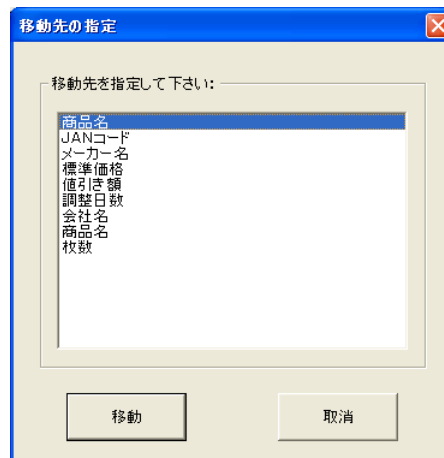
「移動先の指定」ダイアログが表示されるので、移動先を選択して、「移動」ボタンをクリックします。移動先に指定したデータ項目列の前に移動します。

番号	商品名	JANコード	メーカー名	標準価格	値引き額	調整日数
行追加						

最初に移動したい列のデータ項目名を選択します。

移動先のデータ項目名を選択します。

選択したデータの前に列が移動します。



番号	値引き額	商品名	JANコード	メーカー名	標準価格	調整日数
行追加						

第 5 部

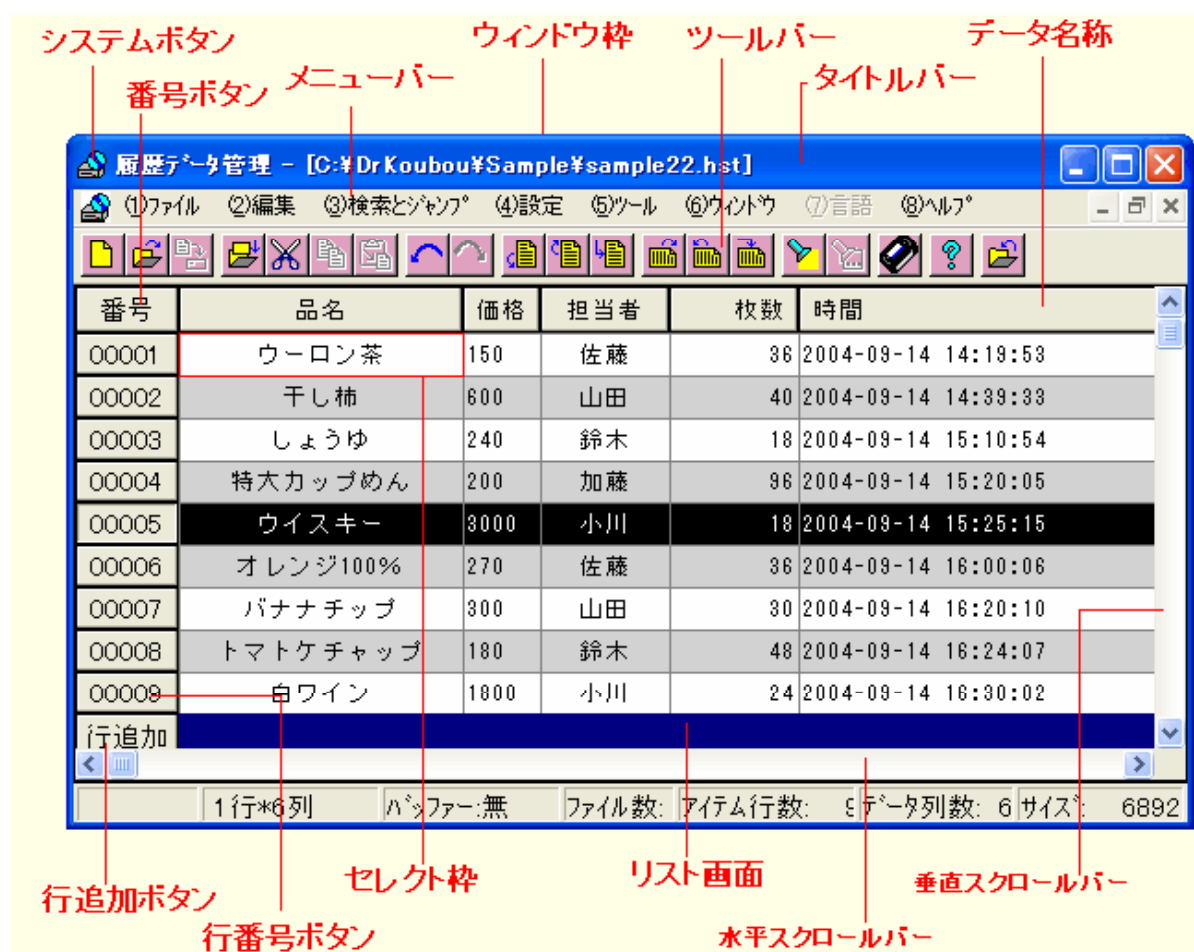
履歴データ管理

「ダイレクト工房」では、フォーマット内に「印刷履歴」アイテムを設定することにより、印刷時にさまざまなアイテムの印刷履歴を記録することができます。履歴データ管理とは、このように記録された履歴データファイルで、どの商品をいつ、何枚印刷したか照会したり、管理したり、集計したりするときに利用されるツールです。

履歴データ管理は、ダイレクト工房 S 版、SW 版、U 版のみ対応しています。

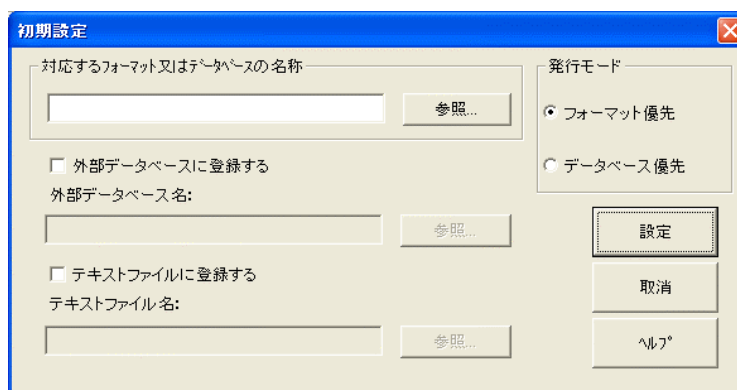
履 歴 デ ー タ 管 理

「ダイレクト工房」では、フォーマットを作成する時に、「印刷履歴」アイテムを設定することで、印刷時にさまざまなデータの印刷履歴を取る事ができます。「印刷履歴」アイテムは一つのフォーマットに幾つでも設定でき、どのデータの履歴も取る事ができます。履歴データをとる事は、例えば、どの商品を何枚印刷したか、いつ印刷したかという印刷作業のチェックに活用できます。また、「履歴データ管理」では集計機能があるので、金額などのデータに「印刷履歴」アイテムを設定しておけば、印刷後その履歴データファイルで容易に集計することができます。さらに、履歴データを自動的にテキストファイルに変換して保存する機能や、外部データベースへ履歴を登録する機能を「履歴データ管理」で設定することができます。



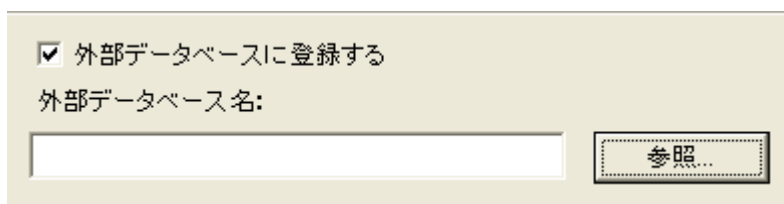
履歴ファイルの新規作成

履歴ファイルは通常、「印刷履歴」アイテムをフォーマットに設定し、印刷の設定メニューで、(G)履歴レコードを記憶にチェックをつけて印刷すると、自動的に作成されます。しかし、外部データベースに履歴データを登録したり、履歴ファイルの作成と同時に自動でテキストファイルに変換して保存したい場合に、予め履歴ファイルを作成しておくことができます。



メニュー「(F)ファイル」から「(A)新規作成」又は、ツールバーの「新規作成」ボタンをクリックします。「初期設定」のダイアログが出ますので、履歴ファイルを作成したいフォーマットまたはデータベースを「参照」より選択します。対応するファイルの選択の前に、まず印刷モードを選択します。フォーマット優先を選択した場合は対応するファイルはフォーマットを選択し、データベース優先の場合はベースフォーマット（第2部データベース管理を参照ください）の設定されたデータベースを選択します。ここで「設定」をクリックすると、指定のフォーマット（データベース優先モードの場合は、データベースに設定されたベースフォーマット）に基づいて履歴ファイルが作成されます。フォーマットに設定されている「印刷履歴」アイテムの参照先が自動的に履歴ファイルの列（データ項目）になり、その名称と桁数が「履歴データ」そのものと同じになります。「印刷枚数」と「印刷時間」「インデックス」の三項目は自動的に追加されます。対応するフォーマット、またはデータベースの名称に拡張子（.hst）の付いたものが自動的に履歴ファイルの名称となります。そのため、対応するフォーマットやデータベースの名称が変わると、履歴ファイルは変更した名称で新たに作成されます。

外部データベースに登録する



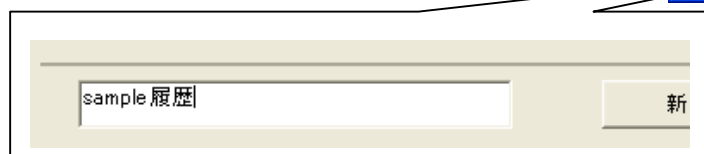
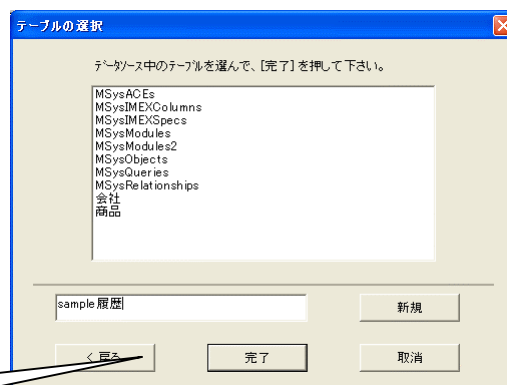
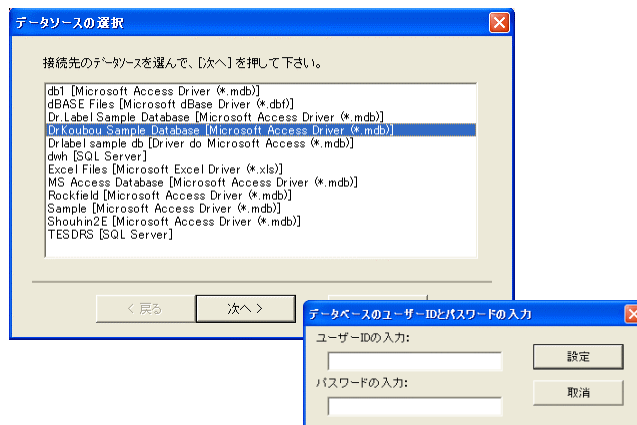
履歴データを外部のデータベースにも記録したい場合は、初期設定ダイアログの「外部データベースに登録」にチェックをつけて、外部データベースを設定します。登録先の外部データベースへのアクセスには予め「第2部データベース管理」で取り上げた「外部データベースのアクセス方法」で ODBC への登録が必要です（P70を参照してください）。

第 5 部 履歴データ管理 / 履歴ファイルの新規作成

「参照」ボタンをクリックすると、「データソースの選択」画面が表示されるので、データの登録をするデータソースを選択して、「次へ」を押します。

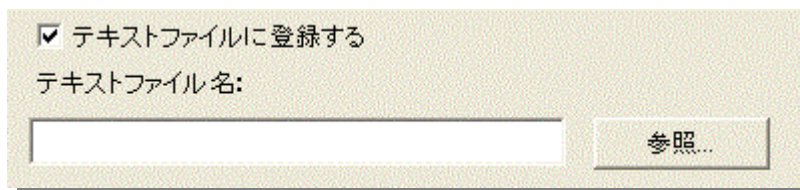
「データベースのユーザー ID とパスワード入力」画面が表示されるので、ID とパスワードを設定している場合は、入力します。設定していない場合は、そのまま「設定」を押して進みます。

テーブルの選択画面が表示されるので、既存のテーブルを選択、または履歴データを記録するテーブルを新規に作成します。テーブル一覧の下テキストボックスに作成するテーブル名称を入力し「新規」ボタンを押すと、テーブルが追加され、初期設定画面に戻ります。



外部データベース名：に設定したテーブル名称が表示されているのを確認して、「設定」ボタンをクリックすると履歴データの外部データベースへ登録の設定がされます。外部データベースへ登録される内容は、履歴ファイルのデータと同じです。

テキストファイルに登録する



印刷して履歴ファイルが作成されると、自動的にその履歴ファイルをテキストファイルに変換し、保存する設定をします。

「テキストファイルに登録する」にチェックをつけて「参照」ボタンをクリックすると、「名前を付けて保存」の画面が表示されるので、ファイル名の欄に保存先ファイル名を入力しテキストファイルを新規作成します。「保存」ボタンを押すとファイルが作成されますが、その前に必ず「区切設定」を行ってください。テキストファイルを後で読み込む場合などで、区切を正しく設定していないと、データを正しく読み込めなくなります。区切設定は「ヘルプ」を参照してください。

データ項目の設定

開いた履歴ファイルでの各データ項目をダブルクリックして、「データ項目の設定」に入り、データ集計分析のための「分類」設定を行います。

データ属性 フォーマット作成時に設定したアイテムの情報です。この画面では変更・修正ができません。

データ種類 データ種類を表示します。こちらもフォーマット作成時に設定したアイテムの種類情報です。この画面では変更・修正ができません。

データ表示 リストでのデータ表示を設定します。


外部データベースのフィールド名 リンクしている外部データベースのフィールド名を設定します。

分類 データ集計分析で分類別に集計するための分類をデータ項目に設定します。分類は 1 から 5 までありますが、これらは集計の際の大分類、大中分類、中分類、中小分類、小分類とお考え下さい。例えば、商品別、会社別、担当者別で商品価格の集計をとりたい場合、商品のデータ項目を分類 1、会社名のデータ項目に分類 2、担当者のデータ項目に分類 3 と設定します。「集計対象」とは、内容が集計されるデータ項目のことで、先の例の場合は商品価格が集計対象となります。データ種類が英文、数字の場合のみ「集計対象」に設定することができます。

データ集計画面と分析について

集計範囲の設定



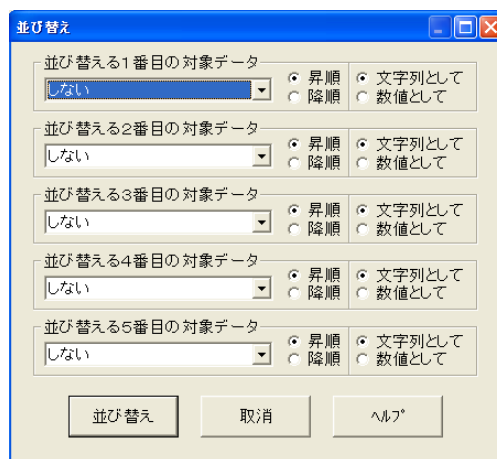
集計画面を表示させるにはメニューの (1) ファイルから (G) 履歴データを集計分析を選択するか、ツールボタンの  を押します。履歴レコード一覧が表示され、「データ項目の設定」で設定した「分類」が、順番に表示されています。分類対象の名称の左側にあるチェックボックスは、当該分類を集計するとき有効か無効かを設定するもので、チェックを入れると有効になり、画面左上にある **合計** ボタンをクリックすることにより、分類別の集計、例えば商品別や担当者別、部門別での集計が可能となります。

さらにその下の二つのコンボボックスでは、各分類それぞれの表示や集計の範囲を決め、その範囲内においての合計や明細を表示させることも可能です。

設定保存 ボタンをクリックすると、現在設定している集計条件を名前を付けて保存することができます。この時、保存されるファイルは「履歴環境ファイル(拡張子.HSP)」となります。集計を複数の項目別に分けて行う場合など、毎回条件を設定する手間を省くことができます。保存した設定条件を呼び出す場合は、**設定をロードする** ボタンをクリックし、保存してある「履歴環境ファイル」を選択します。

並び替え

アイテムを並べ替えたい場合、まず並び替える対象になるデータ項目を指定するために、列セレクトバー/セレクト枠をそのデータ項目がある列へ持っていきます。次に、メニュー「検索」のサブメニュー「並び替え」を選択します。そうすると、設定ダイアログボックスが表示され、「並び替える対象のデータ」のところに指定したデータ項目の名称が表示されます。並び替える対象のデータは選択することが可能です。対象のデータは5項目まで選択することができます。データ項目が文字列の場合に「文字列として」を選び、データ項目が数字の場合に「数値として」を選びます。並び替えの種類は「昇順」(小から大へ)または「降順」(大から小へ)を選択します。この「並び替え」ボタ



この「並び替え」ボタ

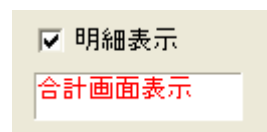
ンを押すと並び替えが始まります。並び替えが終わったら、結果がリスト画面に表示されます。注意してほしいのは、一旦データベースを並び替えてしまうと、元の順番に戻すことができないことです。ただし、並び替えのメモリの中で行われるので、**上書き保存をしないで**ファイルを閉じて、もう一度元の履歴ファイルをロードすれば、元の順番に戻ることができます。

明細合計表示

合計5	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計4	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計3	kz12	AP-700P	120	331245	100	28-06-2004 17:27:29
合計2	kz12	AP-700P			295	
合計1	kz12	AP-700P			295	
総計					540	

合計は小合計と総計に分類することができます。小合計はデータ項目の設定で分類対象に指定されたアイテムを対象に合計* (*は分類の番号に対応)として計算されます。計算を行う対象は集計対象に設定されたアイテムになります。集計分類の優先順位は分類1、分類2、分類3、分類4、分類5の順になります。優先順位を持つとは最初に優先順位の高いアイテムを最初に分けた後に、次に優先順位の高いアイテムの分類を行うということです。

履歴レコード一覧の右上にある「明細表示」にチェックを入れないで、「合計ボタン」を押すと上図のように、合計のみが表示されます。チェックを入れて「合計」ボタンを押すと、明細と共に合計が表示されます。



左の図は明細表示の合計画面です。この画面では、合計1は3つあります。これは、(品名)が分類1で、「ミスターコーヒー」、「烏龍茶」、「紅茶伝説アイスティ」の品名別に分けて集計しているからです。集計対象は(標準価格)で、赤字で表示されているのが合計です。

次に合計2をみると、4つあります。(販売店)が分類2に設定してあり、各商品を販売店別に分類して集計しています。一つの商品に、一つの販売店しかない場合は、合計1と同じ数になりますが、右図の場合、「紅茶伝説アイスティ」の販売店に「Aマート」、「Bマート」の2店があるため、この商品をそれぞれの販売店別で集計しています。そのため図

番号	品名	販売店	標準価格
00001	ミスターコーヒー	Aマート	110
00002	ミスターコーヒー	Aマート	110
合計2	ミスターコーヒー	Aマート	220
合計1	ミスターコーヒー	Aマート	220
00003	烏龍茶	Bマート	210
00004	烏龍茶	Bマート	210
合計2	烏龍茶	Bマート	420
合計1	烏龍茶	Bマート	420
00005	紅茶伝説アイスティ	Aマート	120
合計2	紅茶伝説アイスティ	Aマート	120
00006	紅茶伝説アイスティ	Bマート	120
合計2	紅茶伝説アイスティ	Bマート	120
合計1	紅茶伝説アイスティ		240
総計			880

の集計画面では合計2が4つあります。総計は分類に関係なく集計対象の項目が合計されたものです。各分類の合計の合計(図の例の場合は合計1の合計、合計2の合計)と等しくなります。

付 録

ダイレクト裏工房

「ダイレクト裏工房」とは、作成したフォーマットと印刷用データを渡すと、Windows のバックグラウンドで印刷してくれるソフトです。 それでは、「ダイレクト裏工房」の特徴や使い方について説明していきます。

ダイレクト裏工房は、ダイレクト工房 S 版、SW 版、U 版のみ対応しています。

ダイレクト裏工房とは

「ダイレクト裏工房」とは、Windowsのバックグラウンドで印刷を行う機能を提供するソフトウェアです。このソフトウェアは下記の特徴を持っています。

- ☺ 「ダイレクト裏工房」は、バックグラウンドで印刷を行うので、ユーザーが印刷中でも他のWindowsアプリケーションを使って仕事を進める事ができ、作業効率を高める事ができます。
- ☺ 「ダイレクト裏工房」は、実行コマンド（exe）の形でユーザーに提供され、ユーザーとのデータのやり取りが中間データファイルを介して行われるので、簡単に「ダイレクト裏工房」にデータを渡し、呼び出す事ができます。
- ☺ 「ダイレクト裏工房」は、ユーザーが指定したフォルダから自動的にデータファイルを探し出し、データファイルがあれば、自動的にそのファイルからデータを読み出して印刷する事ができます。
- ☺ 「ダイレクト裏工房」の印刷フォーマットは、「ダイレクト工房」の「フォーマット作成」を利用してビジュアルで作成できるので、プログラムを開発する必要ありません。一度作成したデザインを変更する時や、新しいデザインを追加する時などプログラムの変更が必要無いので、コストと手間を省く事ができます。

ダイレクト裏工房を呼び出す方法

「ダイレクト裏工房」のコマンド形式は次の通りです。

```
Jwbpr.exe <DataFaileName> / <BatchFileName>  
<FormatName> / <DatabaseName>
```

- ☺ Jwbpr.exe は「ダイレクト裏工房」のコマンドの名称です。ユーザーのアプリケーションと異なるパソコン、ドライブ、又はディレクトリにある場合、パスを付けて呼び出して下さい。
- ☺ <DataFaileName> は印刷用データを保存する中間ファイルの名称です。「ダイレクト裏工房」を呼び出す前に、印刷用データをテキストファイルに保存し、そのファイル名を「ダイレクト裏工房」に渡さなければなりません。このデータファイルは一種のテキスト形式のバッチファイルと考えて下さい。従って、データファイルの中にあるデータの数、種類、長さ、順番などは、全てフォーマットによって決まります。詳しくはマニュアル本文またはヘルプをご参照下さい。テキストファイルのデータ間の区切りは「ダイレクト裏工房」側で設定できます。

- ☺ <BatchFileName> は「ダイレクト工房」の「バッチデータ管理」で作成したバッチファイルです。バッチファイルで「ダイレクト裏工房」にデータを渡す時に、フォーマット名称やデータベース名称を渡す必要がありません。
- ☺ <FormatName> / <DatabaseName> は印刷用フォーマット（フォーマット優先印刷モードの場合）又はデータベース（データベース優先印刷モードの場合）を指定します。コマンドと同じディレクトリに無い場合パス名も含めて指定します。フォーマット優先とデータベース優先の印刷モードに関する説明はマニュアル本文またはヘルプをご参照下さい。ここで指定せずに<DataFileName>の最初に「_@<FormatName> / <DatabaseName>」という形で指定する事も可能です。両方とも指定しない場合に「ダイレクト裏工房」側で設定したデフォルトフォーマット又は、データベースを用います。

パラメータを指定して「ダイレクト裏工房」を呼び出すと、印刷が直ちに行われ、印刷終了後に「ダイレクト裏工房」が自動的に終了します。

一方、パラメータを指定せずに、「ダイレクト裏工房」を呼び出すと、「ダイレクト裏工房」が立ち上がり、ポーリングモードの待機状態になります。その場合、「終了」メニューをクリックし、手動で「ダイレクト裏工房」を終了させるか、テキストファイルに終了コマンドを埋め込んで「ダイレクト裏工房」を終了させます。

項目説明

ファイル名称

印刷中のデータファイルの名称

アイテム番号

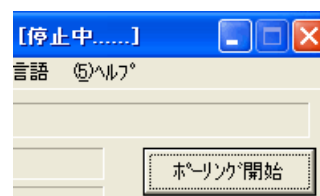
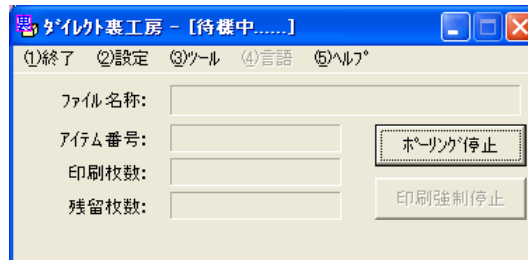
データファイルの中にあるアイテムの番号

残留枚数

残っている枚数

ポーリング開始・停止ボタン

このボタンをクリックするとポーリングの「開始」、「停止」の切り換えをします。同時にタイトルバーの表示も「待機中...」、「停止中...」に変わります。



印刷強制停止ボタン

このボタンをクリックすると印刷が一時停止されます。確認のメッセージが出てきますので、「はい」を選択すると停止されます。

印刷終了の確認方法

「ダイレクト裏工房」を呼び出したら、バックグラウンドで印刷が行われます。渡されたデータファイルのデータを全て印刷したら、「ダイレクト裏工房」は自動的にそのデータファイルを削除する又は、バックアップファイルに保存します。(拡張子を指定したバックアップファイルの拡張子に変更)従って、印刷が終了するかどうかを確認したい場合、渡した名前の中間ファイルを削除するか、バックアップするかを設定することができます。印刷データが印刷終了後に必要な場合、バックアップに設定するといいいでしょう。

印刷中に「ダイレクト裏工房」を呼び出してはいけません。必ず今のバッチ印刷の終了を確認してから、次のバッチ印刷を指示して下さい。予約処理の場合、印刷データをそれぞれ異なる中間ファイルに保存して、タイマー割り込みを使用する間隔で印刷終了を確認し、終了したら次の中間ファイルを「ダイレクト裏工房」に渡して下さい。

ポーリング自動印刷方式

「ダイレクト裏工房」のポーリング自動印刷方式では、ユーザーが印刷用データファイルを指定したディレクトリに入れると、「ダイレクト裏工房」が自動にデータを取り出して印刷します。このモードでは、ユーザーが「ダイレクト裏工房」を呼び出す必要がなくなり、予約管理も要りません。ユーザーが印刷用の全てのデータファイルを作成し、指定したディレクトリに落として、後は「ダイレクト裏工房」に任せるだけです。指定ディレクトリとポーリング時間間隔が「ダイレクト裏工房」側で設定できます。

指定ディレクトリの中に「自動印刷用データファイルの種類」で指定した拡張子と「bth」を持つファイルが全て印刷対象になります。印刷の順番は、ファイル名称のアルファベット順です。例えば、指定ディレクトリに「JW102105.txt」、「JW102250.txt」、「JW99.txt」と「JW99.bth」の4つのファイルがあります。この場合印刷の順番は、「JW990001.bth」、「JW99.txt」、「JW102105.txt」、「JW102250.txt」になります。大文字と小文字の区別はしません。

異常が発生した場合

「ダイレクト裏工房」がフォーマット呼出やデータ展開、及び印刷時にエラーが発生した場合、ユーザーのアプリケーションにエラー情報を知らせずに、エラーメッセージを直接画面に表示

させます。エラーメッセージの表示位置は、「ダイレクト裏工房」のウィンドウの表示位置に準拠するので、「ダイレクト裏工房」のウィンドウの表示位置を変える事によって、エラーメッセージを画面の好きな場所に表示させる事ができます。エラーの原因を取り除いて「OK」ボタン又は「継続」ボタンを押すと印刷を続ける事ができます。エラーが発生した時もユーザー側のアプリケーションは一切関与せずに処理する事ができます。

データファイルのデータ構造

データファイルは CSV ファイルと同じようにデータレコードの集合からなります。1 データレコードは次のようなデータから構成されています。

呼出コード 1、呼出コード 2、呼出コード 3、キー入力データ 1、キー入力データ 2、...
キー入力データ N、印刷枚数、印刷ステータス

ここで、呼出コード 1、呼出コード 2 と呼出コード 3 はそれぞれデータベース #1、データベース #2 とデータベース #3 からデータを呼び出す為のコードで、フォーマットにデータベースが使われていない場合や又、一部分しか使用されていない場合には、レコードに呼び出しコードを入れない又は、使っているデータベースに対応する呼出コードだけを入れます。

例えば、データベース #2 しか使っていない場合、レコードの構成は次のようになります。

呼出コード 2、キー入力データ 1、キー入力データ 2、...キー入力データ N、
印刷枚数、印刷ステータス

キー入力データは、フォーマットに属性を「入力」、入力源を「キーボード」に設定している項目に対応するデータです。マニュアル印刷の場合、自動的にデータファイルから読み込むように切り換えます。従って、ここでのキー入力データの数や順番、データの長などは全てフォーマットに設定されている項目に準拠します。データの数や順番がフォーマットの設定と一致しない場合は、印刷がうまくいかない、又は印字がずれてしまいます。データ長が一致しない場合は、足りない部分にスペースが埋り、オーバーした部分はカットされます。又、印刷枚数を指定しなければ 1 枚になり、印刷ステータスを指定する必要がありません。

例えば、フォーマットにキー入力データとして「商品コード」、商品名、「定価」、「割引価格」を印字するように設定した場合、データファイルは次のようになります。

```

" 49008001 ", " コンピュータ ", " 300,000 ", " 249,800 ", " 5 "
" 49008002 ", " プリンター ", " 60,000 ", " 49,800 ", " 2 "
" 49008005 ", " スキャナー ", " 30,000 ", " 24,600 ", " 1 "
" 49008008 ", " ハードディスク ", " 30,000 ", " 26,000 ", " 3 "
" 49008010 ", " SCSI ボード ", " 16,000 ", " 13,000 ", " 1 "

```

データファイルに埋め込むコマンド

データファイルに通常のデータ以外に、次の 6 種類のコマンドを埋め込む事ができます。

(1)フォーマット指定コマンド

形式： `_@ FormatName`

例： `_@ c:¥DrKoubou¥sample¥demo.fmt`

— 解 説 —

印刷用フォーマットを指定します。フォーマットファイルのパス名を含めて指定して下さい。ここで指定したフォーマットが、最優先になりその後のデータ構造がこのフォーマットに準拠しなければなりません。データファイルの途中でフォーマットを切り換えする事ができます。

(4)終了コマンド

形式： `_@ END` 又は `_@` (大文字、小文字の区別なし)

— 解 説 —

「ダイレクト裏工房」を終了させるコマンドです。ポーリングモードで印刷が終っても「ダイレクト裏工房」が待機状態に戻ってを終了しません。このコマンドを利用すれば、必要な時に「ダイレクト裏工房」を終了させる事ができます。

(5)フォーマット優先設定コマンド

形式： `_@FORMAT` (大文字、小文字の区別なし)

— 解 説 —

「フォーマット優先印刷モード」に設定します。

(6)データベース優先設定コマンド

形式： @DABABASE (大文字、小文字の区別なし)

— 解 説 —

「データベース優先印刷モード」に設定します。

— 埋め込むコマンドの使用例 —

```

_@C:¥DrKoubou¥sample¥demo.FMT
"49008001","コンピュータ","300,000","249,800","3"
_@cut
"49008002","プリンタ","55,000","20,000","1"
_@feed
_@C:¥DrKoubou¥sample¥demo2.FMT
"49008005","スキャナ","40,000","35000","3"
_@cut
"49008010","CD-ROM","48,000","22,000","5"
_@feed
_@end

```

「ダイレクト裏工房」を呼び出すプログラムのサンプル

C 言語でプログラムを書く時、次のようにプログラムを書いて下さい。

WinExec("c:¥DrKoubou¥jwbpr",0) (起動させるだけ)

WinExec("c:¥DrKoubou¥jwbpr c:¥windows¥temp¥tmp01.csv",0) (フォーマット指定なし)

WinExec("c:¥DrKoubou¥jwbpr c:¥windows¥temp¥tmp01.csv c:¥DrKoubou ¥sample¥test.fmt",0)

VB 言語でプログラムを書く時、次のようにプログラムを書いて下さい。

Shell("c:¥DrKoubou¥jwbpr",0) (起動させるだけ)

Shell("c:¥DrKoubou¥jwbpr c:¥windows¥temp¥tmp01.csv",0) (フォーマット指定なし)

Shell("c:¥DrKoubou¥jwbpr c:¥windows¥temp¥tmp01.csv c:¥DrKoubou¥sample¥test.fmt",0)

付録： ダイレクト裏工房

ここでコマンド「jwbpr.exe」は「c:¥DrKoubou」に、フォーマット「test.fmt」は「c:¥DrKoubou¥sample」に、中間データファイル「tmp01.csv」は「c:¥windows¥temp」にあると仮定します。

又、Winexec と Shell の 2 番目のパラメータは、「ダイレクト裏工房」が立ち上がる時にウィンドウの状態を指定するものです。0 を指定すると、「ダイレクト裏工房」のウィンドウが表示しなくなります。ただし、その場合でもエラーが発生する時にエラーメッセージが表示されます。

「ダイレクト裏工房」印刷状況の監視

ユーザーのアプリケーションは「ダイレクト工房」がインストールされているフォルダにある「Drlabel.ini」を通じて「ダイレクト裏工房」の印刷状態を常に監視することができます。詳しい資料に関しましては、販売代理店にお問い合わせ下さい。

「ダイレクト裏工房」が提供する API 関数

「ダイレクト裏工房」には API 関数を提供するダイナミックライブラリ「JwBprDll.dll」があります。ユーザーのアプリケーションは直接 API 関数を呼び出して「ダイレクト裏工房」の機能を利用することも可能です。「JwBprDll.dll」の使い方に関する詳しい資料は、販売代理店にお問い合わせ下さい。

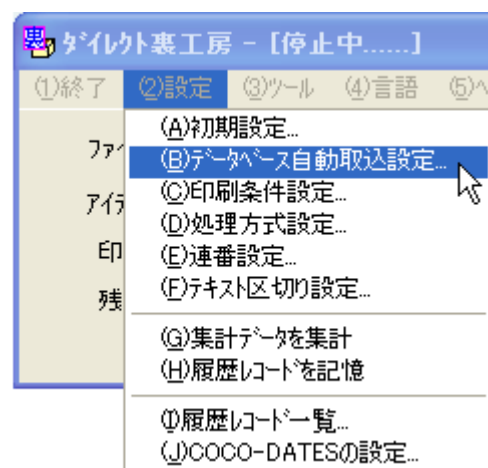
データベース自動取込設定

「ダイレクト裏工房」を起動中に、自動ポーリング機能により指定したフォルダに保存されるテキストファイル（CSV や TXT）を、指定のダイレクト工房のデータベースに取込む事や、ダイレクト工房用のデータベースへ自動変換することができます。

ダイレクト裏工房のメニュー「設定」から

「(B) データベース自動取込設定...」を選択すると、「データベース自動取込設定」ダイアログが表示されます。(図-U)

ここで、取込むテキストファイルの場所、取込用のデータを保存する場所、取込むテキストファイルの種類、バックアップ方法、データの保存方式などを設定します。



データベースのデータを自動取込する

自動取込みを行う場合は、ここにチェックをつけて設定します。

書込先データベースのパスと名称

データファイルを取込んで書込むためのデータベースのパスを設定します。参照ボタンよりファイルを選択して設定することができます。空白のままの場合は、取込むテキストファイルと同じ名称のデータベースファイルを生成します。

自動取込用データファイルを格納するディレクトリ

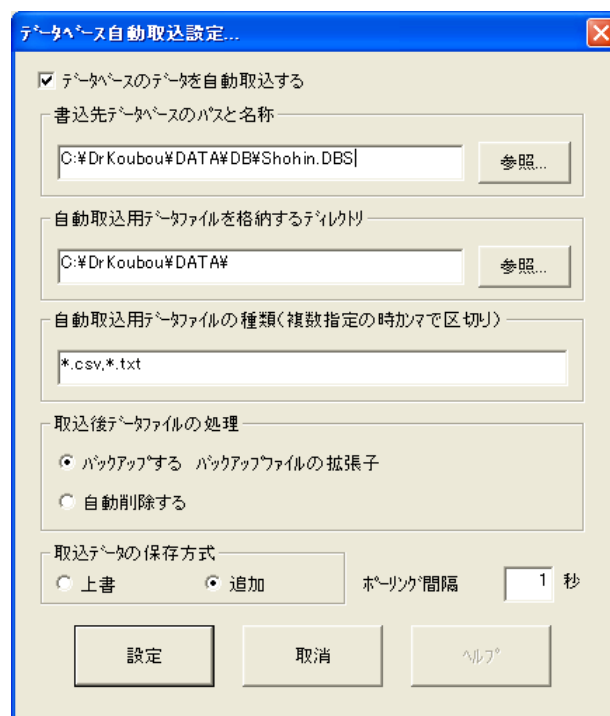
取込まれるテキストデータファイルを保存する場所を指定します。参照ボタンよりディレクトリ（フォルダ）を選択することができます。

自動取込用データファイルの種類（複数指定の時カンマで区切り）

取込まれるテキストファイルの種類を設定します。

複数のファイル形式種類を指定する場合は、カンマで区切って入力してください。

（例：*.CSV,*.TXT など。）



(図-U)

取込後データファイルの処理

取込んだテキストデータのバックアップ方式を選択します。

バックアップするにチェックを入れると、データを自動取込み後、拡張子.BAK ファイルとしてファイルを格納したディレクトリに残ります。自動削除するにチェックを入れると、データ取込後データファイルを削除します。ただし、テキスト区切りや取込み先に指定したデータベースの内容と異なる場合などで取込みに失敗した場合でも、ポーリング後データファイルは削除されるので注意が必要です。

取込データの保存方式

データベースへのデータファイルの取込み方を指定します。上書きを選択すると、データベースにある既存データにデータを上書きして保存します。追加を選択すると、データベースにある既存データにデータを追加して保存します。

ポーリング間隔

「自動取込用データファイルを格納するディレクトリ」へのポーリング間隔を秒単位で設定します。

● 既存のデータベースにデータを取込む場合

予め、「データベース管理」ツールで、データベースを作成しておきます。

「書込先データベースのパスと名称」に、 で作成しておいたデータベースのファイルパスを設定します。(例：C:\¥DrKoubou¥DATA¥DB¥Shohin.DBS)

「自動取込用データファイルを格納するディレクトリ」に指定した場所へ、テキストファイル(データファイル)を保存します。ポーリングされると、Shohin.DBS へデータを取込みます。

予め、メニューの「設定」 「テキスト区切り設定...」で、取込むテキストファイルの区切り設定をしておく必要があります。この設定は、自動印刷用のデータファイルと共通します。

データベース管理のデータ項目の設定で設定してあるデータ長より、取込むデータの長さが大きい場合は、カットされて取込まれます。

● テキストファイルをダイレクト工房用のデータベースへ自動変換する場合

「書込先データベースのパスと名称」を空白のままにしておきます。

「自動取込用データファイルを格納するディレクトリ」に指定した場所へ、テキストファイル(データファイル)が保存されると、ポーリングされて同じディレクトリ内にテキストファイルと同名のデータベースファイルが生成されます。(例:「商品.txt」 変換後 「商品.DBS」)

自動変換したデータベースは、データ項目の設定がデフォルト値のため、使用する前に「データベース管理」にて各データ列の属性などを設定して上書きする必要があります。

CCD コード

CCD コード対応フォーマットの作成

※ CCD コード対応フォーマットを印刷する前には、予め「COCOPRICOPLUG.EXE」をインストールし、契約番号、暗証番号を入力・センターへ送信しておく必要があります。このプログラムは、ダイレクト工房の「印刷」プログラムを立ち上げる時、自動で起動しますので、必ず最初に設定を行っておいてください。

注意事項

CCD コード対応フォーマットを作成するには、次の2点に注意してください。

1. フォーマットファイルパスの中に、「シンメイ CCD」という文字列を入れる。
(例 1 : C:\¥DrKoubou¥sample¥シンメイ CCD-養鶏場.FMT) ←フォーマット名称に含む場合
(例 2 : C:\¥DrKoubou¥シンメイ CCD¥ 養鶏場.FMT) ←保存するフォルダ名とする場合

※ 必ず CCD は半角の英文字で入力してください。全角では正しく認識されません。

2. データ属性が「入力」で、入力源は「キーボード」のアイテムを3つ設定し、それぞれのデータ名称に必ず「CCD コード 1」、「CCD コード 2」、「CCD コード 3」と入力します。印刷時に入力されるデータはここで設定するデータ名称により決まります。

- ・「CCD コード 1」・・・コードデータ データ桁数 (12 桁以上)
- ・「CCD コード 2」・・・時間データ データ桁数 (20 桁以上)
- ・「CCD コード 3」・・・URL データ データ桁数 (80 桁)

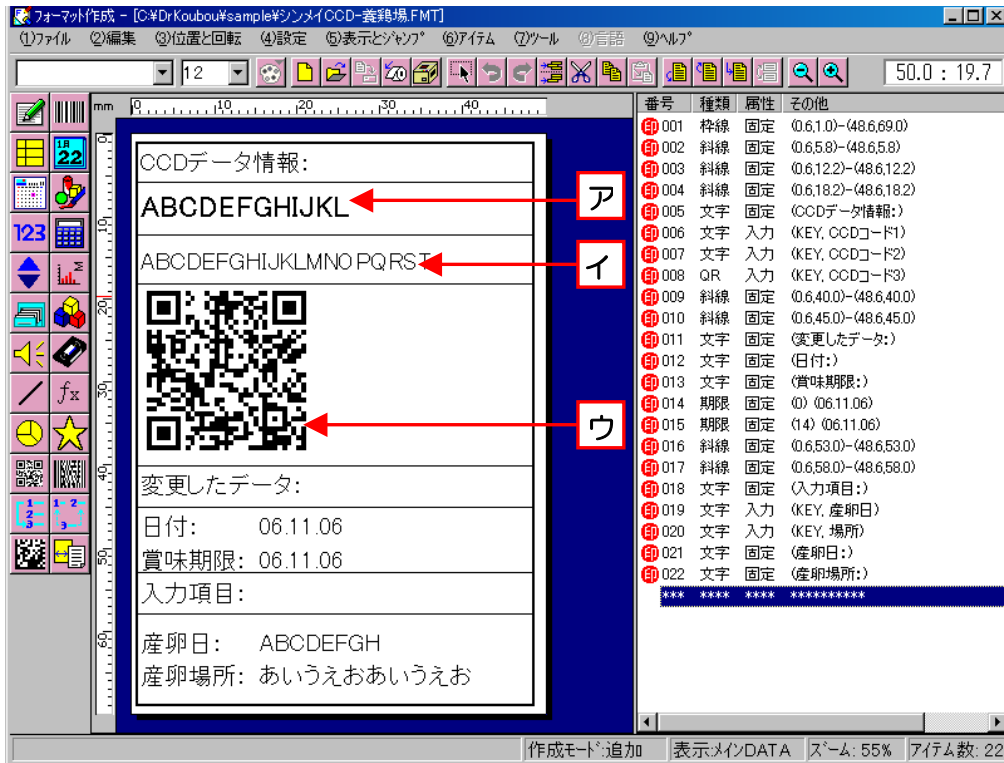
* 「CCD コード 2」の時間データは次の形式の文字列となります。

例 : 2005-11-01 22:38:12

アイテムの設定

では、サンプルフォーマット「シンメイ CCD-養鶏場.FMT」を使って説明します。

(図-①)

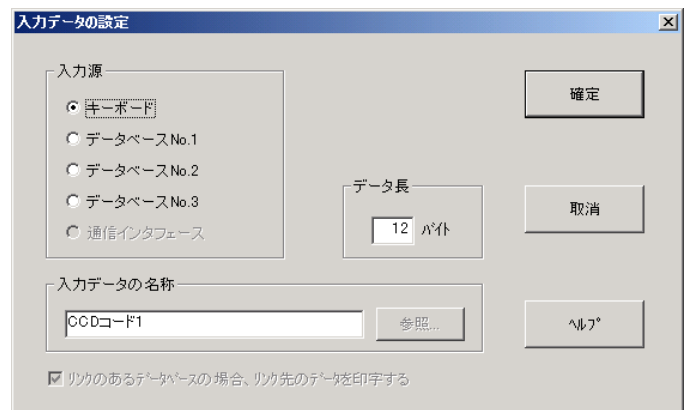


(図-①) の中の「ア」、「イ」、「ウ」は、それぞれアイテムリストの「006」、「007」、「008」です。

006	文字	入力	(KEY, CCDコード1)
007	文字	入力	(KEY, CCDコード2)
008	QR	入力	(KEY, CCDコード3)

「006」、「007」は入力属性の文字列アイテムで、データ名称が「CCD コード 1」、「CCD コード 2」と設定してあります。よって、印刷時に、「ア」には「コードデータ」が、「イ」には「時間データ」が入力されて印字されます。

* データ種類は英文字列・数字列を選択してください。



「008」は入力属性のQRコードアイテムで、データ名称が「CCD コード 3」と設定してあるので、印刷時には、「ウ」は「URL データ」が入力されて印字されます。

フォーマット名に「シンメイ CCD-養鶏場.FMT」と「シンメイ CCD」という文字列が含まれているため、このフォーマットで印刷すると、CCD データがそれぞれのアイテム（「006」～「008」）に入力されて印字されます。

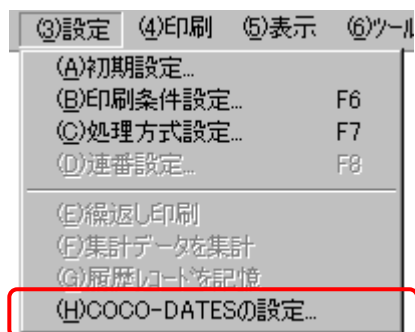
- * フォーマットファイルを保存するフォルダに「シンメイ CCD」を設定すれば、ファイル名に含まなくても良いです。

CCD - DATES の設定

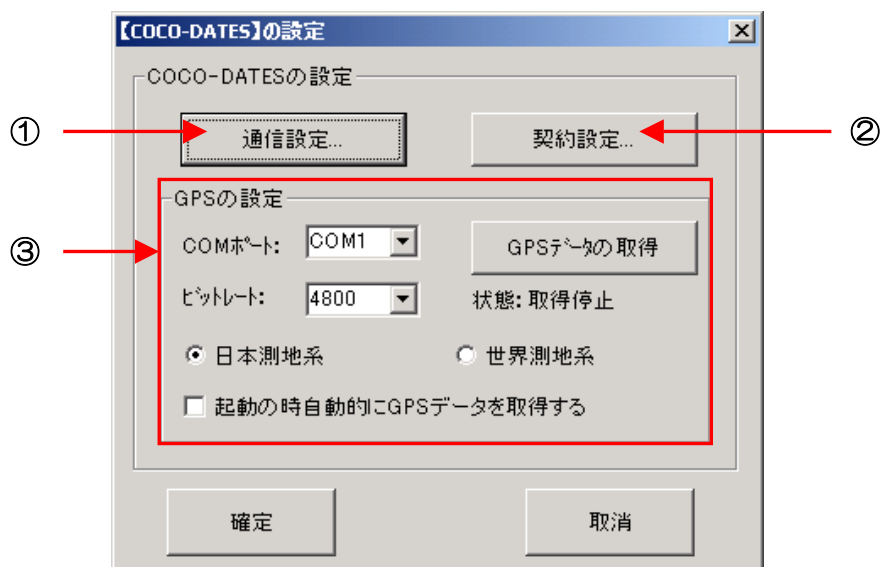
印刷前に、「CCD - DATES の設定」を行います。

1

印刷プログラムのメニュー「(3) 設定」→
「(H) COCO-DATES の設定」を選択します。
「COCO-DATES の設定」ダイアログが表示されます
(図-①)



「COCO-DATES の設定」では、①「通信設定」、②「契約設定」、③「GPS の設定」を行います。



①「通信設定」・・・COCO-DATES センターへ接続する際の URL やプロキシサーバーの設定を行います。

②「契約設定」・・・契約番号、パスワードを指定し、COCO-DATES センターとの認証キーの交換を行い、COCO-DATES を利用するための初期設定を行います。

③「GPS の設定」・・・GPS 利用有／無の指定と、GPS が接続される COM ポート設定、側地系の指定を行います。

2

通信設定...

ボタンをクリックして「通信設定」ダイアログが表示されます。

1. 初期設定 URL、コード取得 URL を入力します。

※ 通常はデフォルトで入力されている URL を変更する必要はありません。

誤った変更を行うと、COCO-DATES センターへ接続できなくなりますので注意してください。

2. プロキシサーバーを使用する場合は、「使用する」にチェックを入れ、サーバー名、ポート番号を入力します。

プロキシサーバーを利用するネットワーク環境の場合、チェックを入れてサーバー（IP アドレスまたはホスト名）、ポート番号を指定してください。

通信設定

初期設定URL:

コード取得URL:

プロキシサーバー

使用する

サーバー: ポート:

OK キャンセル

3. 「OK」ボタンをクリックすると入力した内容が保存されます。

3

契約設定...

ボタンをクリックして「契約設定」ダイアログが表示されます。

1. 契約番号、パスワードを入力します。

2. 契約情報送信ボタンをクリックします。

契約情報送信ボタン

契約設定

契約番号:

パスワード:

COCO-DATESセンターへの契約情報通知

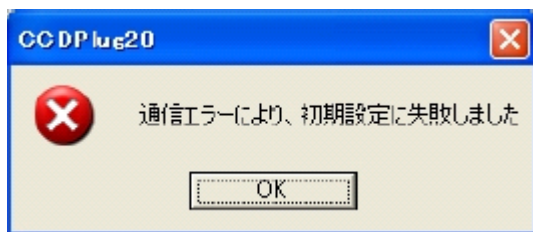
未実行

OK キャンセル

→ 初期設定が成功すると、「COCO-DATES コード発行準備が完了しました」と表示されるので、「OK」ボタンをクリックします。



→ 次のメッセージボックスが表示された場合は、初期設定が失敗しています。



通信エラー

通信の設定に誤りがないか、ネットワークが接続されていないか、確認して修正してください。

- ・ 初期設定 URL の初期値

<https://www.coco-dates.net/CoCoDates/setupclientAction.do>

- ・ プロキシサーバー設定

※ ネットワーク管理者に確認ください。



契約設定エラー

契約設定に誤りがあります。設定を確認して正しい設定を行ってください。

同一契約番号は一度設定したそのパソコンでのみしか利用できません。

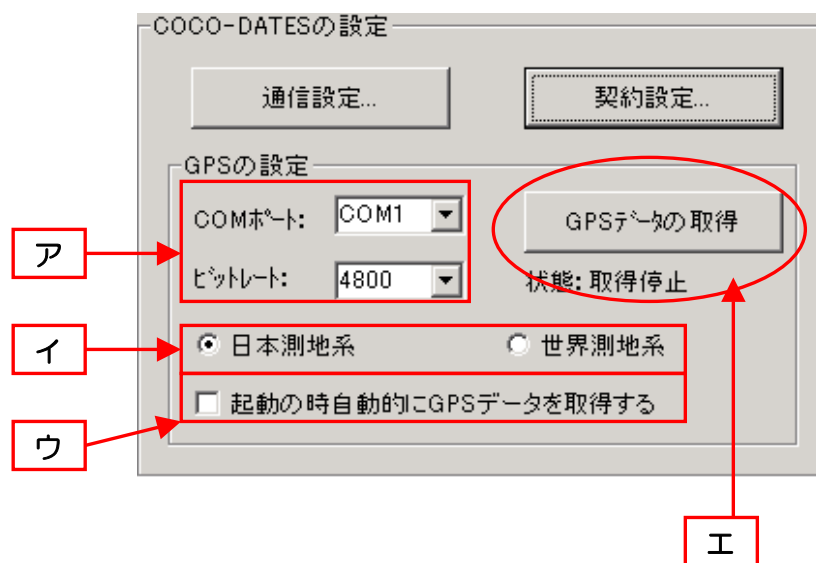
※ 一度、コード印刷設定を行うと、COCO-DATES センターと認証キーの交換を行うため、同一契約番号は、そのパソコン以外では使用できなくなります。

パソコンの故障などで、別のパソコンに再セットアップして利用する場合は、COCO-DATES センターへ問い合わせをしてください。

4

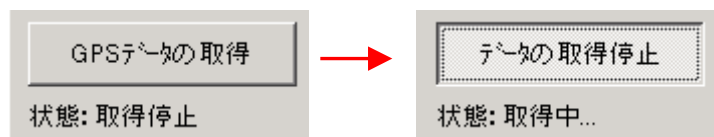
CCD コードを取得する際に、GPS データを使用する場合は、次の手順で「GPS の設定」を行います。

1. GPS アンテナの COM ポート、ビットレートを選択します (図-ア)。
2. 測地系を選択します (図-イ)。
3. 次回印刷プログラムを起動する場合、自動的に GPS データを取得するようにするために、「□ 起動の時自動的に GPS データを取得する」にチェックを入れます。(図-ウ)



4. **GPSデータの取得** ボタンをクリックすると、データ取得のため、GPS 衛星の探索が開始されます。

※データ取得中の表示は右図のようになります。



→ GPS データの取得に成功した場合、状態に「GPS データの取得に成功しました」と表示されます。

→GPS データの取得に失敗した場合、状態は「GPS データの取得に失敗しました」と表示されます。

- ・ GPS 衛星の電波が受信できる環境で使用してください。(窓際、屋外など)
- ・ データ取得までに時間がかかる場合・・・GPS をしばらく使用していない場合や、場所を移動した場合、機種により初期化が必要な場合があります。GPS のマニュアルを参照ください。